

Altova SchemaAgent 2021

ユーザーマニュアル

Altova SchemaAgent 2021 ユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means – graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems – without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

公開日: 2015–2021

(C) 2015–2021 Altova GmbH

目次

1	はじめに	7
1.1	このドキュメントについて.....	9
1.2	システムの必要条件.....	10
1.3	SchemaAgent の主要な機能.....	11
1.4	検索パスの構成.....	13
1.4.1	検索パスの追加と編集.....	15
1.4.2	ファイル拡張子の構成.....	17
1.4.3	検索パスの再ロード.....	18
1.4.4	検索パスのリセット.....	19
1.4.5	構成ファイルのビュー.....	19
2	SchemaAgent チュートリアル	21
2.1	SchemaAgent Client のセットアップ.....	22
2.1.1	LocalServer への接続.....	22
2.1.2	サンプルフォルダーへ検索パスを構成する.....	23
2.2	XML スキーマ間のリレーションシップの作成.....	27
2.2.1	インクルード リレーションシップの作成.....	27
2.2.2	再定義リレーションシップの作成.....	29
2.2.3	インポート リレーションシップの作成.....	30
2.3	XMLSpy を SchemaAgent クライアントとして使用する.....	31
2.3.1	XMLSpy を LocalServer に接続する.....	32
2.3.2	要素をグローバルな複合型にする.....	32
2.3.3	インクルード型.....	33
2.3.4	型の再定義.....	35
2.3.5	再定義型の使用.....	38
2.3.6	インポート型.....	39
2.3.7	XMLSpy のみを使用して型をインクルードする.....	42
2.4	アップデートされたリレーションシップの表示.....	46
2.5	MapForce (.mfd) デザインファイルのビュー.....	48

3	SchemaAgent Server	50
3.1	SchemaAgent Server のインストール.....	51
3.2	SchemaAgent Server の開始.....	53
3.3	SchemaAgent Server の非表示.....	54
3.4	SchemaAgent Server の終了.....	55
3.5	SchemaAgent Server ユーザーインターフェイス.....	56
3.6	サーバーの構成.....	58
3.7	メニューレファレンス.....	60
3.7.1	ファイルメニュー.....	60
3.7.2	表示メニュー.....	60
3.7.3	設定メニュー.....	60
3.7.4	ヘルプメニュー.....	60
4	SchemaAgent Client	62
4.1	SchemaAgent Client のインストール.....	63
4.2	SchemaAgent Client の開始.....	64
4.3	SchemaAgent Client ユーザーインターフェイス.....	65
4.3.1	エクスプローラー ウィンドウ.....	66
4.3.2	概要ウィンドウ.....	67
4.3.3	デザインウィンドウ.....	67
4.3.4	メニューバー、ツールバー、ステータスバー.....	68
4.4	サーバーへの接続.....	70
4.4.1	ローカルでの作業.....	71
4.4.2	ネットワークサーバーへの接続.....	71
4.5	エクスプローラーとの作業.....	72
4.5.1	ファイルとフォルダーの作成.....	72
4.5.2	ファイルとフォルダーの名前の変更.....	74
4.5.3	ファイルとフォルダーの削除.....	75
4.5.4	ファイルの編集.....	75
4.6	デザインウィンドウ内でのファイルの表示.....	76
4.6.1	デザインの作成と保存.....	78
4.6.2	ファイルとフォルダーの挿入.....	78

4.6.3	関連するフォルダーの挿入.....	79
4.6.4	デザイン内でファイルを整理する.....	83
4.6.5	スキーマの表示.....	84
4.6.6	XML インスタンスファイルの表示.....	85
4.6.7	XSL/XSLT スタイルシートの表示.....	87
4.6.8	WSDL ファイルの表示.....	88
4.6.9	リレーションの表示.....	90
4.6.10	関連したコンポーネントの表示.....	97
4.6.11	MFD ファイルの表示.....	100
4.6.12	クイック情報の表示.....	104
4.7	デザインとの作業.....	108
4.7.1	ファイルの選択.....	108
4.7.2	ファイルをデザインから削除する.....	110
4.7.3	ゴーストスキーマと正確ではないパス.....	110
4.7.4	ファイルの再ロード.....	114
4.7.5	デザインオプション.....	114
4.7.6	コネクタのオプション.....	122
4.7.7	デザインの印刷.....	124
4.7.8	デザインをイメージとしてエクスポートする.....	125
4.8	IIR リレーションシップのデザイン.....	126
4.8.1	IIR リレーションの作成.....	126
4.8.2	IIR リレーションシップの移動.....	127
4.8.3	IIR リレーションの削除.....	128
4.9	メニューレファレンス.....	129
4.9.1	ファイルメニュー.....	129
4.9.2	編集メニュー.....	130
4.9.3	表示メニュー.....	131
4.9.4	レイアウトメニュー.....	131
4.9.5	拡張機能メニュー.....	135
4.9.6	ツールメニュー.....	136
4.9.7	ウィンドウメニュー.....	153
4.9.8	ヘルプメニュー.....	154

5 ライセンス情報

159

5.1	電子的なソフトウェアの配布.....	160
5.2	ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測.....	161
5.3	エンドユーザー使用許諾契約書.....	162

インデックス	163
---------------	------------

1 はじめに

Altova SchemaAgent 2021 は複数のスキーマを管理し、視覚的なユーザーインターフェイス内から W3C XML スキーマ間のルーションシップをビルドすることができる Altova の技術です。SchemaAgent は Altova MapForce デザイン (.mfd) ファイルとその関連付けられたスキーマと XSL、または XSLT スタイルシートと WSDL ファイル間のルーションシップの表示をおこないます。XSLT スタイルシートと WSDL ファイルの間のルーションシップと依存関係をビュして変更することができます。



Altova の SchemaAgent テクノロジーは2つのコンポーネントにより構成されています:

- SchemaAgent サーバーはサポートされるファイルをネットワーク上の1つまたは複数の SchemaAgent Client にサーブします。ローカルサーバーは SchemaAgent Client と共にインストールすることができます。また、独立した Altova SchemaAgent Server インストール または サービスとして作動します。
- SchemaAgent Client は、SchemaAgent サーバーによりサーブされるファイルへのアクセスを提供するグラフィカルなユーザーインターフェイスを持つアプリケーションです。。貼り付けとドラッグアンドドロップなどの標準の GUI メカニズムを使用して SchemaAgent Client ユーザーは、ファイル間のルーションシップを簡単にビルドし、複数のファイル間での、バックス参照などの大きな規模の変更を行うことができます

SchemaAgent テクノロジーを Altova XMLSpy® エディター内でも使用することができます。XMLSpy は LocalServer または SchemaAgent Server を持つ SchemaAgent Client と通信します。

Altova 製品範囲内の SchemaAgent

SchemaAgent Server と SchemaAgent Client は、Altova Web サイトの SchemaAgent ダウンロードページから個別にダウンロードし個別にインストールすることができます。SchemaAgent Server を無料で使用することができますが、SchemaAgent Client は Altova から購入するライセンスを必要とします。

Altova® MissionKit™ 2021 Enterprise Edition には SchemaAgent 製品 とライセンスキーが含まれています。SchemaAgent Server アプリケーションは、しかしながら、Altova® MissionKit™ 2021 パッケージの一部として含まれておらず、Altova Web サイトの SchemaAgent ダウンロードページからダウンロードされる必要があります。

SchemaAgent を XMLSpy と使用する場合は、SchemaAgent Client は XMLSpy と同じマシン上にインストールされる必要があります。SchemaAgent Server は、ネットワーク上の様々な場所にインストールすることができます。Altova® MissionKit™ 2021 アプリケーションとは個別に購入された場合 XMLSpy Enterprise Edition と XMLSpy Professional Edition は SchemaAgent を使用することができます。

メモ SchemaAgent、または SchemaAgent> に関連した (XMLSpy> を含む) Altova の製品は、バージョン 2005 リリース 3 から、SchemaAgent、または SchemaAgent に関連した前の製品のバージョンとの互換性を持ちません。

最終更新日: 2021年02月24日

1.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、SchemaAgent テクノロジーのしくみ、SchemaAgent サーバーとSchemaAgent Client の使用方法に関する概要の説明がされています。また、Altova のXMLSpy アプリケーション(Enterprise とProfessional Edition) が SchemaAgent テクノロジーを活用することによりおこなうことのできる、パワフルなスキーマ編集と管理機能の概要の説明がされています。

このドキュメンテーションは以下のパートに整理されています:

- SchemaAgent へのはじめにとそのメカニズム。
- SchemaAgent の主要な機能の概要。
- SchemaAgent のための検索ノブの構成する方法の説明
- SchemaAgent チュートリアル
- インストール、構成、SchemaAgent Server の使用方法の説明。インストール、構成、SchemaAgent Client の使用方法の説明。
- インストール、構成、SchemaAgent Client の使用方法の説明。

ファイルパス

このドキュメント内で提供されているファイルパスは、すべてのオペレーティングシステムで同様ではありません。以下の事項に注意してください:

- **ドキュメントフォルダー:** サンプルファイルは以下の場所に存在します: フォルダー **C:\Users\\Documents\Altova**。
- **アプリケーションフォルダー:** Altova アプリケーションが保存されているフォルダーでアプリケーションフォルダーを見つけることができます(デフォルト、**C:\Program Files\Altova**)。SchemaAgent 32 ビットが64 ビット オペレーティングシステムにインストールされている場合、パスは **C:\Program Files (x86)\Altova** です。

1.2 システムの必要条件

Altova SchemaAgent Client と SchemaAgent Server は次のオペレーティングシステムで動作します:

- プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
- プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 または以降

32ビット および64ビットプラットフォームがサポートされています。

1.3 SchemaAgent の主要な機能

SchemaAgent Server は、スキーマIIR（インクルード、インポート、と再定義）を作成、更新、または削除するためのクライアントのリクエストを処理し、クライアント-サーバー通信を管理します。また、すべてのファイルベースの操作を処理します：作成、削除、移動、および名前の変更。

インストールのオプション

SchemaAgent Server を GUI を持つスタンドアロンアプリケーションとして、または、インタラクティブな、または、インタラクティブではないサービスとしてインストールすることができます。

グラフィカルなユーザーインターフェイス

SchemaAgent Server の視覚的なユーザーインターフェイス (GUI) は現在接続されているクライアントとすべての定義済み検索ノードのリストを含む環境情報を提供します。環境ウィンドウは、階層型ツリー構造としてのすべての定義済み検索ノードとスキーマ、MFD、XML、XSL/XSLT、と WSDL ファイル、のためのすべての定義済みファイル拡張子を表示します。また、エクスプローラー型ブラウザー機能を使用して使用が簡単な検索ノードの選択を表示します。SchemaAgent Server の右側のエリア内のメインウィンドウは、検索ノード内で検索されたファイルの拡張子の定義を持つすべてのファイルを表示します。

ログ機能

ユーザーインターフェイスは詳細な通信アクティビティを表示するログウィンドウを提供します。ログレポートを構成することができ、CSV ファイルに書き込むことができます。

Web 上でのスキーマへのアクセス

SchemaAgent Server により UNC ノードドライブ文字を持つ安全な WebDAV サーバー上の WebDAV フォルダー内に存在するスキーマにアクセスできるようになります。

SchemaAgent Client はスキーマレゾリューションをビューし構築し、多数のスキーマを管理するグラフィカルなユーザーインターフェイスを提供します。MapForce デザインファイルと関連したスキーマ間のレゾリューションをビューすることができます。

SchemaAgent デザイン

スキーマデザインは、スキーマレゾリューションを直感的に整理する手伝いをします。これらのデザインを後で編集するために SchemaAgent デザインファイルとして保存することができます。作成、アップデート、または、ドラッグアンドドロップを使用して、SchemaAgent デザイン内で直接操作することによりスキーマ間の IIR（インクルード、インポート、と再定義）を作成、アップデートまたは、削除をすることができます。SchemaAgent デザイン内で IIR レゾリューションが作成されると、そのレゾリューションは、関連したスキーマ (XSD) ファイルと関連付けられたスキーマファイル内に物理的に書き込まれます。レゾリューションへの変更を元に戻すには、SchemaAgent デザインを必要に応じて編集する必要があります。

XSLT スタイルシートのために、SchemaAgent Client により、インポートとインクルードを作成し、既存のインラインのスキーマを作成し表示することができます。

デザインウィンドウは、WSDL ファイルのエントリを確認できる箇所で、WSDL ファイルを表示し、内部のスキーマとすべてのメッセージ、ポートの種類、バインド、およびサービスを表示します。XML スキーマ、または、異なる WSDL ファイルをインポートすることも可能です。

ファイルの管理

ファイルの名前が変更、または、ファイルが移動されると、変更されたファイルを参照するワークスペース内のすべての他のファイルに変更が反映されます。利点は個別のファイルをそれぞれ編集することなく、SchemaAgent Client GUI 内で複数のファイルを管理できることです。

構造とルーションの表示

デザインウィンドウ内では、MFD ファイルとそのソースとターゲットスキーマ、ソースとターゲットスキーマに関連したすべてのスキーマ間のルーションシップの視覚的なビューを取得することができます。IIR をすくひ確認することができます、スキーマコンポーネントの詳細と要素と複合型などのスキーマコンポーネントの詳細な構造も表示されます。

XML インスタンス、XSLT スタイルシートとW SDL ファイルにもこれを適用することができます。これらのファイルのそれぞれのために、デザインウィンドウ内で、SchemaAgent Client はファイルボックスを表示します。これらのファイルボックスは、特定のファイルのためのすべての関連した情報が含まれ、データの詳細をビューするために展開する折りたたまれたセクションに整理されています。

関連するフォルダーの挿入または選択

SchemaAgent Client は、ファイルボックスを選択する、または、ワークスペース内で他のファイルを参照するファイルを挿入する複数のオプションを提供します。

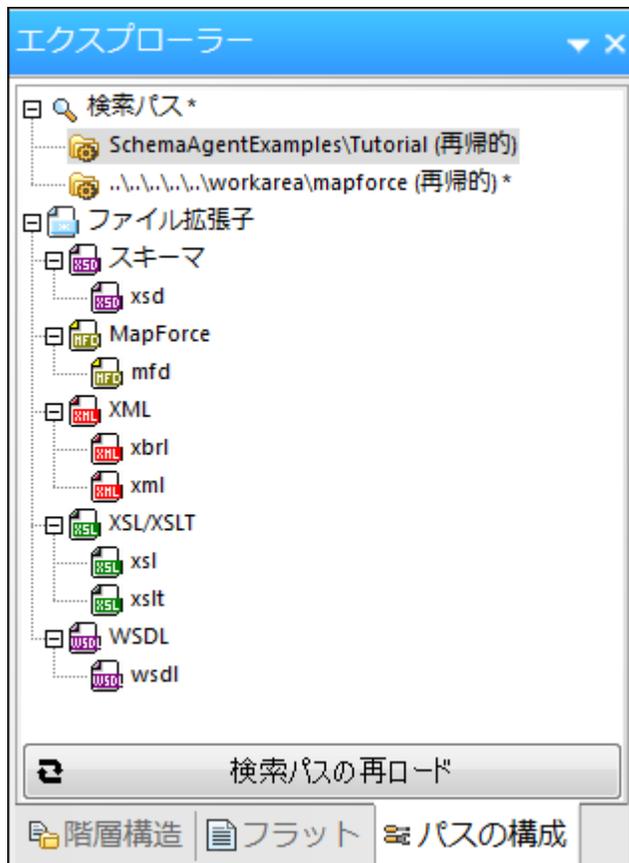
XMLSpy との統合

SchemaAgent との作業のためにセットアップされている場合、Altova のXMLSpy には、スキーマを編集するための、フルな編集機能が搭載されています。XMLSpy のスキーマW SDL ビュー内でスキーマが編集されると、SchemaAgent Server > 内のすべてのスキーマのコンポーネントの検索パスは入力ヘルパー内リストされ、編集されているスキーマ内で変更し、再利用することができます。作成された、または、スキーマW SDL ビュー内で変更されたIIR に関する情報は関連付けられたスキーマに書き込まれます。

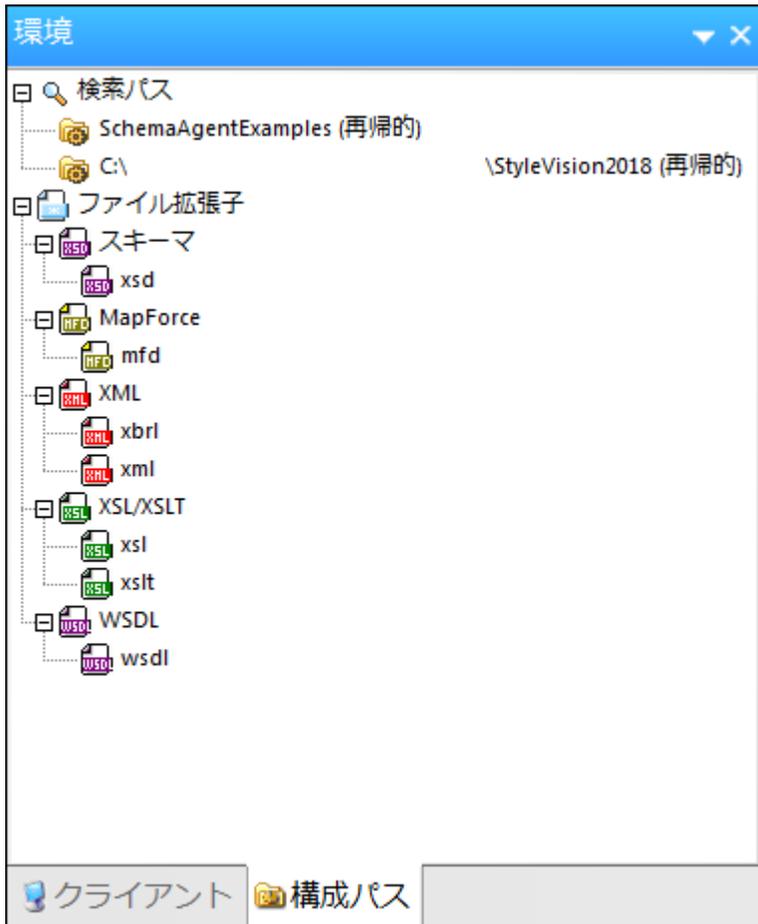
1.4 検索パスの構成

検索パスはXMLスキーマ、MapForce デザイン(MFD)ファイル、とXMLファイルのためにスキヤンされているパス、またはフォルダーです。SchemaAgent インストールにより、SchemaAgent Client、または、SchemaAgent Server のパスの構成タブ内の検索パス(すなわち、追加、編集、または、削除)を構成することができます。

LocalServer と作業する場合、パスの構成タブはSchemaAgent Client アプリケーションのエクスプローラーウィンドウ内の追加のタブとして表示されます。



SchemaAgent Server がローカル、または、ネットワーク内にインストールされている場合、パスの構成タブはSchemaAgent Server の環境ウィンドウ内に表示されます。SchemaAgent Server に接続されている場合、SchemaAgent Client 内のエクスプローラーウィンドウでのパスの構成タブは存在しません。



ロケーションと別々に、パスの構成タブは上記の両方のケースで同様です。

検索/パスの考慮する点

SchemaAgent のインストールのロケーションにより、特定のファイルへのアクセスとパスの制約が適用される場合があります。ネットワークシェア上のスキーマにアクセスする場合、SchemaAgent アプリケーションにアクセスするための正確なパーミッションが存在することを確認してください。

ファイルシステムのサポートは以下のとおりです:

- UNC /パスがサポートされています。スキーマ/パスはUNC /パス、または、相対/パスであることができ、スキーマ内にUNC /パス、または、相対/パスを含むことができます。
- WebDAV フォルダがサポートされています。ロケーション/パスは WebDAV フォルダ、または、相対/パスであることができ、スキーマ内での参照は WebDAV フォルダ、または、相対/パスを含むことができます。
- FTP 接続がサポートされています。ファイルへFTP を使用して直接アクセスすることができます。
- マップされたドライブがサポートされています。検索/パス内でドライブ文字が使用されている場合、SchemaAgent クライアントをホストしているマシンは同じ共有されたフォルダにマップされているドライブ文字を有する必要があります。
- ローカルのドライブ/ディレクトリは直接サポートされません。ネットワークとLocalServer 上の検索/パスがネットワークの共有を使用するように構成され、ローカルのディレクトリが共有されている場合、ローカルのディレクトリ、または、リソースへのアクセスは可能です。

1.4.1 検索パスの追加と編集

SchemaAgent Client 内のファイルと作業する前に、エクスプローラーウィンドウの階層型とタブ内に表示されている検索パスの1つにファイルが含まれている必要があります。SchemaAgent Client の外部からファイルを開くこと、または、デザインウィンドウ内ドラッグすることはできません。

メモ 下記のプロセスはSchemaAgent Client とSchemaAgent Server 内の環境ウィンドウ内のエクスプローラーウィンドウ内のパスの構成タブに適用することができます。接続済みのSchemaAgent インストールとサーバーはそれぞれ、表示されるウィンドウの構成タブを決定します。

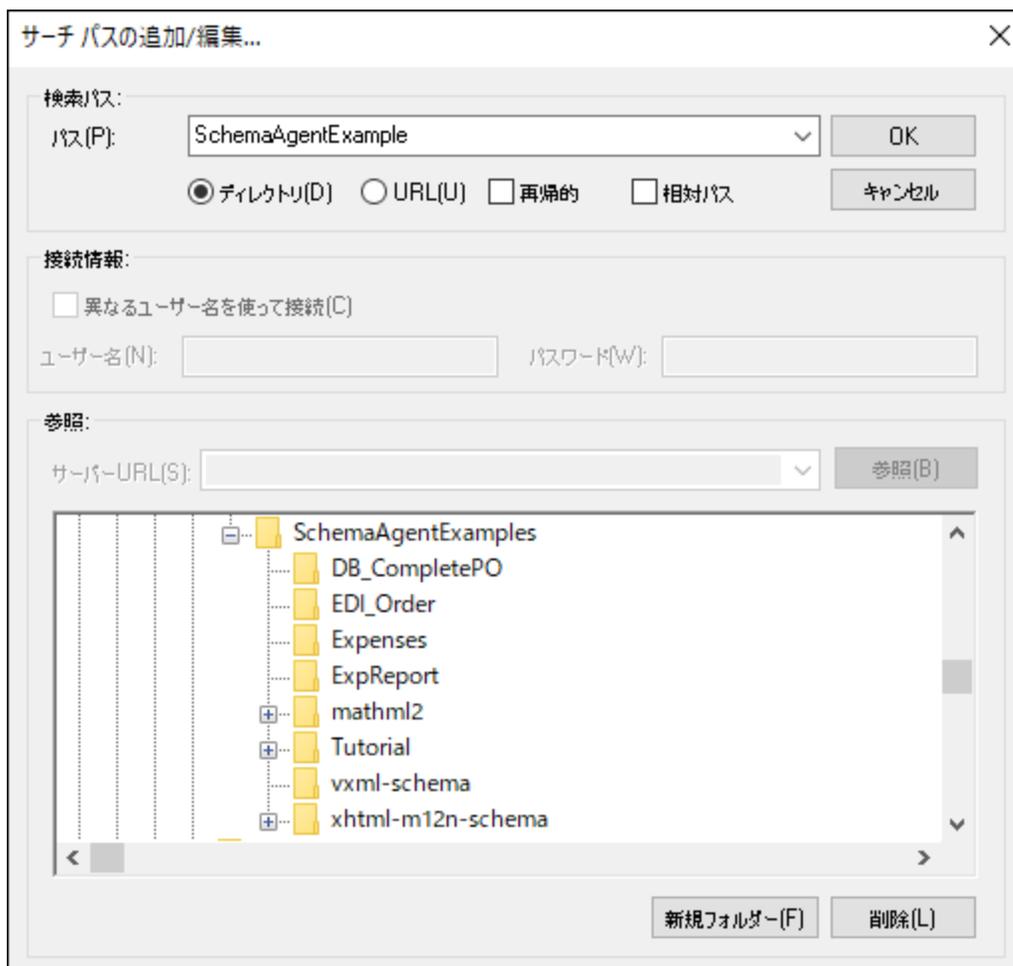
相対パス

SchemaAgent 内では、構成ファイルの場所に相対させて検索パスを表示するように定義できます。これにより、フォルダーの構成が複雑な場合、短い検索パスを使用することができます。SchemaAgent LocalServer> 各ユーザーは、`..*\ドキュメント\Altova\SchemaAgent LocalServer2021` 内に個別の構成ファイルを有することご注意ください。

検索パスの追加または編集方法:

1. SchemaAgent アプリケーションのパスの構成タブ内で、以下の内の1つを行ってください。
 - 検索パスを追加するには、検索パスフォルダーを右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスの追加」を選択します。フォルダーをクリックして、「挿入」キーを押します。
 - 検索パスを編集するには、既存の検索パスの1つを右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスの編集」を選択します。

「検索パスの追加/編集」ダイアログボックスが開かれます。



2. 検索パスグループボックス内で、検索パスがディレクトリ、または、URL であることを選択します。
 - a) ディレクトリオプションを選択し、パステキストボックスに検索パスを入力します。または、「参照」をクリックして必要とされるディレクトリを参照します。パステキストボックス内に入力されたディレクトリを選択します。
 - b) 検索パスエントリを相対的にするために相対的パスチェックボックスを選択します。絶対パスを使用するためにチェックボックスのチェックを解除したままにします。

検索パスがURL の場合、以下を行います:

- a) URL オプションを選択してサーバーURL テキストボックス内にサーバーURL を入力します。
 - b) 認証が必要な場合、識別グループボックス内で、「異なるユーザー名を使用して接続」チェックボックスを選択して、ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c) 適用可能な場合 参照 をクリックしてサーバー上の必要なディレクトリを選択します。
3. 選択されたディレクトリのサブディレクトリを検索する場合、「再帰的」チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていない場合、サブディレクトリは検索されません。
 4. 「OK」をクリックします。

検索パスの削除方法:

1. それぞれの SchemaAgent アプリケーションパスの構成タブ内で、削除するパスを選択し、以下の内の一つを行ってください!

- 右クリック、コンテキストメニューから「検索パスを削除」を選択します。
 - 「削除」キーを押します。
2. 表示されるメッセージボックス内の「はい」をクリックします。

1.4.2 ファイル拡張子の構成

デフォルトで、SchemaAgent Client は、エクスプローラーウィンドウの階層型とタブ内の次のファイル型を表示します:

- W 3C XML スキーマ
- MapForce デザインファイル
- XML ファイル
- XSL と XSLT スタイルシート
- Web サービス記述言語 (WSDL) ファイルチュートリアル

パスの構成タブ内のファイル拡張子フォルダには、従って、以下の5つのサブフォルダが存在します。スキーマ、MapForce、XML、XSL/XSLT、とWSDL。サブフォルダにはそれぞれに対応するフォーマットのための一般的な拡張子が含まれています。サポートされるファイルのために追加のファイル拡張子を定義することができます。

ファイル拡張子の追加方法:

1. 相対する SchemaAgent アプリケーションのパスの構成タブ内で、ファイル拡張子フォルダのサブフォルダの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリック、コンテキストメニューから「ファイル拡張子の追加」を選択します。
 - 「挿入」キーを押します。
2. それぞれのフォルダに「newextension」という名前のエントリが追加され、編集のために選択されます。

 検索パスの再ロード

 ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。
3. 希望するファイル拡張子を入力し「Enter」を押します。
4. 「検索パスの再ロード」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウ内で新規に追加されたファイル拡張子を持つファイルを表示します。

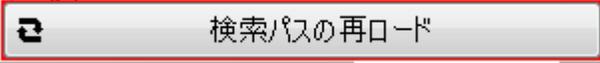
ファイル拡張子の編集方法:

1. 相対する SchemaAgent アプリケーションのパスの構成タブ内で、ファイル拡張子フォルダのサブフォルダの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリック、コンテキストメニューから「ファイルの拡張子の編集」を選択します。
 - 「F2」を押します。
 ファイル拡張子の名前が編集のために選択されます。
2. ファイル拡張子の名前を必要に応じて編集し、「Enter」を押します。

 検索パスの再ロード

 ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。
3. 「検索パスの再ロード」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウ内で変更されたファイル拡張子を持つファイルを表示します。

ファイル拡張子の削除方法:

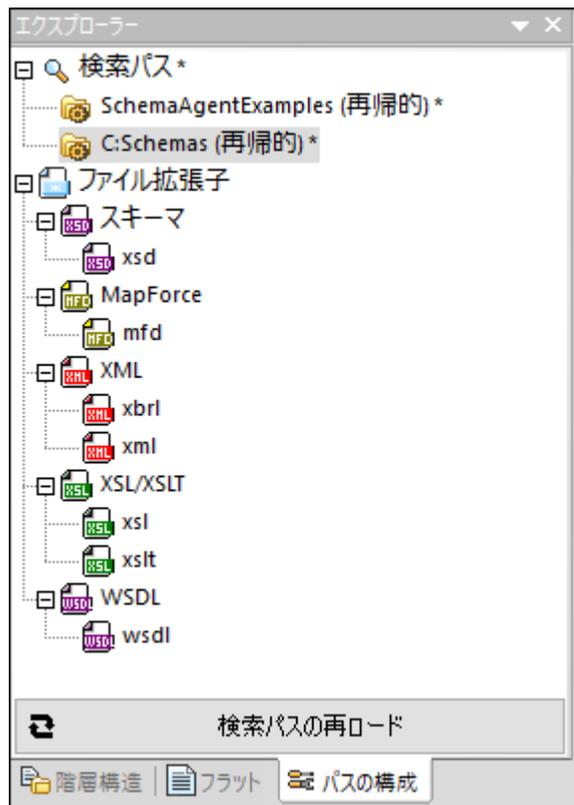
1. 相対する SchemaAgent アプリケーションの **パス**の構成タブ内で、ファイル拡張子フォルダのサブフォルダの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください。
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「ファイルの拡張子の削除」を選択します。
 - 「削除」を押します。
2. 表示されるメッセージボックス内の「はい」をクリックします。 ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。
3. 「検索パスの再ロード」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウから削除されたファイル拡張子を持つファイルを削除します。

1.4.3 検索パスの再ロード

検索パスの再ロード コマンドは検索パスを更新し現在定義されている検索パスを保存します。SchemaAgent の外部でファイルが変更される、または検索パス構成が変更されるとこのコマンドを実行する必要があります (例えば、新規検索パスが追加されるなどの場合)。検索パス、または、ファイル拡張子が追加、編集、削除された後、検索パスの右側にアスタリスクが表示されます。ファイル拡張子と検索パスの再ロード ボタンはパスの構成タブの下に表示されます。これは検索パスが更新される必要があることを示しています。

検索パスをインポートするには、以下を行います:

- エクスプローラーウィンドウ内で構成パス タブをクリックして、検索パスの再ロードをクリックします。



- 検索パスの再ロード  ツールバーボタンをクリックします。
- その他 メニューで検索パスの再ロードをクリックします。

1.4.4 検索パスのリセット

検索パスのリセット コマンドは最後に保存された設定への検索パスをリセットします。(検索パスを再ロードせず)これは検索パスの構成に変更を加える際に通常役に立ち、何らかの理由で変更をも一度に戻す際にも役に立ちます。

検索パスをリセットする方法:

1. エクスプローラーウィンドウ内で構成パスタブをクリックします。
2. ウィンドウ内を右クリックし **検索パスのリセット** をコンテキストメニューから選択します。

1.4.5 構成ファイルのビュー

LocalServer、または SchemaAgent Server により管理されるサポートされるファイルのセットはそれぞれデフォルトでドキュメントフォルダー内に保管される SchemaAgentServerCfg.xml という名前のファイル内で定義されています。

このファイルは検索パスとスキーマファイルのためにスキャンされるパス、または、フォルダーを定義します。SchemaAgentServerCfg.xml ファイルは以下ようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SearchPaths XMLSchema=".xsd" MapForce=".mfd" XML=".xbrl,.xml" XSL=".xsl,.xslt"
WSDL=".wsdl">
  <Path recursive="1" user="" auth="000000">s:\schemas-mydir\</Path>
  <Path recursive="0" user="" auth="000000">X:\schemas\</Path>
  <Path recursive="1" user="" auth="000000">http://test.webdav.org/dav</Path>
  <Path recursive="1" user="" auth="000000">\\Server1\Share1\Dir1\SchemaData</Path>
  <Path recursive="1" user="jsmith" auth="k04EKS">ftp://myftpserver</Path>
</SearchPaths>
```

定義することのできる検索パスの数量には制限が無く、検索パスはローカルマシン、ネットワークパス(マップされたドライブ文字とUNCパス)、とWebDAVサーバーとFTPアクセス上のフォルダー上のパスを含むことができます。

検索パスの定義後、LocalServer、または、SchemaAgent Server はそれぞれ個別の検索パス内のファイルの拡張子の定義を取得し、検索パス内でサポートされるファイル間のルーションシップの内部マップをビルドします。SchemaAgent クライアントがファイルのルーションシップについてデータを表示するようにするルーションシップのマッピングが視覚的に表示されます。更に、このマッピングはIIR、または、ファイル操作への変更がSchemaAgent クライアント内で行われると、検索パス内で関連付けられたファイル内でこのような変更を自動的に更新できるようにするマッピングでもあります。

2 SchemaAgent チュートリアル

このチュートリアルではW3C XMLスキーマの短い概要が与えられており、SchemaAgentの機能をフルに活用するための複数のタスクについての説明がされています。以下について学習します。

- SchemaAgent Clientの正確なセットアップする方法。
- XMLスキーマ間のルーションシップであるインクルード、インポート、と再定義を作成する方法。
- インクルード、再定義、とインポート型
- XMLSpyのみを使用して型をインポートする方法
- 更新されたルーションシップをビューする方法
- MapForce デザイン(MFD) ファイルをビューする方法

インストールと構成ファイル

このチュートリアルは、使用中のコンピュータにSchemaAgentが成功裏にインストールされており、無料の評価キーコードを受信済み、または、登録済みのユーザーであることが前提とされています。SchemaAgentの評価バージョンは、全ての機能を使用することができますが、トライアル期間は30日間です。安全なWebサーバーから標準のライセンスをリクエストすることができます。または、販売店で購入してください。

チュートリアルサンプルファイル

チュートリアルファイルはDocuments\Altova\SchemaAgentLocalServer2021\SchemaAgentExamples\Tutorialフォルダー内で見つけることができます。親サンプルフォルダーには、実験するための多種のXMLスキーマおよびこのチュートリアルで使用される全てのファイルはチュートリアルフォルダー含まれています。各Windowsユーザーアカウントのために、個別のサンプルフォルダーと構成ファイルがSchemaAgentが最初に起動された時で作成されます。これにより、コンピュータ上の各ユーザーは個別のSchemaAgent検索パスとサンプルファイルを持つことができます。

2.1 SchemaAgent Client のセットアップ

このチュートリアル内では、SchemaAgent Client により自動的にインストールされる LocalServer と作業します。XML スキーマ間のリレーションシップを作成するために使用するために SchemaAgent Client を使用前に LocalServer に接続する必要があります。

SchemaAgent と作業するには、少なくとも1つのフォルダーへのパスを構成する必要があります。SchemaAgent サーバー上に構成されたパスは保管されます(この場合、LocalServer)。SchemaAgent Client を使用してこれらのパス内の既存のスキーマ間のリレーションシップを作成します。XMLSpy を使用して、後で完成することのできる新規のスケルトンXML スキーマを作成することもできます。

目標

チュートリアルこのセクションでは、サーバーに接続し、検索パスを定義する方法について学習します。具体的には、以下の方法について学習します:

- LocalServer に接続するために SchemaAgent Client を開始します。
- このチュートリアルのためのサンプルを含むフォルダーへの検索パスを構成します。

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアルこのセクションでは、エクスプローラーウィンドウが積極的に使用されます。次のコマンドが使用されます:

アイコン	コマンド名	説明
	サーバーへの接続	このアイコンは「拡張機能」ツールバーにあります。このアイコンをクリックして、接続するサーバーを選択することのできる「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスを開きます。
	検索パスの追加	このコマンドは、エクスプローラーウィンドウのパスの構成タブを右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内にあります。このコマンドを選択し、現在のSchemaAgent サーバーに新規の検索パスを追加します。
	検索パスの再ロード	このアイコンは「拡張機能」ツールバーに存在し、検索パス内に変更が反映されると、エクスプローラーウィンドウの下に  ボタンが表示されます。

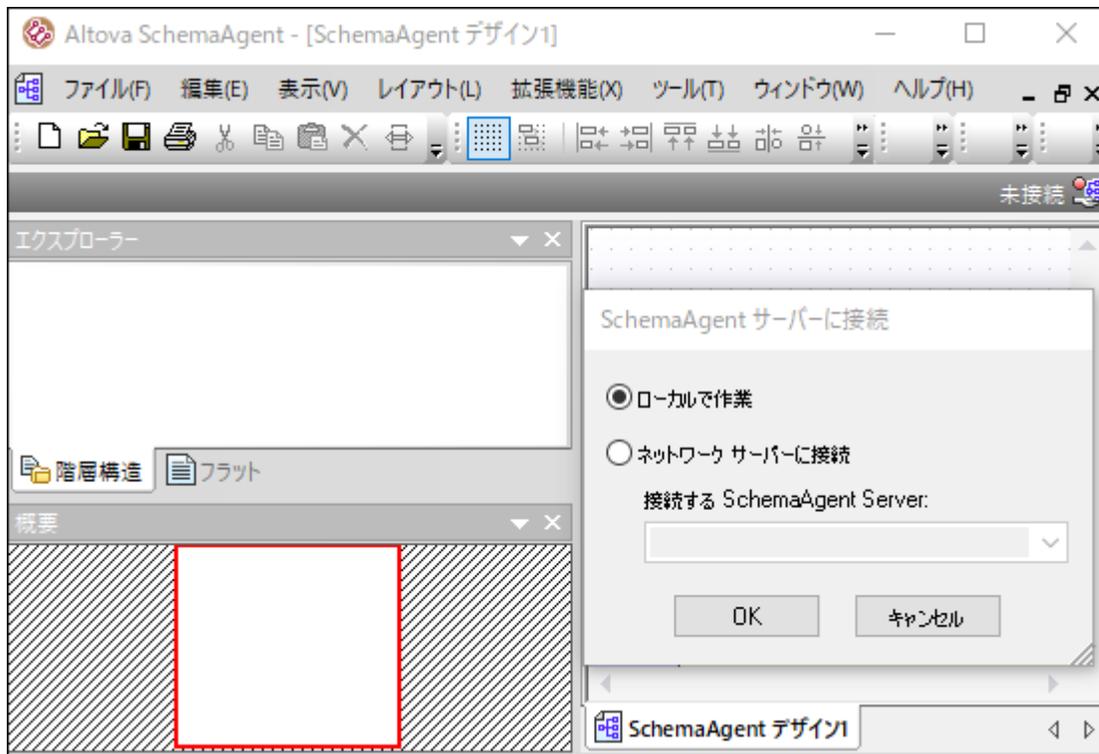
2.1.1 LocalServer への接続

SchemaAgent Client をインストールする場合、クライアントとLocalServer がインストールされます。このチュートリアルのスコープのために(ローカルネットワーク上のサーバーとは区別して) LocalServer への接続を作成します。

LocalServer に接続する方法:

1. 以下の一つを行います:
 - SchemaAgent アイコンをデスクトップ上でダブルクリックします。
 - 開始  をクリックしてプログラムのショートカットにアクセスするために [SchemaAgent] を入力します。

- プログラムが既に動作している場合、メニューオプション「拡張機能 | サーバーへの接続」を選択、または「拡張機能」ツールバーから「サーバーへの接続」  ツールボタンをクリックします。SchemaAgent Server (接続 ダイアログボックス)が表示されます。



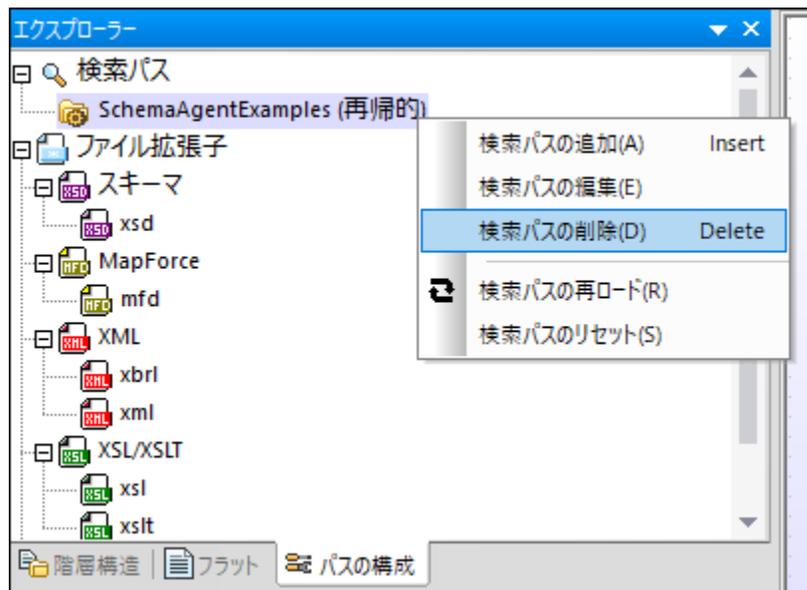
2. ローカルで作業 を選択します。[OK] をクリックします。

2.1.2 サンプルフォルダーへ検索パスを構成する

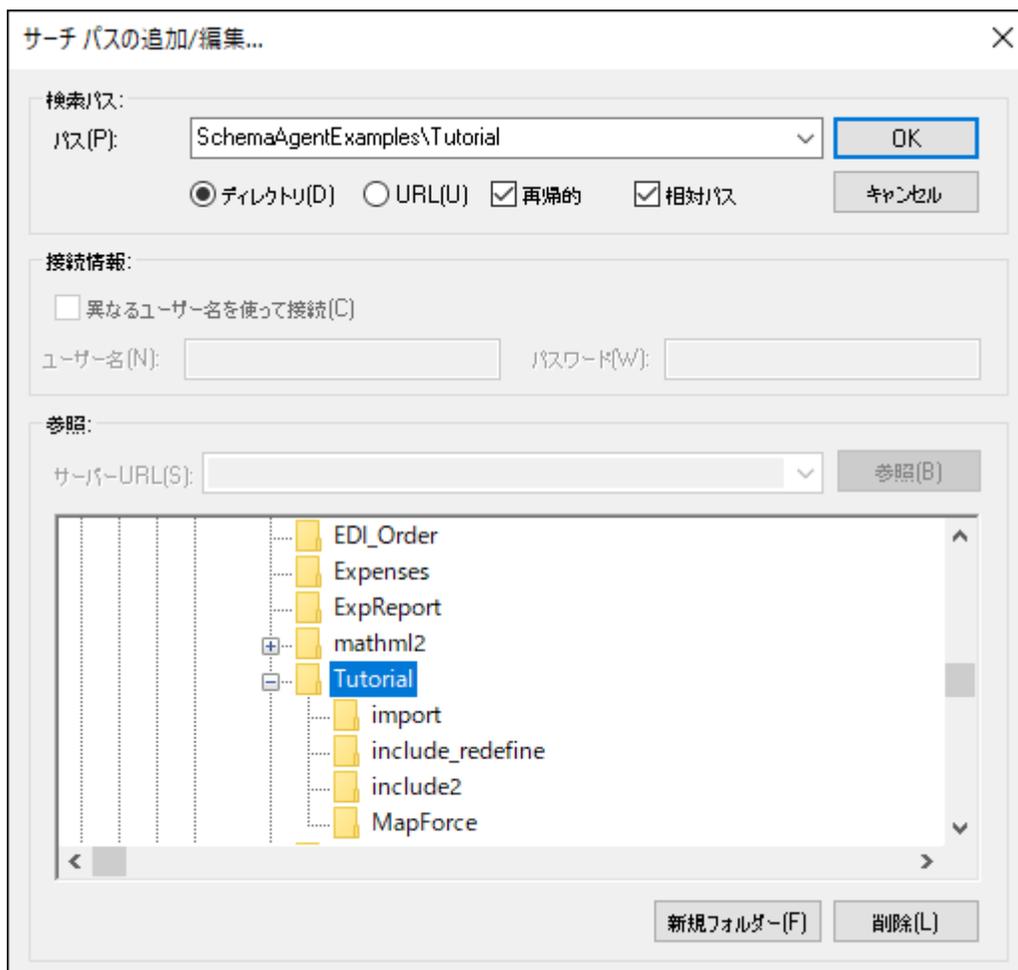
このセクションでは、このチュートリアルで使用されているファイルを含むフォルダーへのパスを構成します。SchemaAgent Client は、エクスプローラーウィンドウの階層型とフラットタブ内の検索パスを表示します。

チュートリアルフォルダーへの検索パスの構成方法

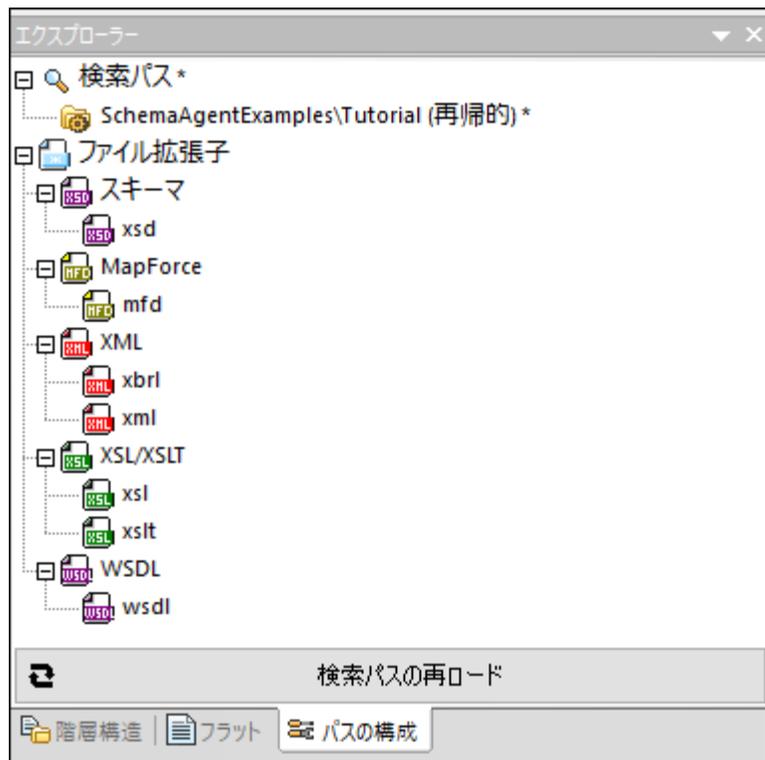
1. SchemaAgent Client のエクスプローラーウィンドウ内で、「パスの構成」タブをクリックします。
2. インストール中にデフォルトで追加された既存の検索パスを右クリックし、検索パスの削除 をコンテキストメニューから選択します。



3. エクスプローラーウィンドウ内を右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスの追加」を選択します。または、エクスプローラーウィンドウ内で検索パスエントリを選択し、「挿入」キーを押します。「検索パスの追加/編集」ダイアログボックスが開かれます。



4. ディレクトリを選択し 再帰的 チェックボックスの下にサブフォルダーも表示されるように選択します。
5. ダイアログボックスの下の部分からディレクトリツリーを使用して、以下のディレクトリにナビゲートします:
Documents\Altova\SchemaAgent LocalServer2021\SchemaAgentExamples\\Tutorial.
6. 任意で、パスが長い場合、相対的パス チェックボックス を選択します。
7. 「OK」をクリックします。エクスプローラーウィンドウ内に検索パスが表示されます。



8. 検索パスの再ロード ボタンをクリックします。操作が完了すると、検索パスの横のアスタリスクが非表示になります。これは新規の検索パスが保存済みであることを意味しています。

2.2 XML スキーマ間のリレーションシップの作成

このセクションでは、インクルード、再定義、とインポート スキーマ間のリレーションシップを作成するために SchemaAgent Client を使用します。具体的には、以下の方法について学習します:

- SchemaAgent Client のデザインビュー内のスキーマの表示方法
- 2つのスキーマ間にインクルード リレーションシップを作成する方法
- 2つのスキーマ間に再定義リレーションシップを作成する方法
- 2つのスキーマ間に異なる名前空間 を使用してインポート リレーションシップを作成する方法

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアルはこのセクション内では、デザインウィンドウのみを使用します。以下のコマンドが使われます:

アイコン	コマンド名	説明
	新規 (Ctrl+N)	このアイコンは標準ツールバー内に存在し、ファイルメニュー内のオプションとして使用することができます。新規のデザインウィンドウを開くためにこのコマンドを使用します。

2.2.1 インクルード リレーションシップの作成

このセクションでは以下のフォルダーからのスキーマ間にインクルードリレーションが作成されます

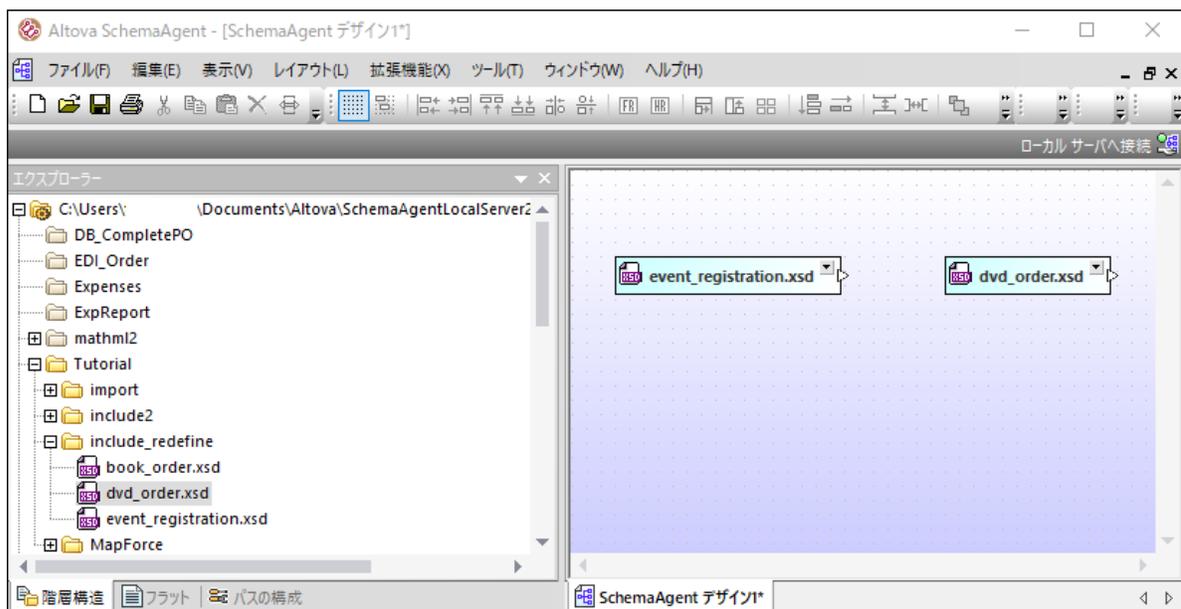
SchemaAgentExamples\Tutorial\include_redefine フォルダー:

- **event_registration.xsd**: このスキーマはスポーツイベントに登録した参加者に関する情報を含むように構成されています。イベントには参加費がかかるため、このスキーマ内でクレジットカード情報のための型も含まれています。
- **dvd_order.xsd**: このスキーマはDVD のメールオーダーのための詳細と顧客の配送住所のための詳細を含むように構成されています。

目的は **dvd_order.xsd** が **event_registration.xsd** からの型、具体的には顧客とクレジットカードの情報、を含むようにすることです。

デザインウィンドウ内でスキーマを表示する方法:

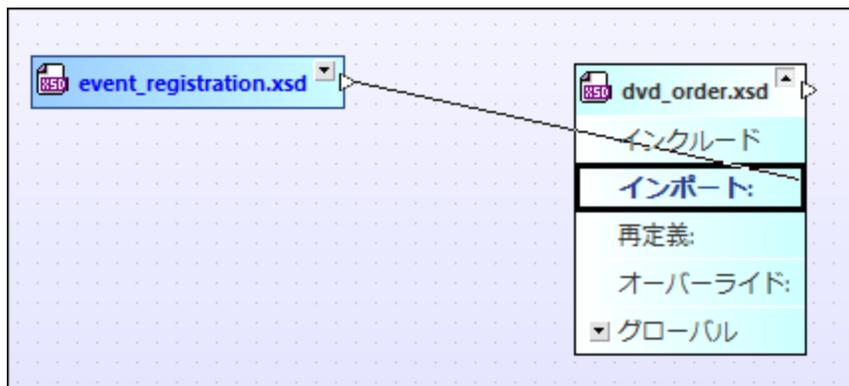
1. メニューオプション [ファイル] **新規** を選択し、または [新規]  アイコンをクリック、または **Ctrl+N** を押してデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラーウィンドウ内で階層 タブをクリックします。
3. **event_registration.xsd** と **dvd_order.xsd** を include_redefine" フォルダーから選択しドラッグして新規のデザインウィンドウドロップします。



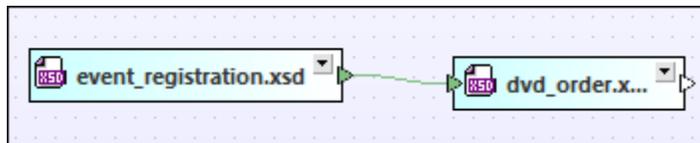
メモ 同時に2つ以上のファイルをドラッグアンドドロップする場合は、**Ctrl** キーを押しながらファイルをクリックします。含まれているすべてのファイルをデザインウィンドウ内に配置するため、フォルダをドラッグアンドドロップします。

インクルードリレーションシップの作成:

1. `event_registration.xsd` の右側の小さな白色の三角形をクリックし、接続線を `dvd_order.xsd` にドラッグします。



2. マウスボタンを文字「インクルード」の上でリリースします。`event_registration.xsd` から `dvd_order.xsd` を指す青色の矢印が表示されます。



この矢印はこれらのスキーマ間にインクルード リレーションシップが作成されたことを示しています。

2.2.2 再定義リレーションシップの作成

このセクションでは以下のフォルダーからのスキーマ間に再定義リレーションシップが作成されます
SchemaAgentExamples\Tutorial\include_redefine フォルダー:

- **event_registration.xsd**
- **book_order.xsd**: このスキーマは書籍メールオーダーのオプの詳細を含むように構成されています。

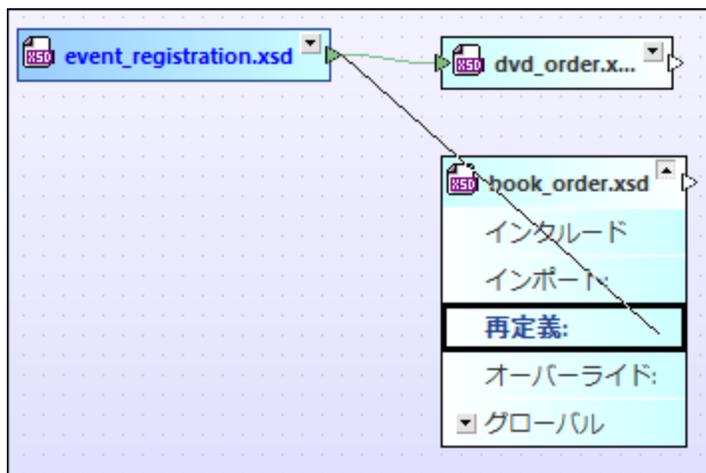
目的は **book_order.xsd** が **event_registration.xsd** からの型、具体的には顧客とクレジットカードの情報を再定義することです。

スキーマの再定義はスキーマ間に明示的なインクルードリレーションシップを作成し、参照されているスキーマ内のすべての要素にアクセスできるようにします。参照されるスキーマの個別のエポネントを再定義 (例えば、制限を拡張) することができます。

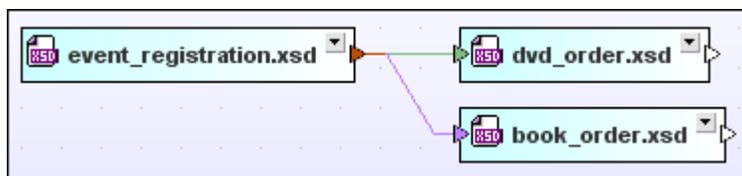
メモ SchemaAgent Client 内では再定義リレーションシップのみがスキーマ間で作成されます。個別のエポネントの実際の定義を XMLSpy 内で行うことができます。

再定義リレーションシップの作成:

1. エクスプローラーウィンドウ内で **book_order.xsd** を **include_redefine** フォルダーから選択しファイル **event_registration.xsd** と **dvd_order.xsd** を既に含んでいるデザインウィンドウ内にドラッグします。
2. **event_registration.xsd** の右側の小さな緑色の三角形をクリックし、接続線を **book_order.xsd** にドラッグします。



3. マウスボタンを文字「再定義」の上でリリースします。 **event_registration.xsd** から **book_order.xsd** を指す紫色の矢印が表示されます。



この矢印はこれらのスキーマ間に再定義リレーションシップが作成されたことを示しています。 **event_registration.xsd** ファイルボックス内の三角形の色はこのファイルボックス内に存在する異なる型のリレーションシップを示すため変更されることにご注意してください。

2.2.3 インポート リレーションシップの作成

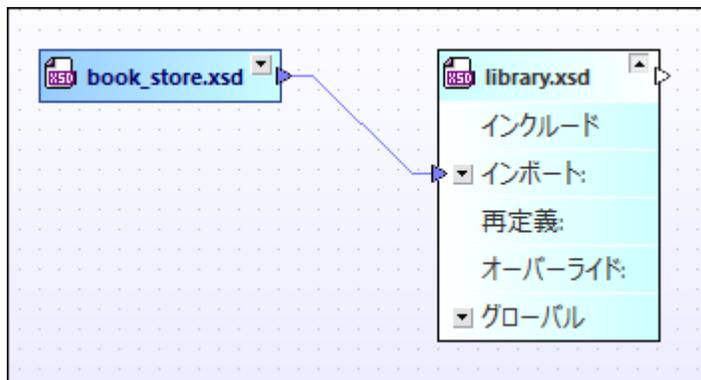
インポート リレーションシップは、異なる名前空間を持つスキーマ内のスキーマからコンポーネントを再利用する際に使用されます。このセクションでは以下のフォルダーからのスキーマ間にインポートリレーションが作成されます **SchemaAgentExamples\Tutorial\import** フォルダー。

- **book_store.xsd**: このスキーマは書店の住所、在庫の書く書籍の詳細アドレスを含むように構成されています。
- **library.xsd**: このスキーマは図書館の住所、および、図書館内の各書籍の詳細(カード、カタログ番号、書籍の現在の貸出状況)を含むように構成されています。

このサンプルを実行する過程で **book_store.xsd** から他の書籍の情報を含む **library.xsd** インポート 型が含まれるインポート リレーションシップが作成されます。

インポートリレーションシップの作成:

1. メニューオプション **ファイル | 新規** を選択し、または新規  アイコンをクリック、または **Ctrl+N** を押してデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラーウィンドウ内で **階層** タブをクリックします。
3. **book_store.xsd** と **library.xsd** を **import** フォルダーから選択しドラッグして新規のデザインウィンドウドロップします。
4. **book_store.xsd** のファイルボックスの右側の小さな白色の三角形をクリックし、接続線を **library.xsd** のファイルボックスにドラッグします。
5. **マウスボタン** を文字「**インポート**」の上でリリースします。



book_store.xsd から **library.xsd** を指す青色の矢印が表示されます。この矢印はこれらのスキーマ間にインポート リレーションシップが作成されたことを示しています。

2.3 XMLSpy を SchemaAgent クライアントとして使用する

チュートリアル内の前のセクションでは、インクルード、インポートと再定義 スキーマ間のルーションシップを作成します。SchemaAgent Client を使用してルーションシップを作成すると、対応するインクルード、インポート、および再定義 ステートメントは、自動的にXML スキーマに追加されます。

チュートリアル内のこのセクションでは、XMLSpy を使用して、スキーマの個別のコンポーネントの実際のインクルード、インポート、および再定義する方法について学びます。具体的には、以下の方法について学習します：

- SchemaAgent サーバーにXMLSpy を接続します。
- コンテンツモデルの要素をグローバルな複合型にします。
- 異なるスキーマ内のインクルード 複合型
- XMLSpy 内の型の再定義
- 異なる名前空間を使用してスキーマから複合型をインポートします。
- XMLSpy 内に直接複合型 をインクルードします。

必要条件

- XMLSpy がインストールされていることを確認してください。

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアル内のこのセクションでは、XMLSpy のスキーマW SDL ビューを排他的に使用し、次のコマンドを使用することができます。以下のコマンドが使われます：

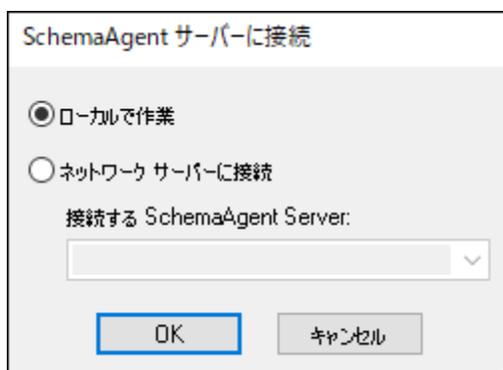
アイコン	コマンド名	説明
	SchemaAgent Server へ接続します。	このアイコンはスキーマデザイン ツールバー内にあります。このアイコンをクリックして、接続するサーバーを選択することのできる [SchemaAgent Server へ接続] ダイアログボックスを開きます。
	ダイアグラムの表示 (またはコンテンツモデルビューの表示)	このアイコンはスキーマ概要内の全てのグローバルコンポーネントの左側にあります。このアイコンをクリックして、関連付けられたグローバルコンポーネントのコンテンツモデルを表示します。
	グローバル化	このコマンドは、コンテンツモデルビュー内の要素を右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内に含まれています。このコマンドを使用して、この要素を新規のグローバル要素にします。
	子 要素の追加	このコマンドは、コンテンツモデルビュー内のシーケンス要素を右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内に含まれています。このコマンドを使用して、コンテンツモデルに新規の子要素を追加します。
	挿入	このアイコンはスキーマ概要の左上の角にあります。アイコンをクリックすると、選択された要素の前のグローバルコンポーネントを挿入することができます。
	全てのグローバルを表示	このアイコンはコンテンツモデルビューの左上の角にあります。アイコンをクリックすると、全てのグローバルコンポーネントを表示するスキーマ概要のビューに切り替えられます。

2.3.1 XMLSpy を LocalServer に接続する

以下のステップは LocalServer へのクライアントとして XMLSpy に接続する方法について説明しています。SchemaAgent Client アプリケーションをこのために開く必要はありません。

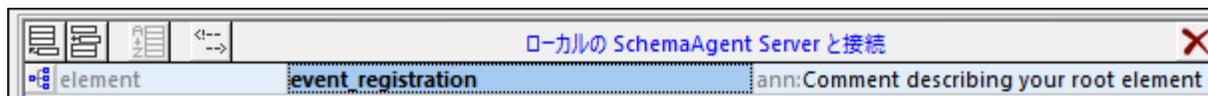
XMLSpy を開き SchemaAgent LocalServer に接続する方法:

1. SchemaAgent Client を作動 階層 タブをエクスプローラーウィンドウ内でクリックします。
2. [include_redefine] フォルダー内で **event_registration.xsd** を右クリックし、XMLSpy 内で編集 (Ctrl+Y) をコンテキストメニューから選択します。
3. XMLSpy 内でメニューオプション [スキーマ設定 | SchemaAgent Server] に接続する、または [SchemaAgent Server]  に接続するアイコンをスキーマデザインツールバー内でクリックします。



4. ローカルで作業 を選択し OK をクリックします。
5. 表示される情報ウィンドウ内で表示される OK をクリックします。

接続に成功すると、メッセージ [ローカルの SchemaAgent Server に接続済み] がスキーマデザインウィンドウの上に表示されます。

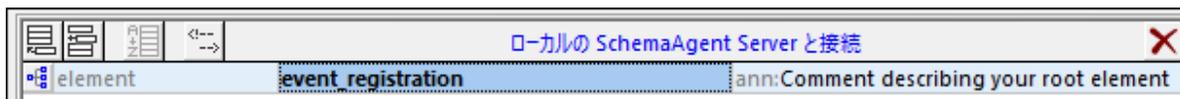


2.3.2 要素をグローバルな複合型にする

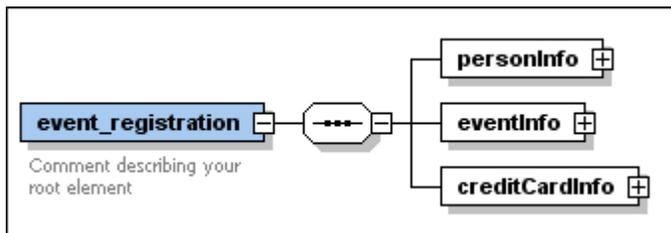
IIR リレーションシップの作成により、スキーマの要素を他のスキーマで使用できるようになります。しかしながら、グローバルな要素のみが他のスキーマで使用することができます。チュートリアルこのセッションでは、XMLSpy を使用して、要素を異なるスキーマ内に含むことのできるグローバルな複合型にする方法について学びます。

要素をグローバルに含まれるようにする方法:

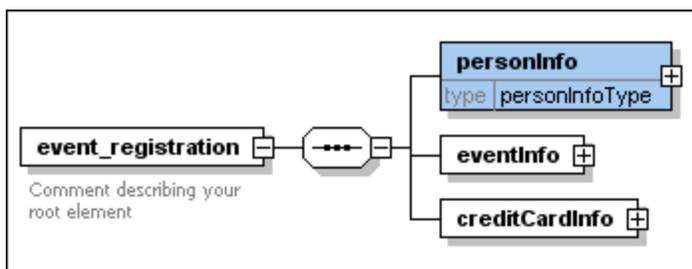
1. SchemaAgent Client 内で **event_registration.xsd** を右クリックし XMLSpy (Ctrl+Y) で編集をコンテキストメニューから選択します。



- XMLSpy 内でclick the **ダイアグラムの表示要素 event_registration のための アイコンを**クリックします。



- personInfo** 要素を右クリック、コンテキストメニューから「子の追加 | シーケンス」を選択します。**personInfoType** と呼ばれる新規のグローブ型複合型が作成されます。



上のスクリーンショットで、[type] が表示されるとお表示されない場合、以下のように続きます:

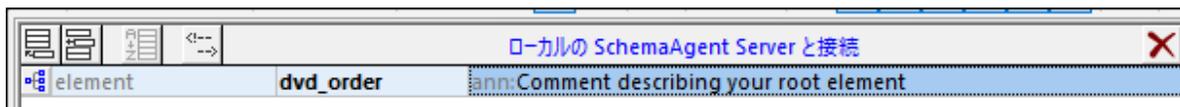
- メニューオプション「スキーマ設計 | 表示設定」を選択します。
 - 「定義済み」ボタンをクリックします。
 - 「OK」をクリックして確認します。
- 同様に**creditCardInfo** 要素をグローブ型複合型にします。これにより **creditCardInfoType** という名前の型が作成されます。
 - ファイルを保存します。

2.3.3 インクルード型

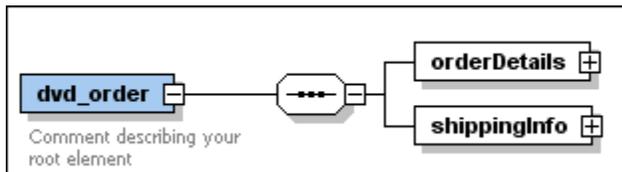
このセクションでは、インクルード済みのスキーマからターゲットスキーマ型を追加する方法について学習します。この目的のために、ターゲットスキーマを開く必要があります。例えばXMLSpy 内の **dvd_order.xsd** など。

dvd_order.xsd に型をインクルードする方法:

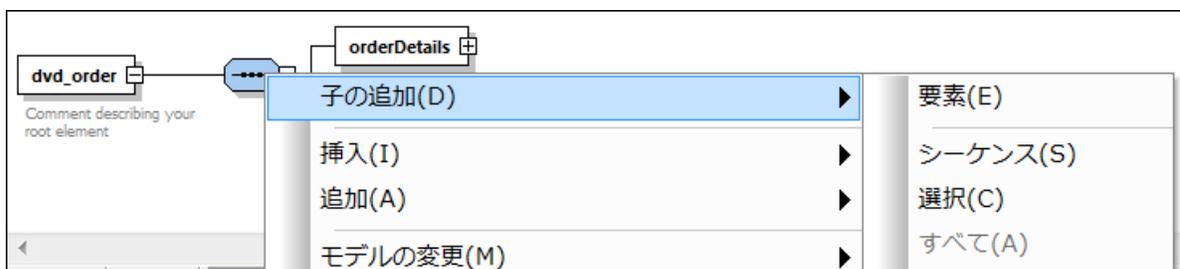
- SchemaAgent Client 内で **dvd_order.xsd** を右クリックし **XMLSpy (Ctrl+Y)** で編集をコンテキストメニューから選択します。インクルードセクション内の2つのスキーマに接続すると自動的に追加されるインクルードテキストが既にスキーマに含まれていることにご注意してください。チュートリアル前のセクションで作成されたグローブ型複合型を **dvd_order.xsd** 内で使用することができます。



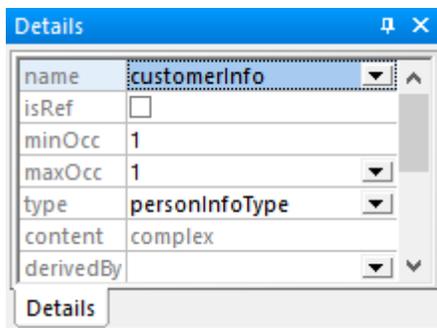
- XMLSpy 内で要素 `dvd_order` のための [ダイアグラムの表示] アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。



- シーケンス要素を右クリックして [子の追加 | 要素] を選択します。

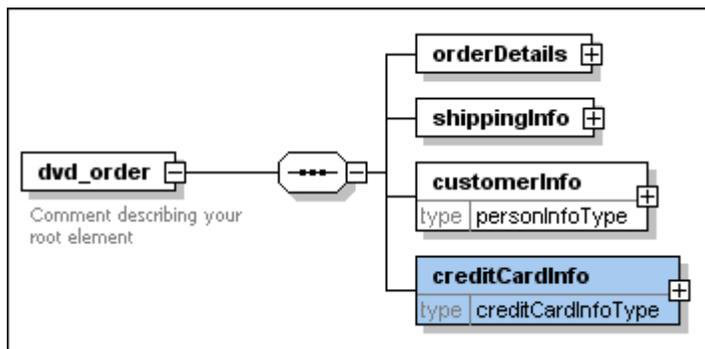


- [`customerInfo`] をこの要素のための名前として入力します。
- この要素が選択されている状態で、詳細入力ヘルパー内で `personInfoType` を型ドロップダウンリストから選択します。



メモ [型] リストには青色と黒色のアイテムが含まれている可能性があります。黒色の型は現在の名前空間内で使用できるものです。青色の型は SchemaAgent 検索ノード内で使用できるものです。アイテムが青色で表示されていない場合、XMLSpy が SchemaAgent の LocalServer に接続されているものを XMLSpy を LocalServer に接続する内で説明される通りダブルクリックします。

- 同じ過程を使用して [`creditCardInfo`] 型 `creditCardInfoType` と呼ばれる新規の要素をシーケンスに追加します。スクリーンショットは以下のようになります:



7. ファイルを保存します。

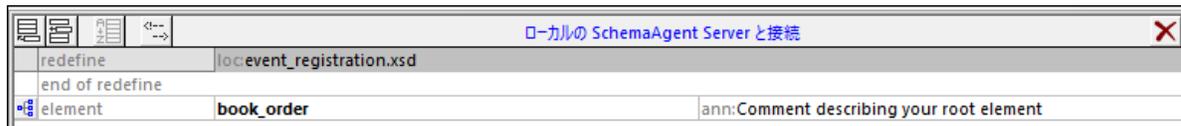
スキーマ `dvd_order.xsd` 内のスキーマ `event_registration.xsd` から2つの型がインクルードされます。

2.3.4 型の再定義

このセクションでは、別のスキーマ内で1つのスキーマから型を再定義する方法について学習します。また、再定義された型に新規の要素を追加する方法についても学習します。この操作を XMLSpy 内でおこなうこともできます。このチュートリアルの目的のために、スキーマ `book_order.xsd` をサンプルとして使用します。

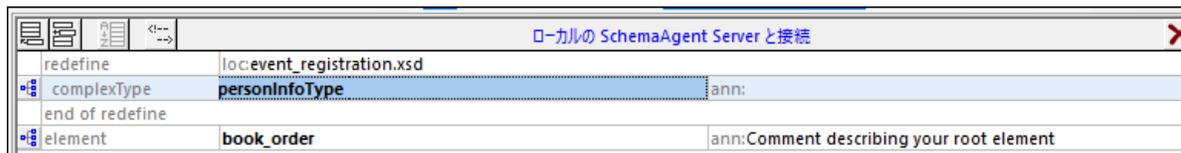
型 `PersonInfoType` の再定義の方法:

1. SchemaAgent Client 内で `book_order.xsd` を右クリックし XMLSpy (Ctrl+Y) で編集をコンテキストメニューから選択します。

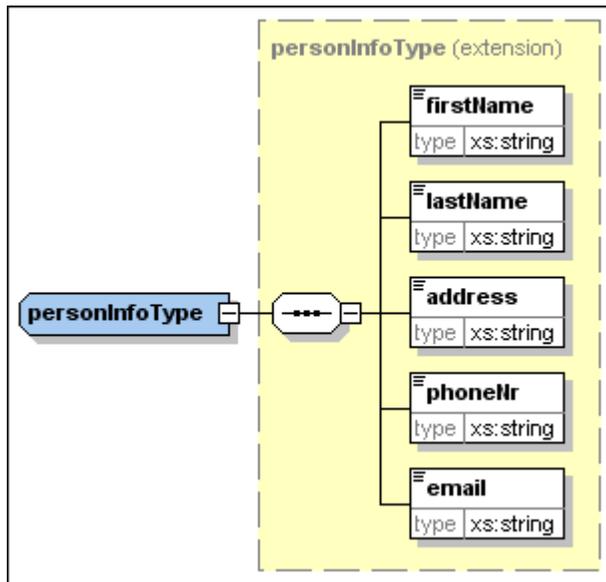


セクションの再定義 内の2つのスキーマが接続すると自動的に追加される再定義ステートメントがスキーマに含まれていることにご注意してください。

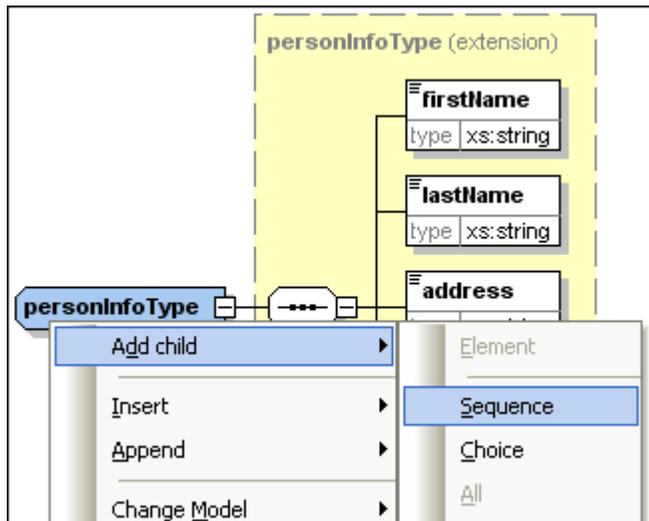
2. "end of redefine" と表示するラインを選択し、「挿入」 アイコンをクリックします。
3. **ComplexType** をポップアップされたメニューから選択し、[personInfoType] をこの型のための名前として入力します。



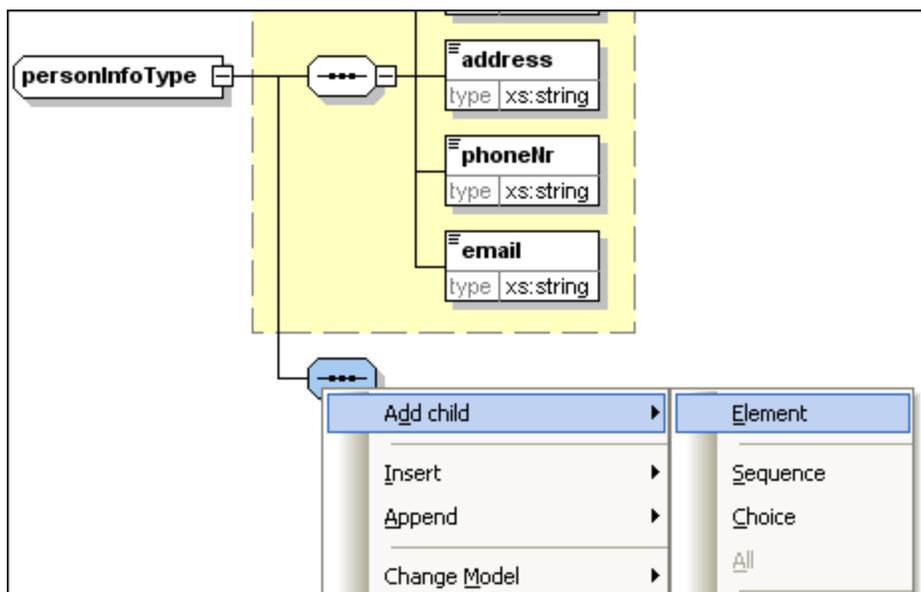
4. `personInfoType` のためのダイアグラムの表示」 アイコンをクリックします。 `event_registration.xsd` 内で定義されるとおり `personInfoType` のコンテンツが表示されます。



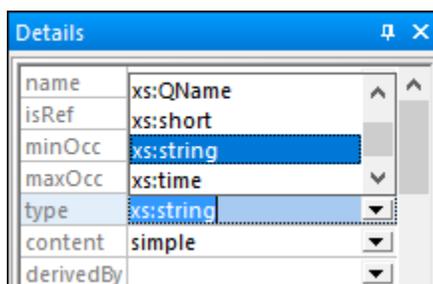
5.  complexType を右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | シーケンス」を選択します。



6. 新規のシーケンスアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。

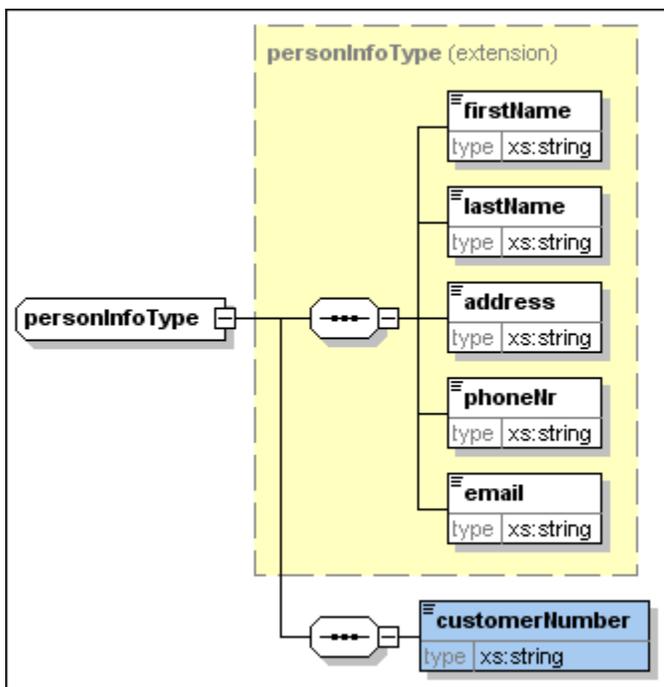


7. "customerNumber" をこの要素のための名前として入力します。
8. 詳細の入力ヘルパー内で、**xs:string** を型ドロップダウンリストから選択します。



9. ファイルを保存します。

XML スキーマ `book_order.xsd` 内で型として使用される `personInfoType` が再定義されました。

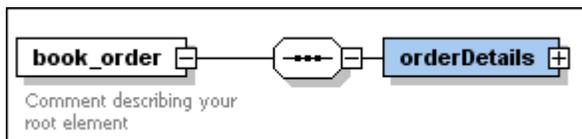


2.3.5 再定義型の使用

前のセクション内では、スキーマ `book_order.xsd` 内のスキーマ `event_registration.xsd` を、複合型 `personInfoType` にカスタム番号を追加することにより再定義しました。このセクションでは、スキーマ `book_order.xsd` 内でこの再定義された複合型の使用方法について学習します。

ターゲットスキーマ内で再定義された型を使用する方法:

1. `book_order.xsd` のためのスキーマ概要内では、ルート 要素 `book_order` の[ダイアグラムの表示]  アイコンをクリックします。

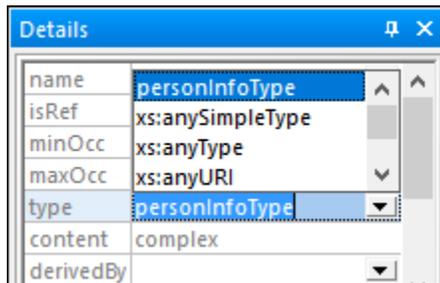


2. シーケンスアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから[子の追加 | 要素]を選択します。

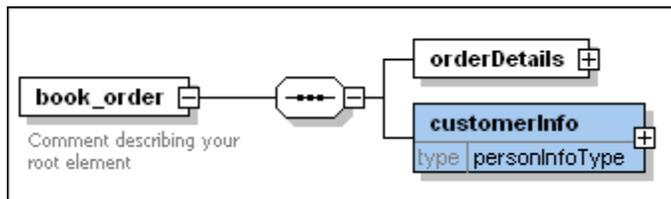


3. [`customerInfo`] をこの要素のための名前として入力します。

4. この要素が選択されている状態で、詳細入力ヘルパー内で `personInfoType` をドロップダウンリストから選択します。



再定義された型は `book_order.xsd` 内の要素の型として再利用されています。

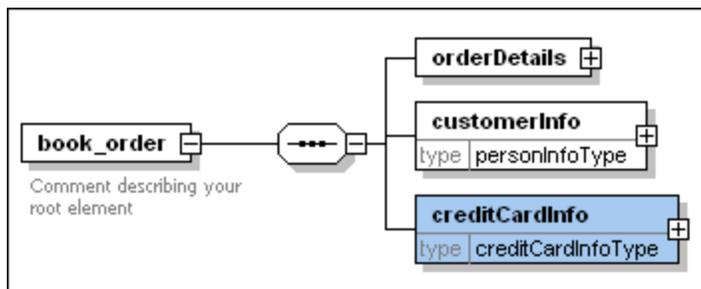


再定義無し型の使用方法

再定義レリションシップ内で、ターゲットスキーマ内で再定義することなくソーススキーマからの型を使用することもできます。

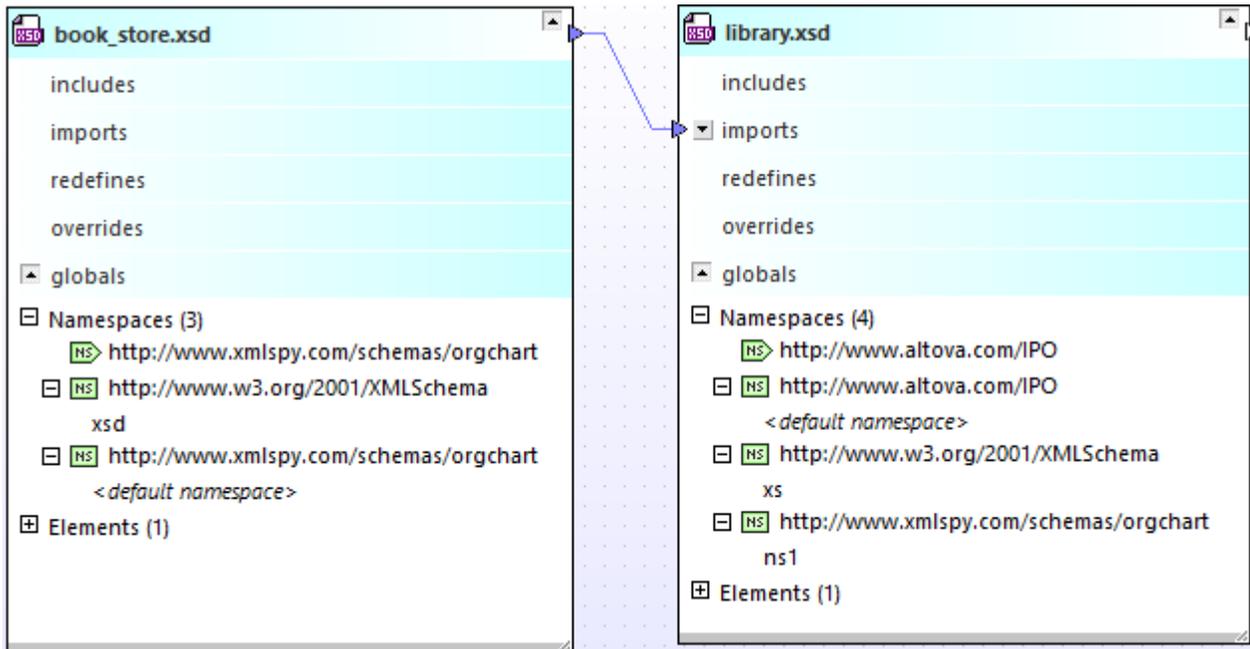
ターゲットスキーマ内で型をそのまま使用する方法:

1. 要素 `book_order` のための「ダイアグラムの表示」内でシーケンス要素を右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。
2. [`creditCardInfo`] をこの要素のための名前として入力します。
3. この要素が選択されている状態で、詳細入力ヘルパー内で `creditCardInfoType` をドロップダウンリストから選択します。
4. ファイルを保存します。型 `creditCardInfoType` が `book_order.xsd` 内の要素の型として再利用されています。



2.3.6 インポート型

チュートリアルスキーマ `book_store.xsd` と `library.xsd` は異なるターゲット名前空間を持っています。これを「インポート」フォルダーから両方のスキーマをメイン SchemaAgent ウィンドウにドラッグし、それぞれの名前空間を展開します:



上のダイアグラムによると以下がわかります:

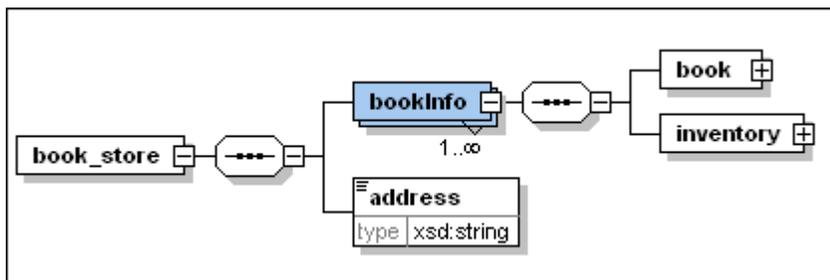
- スキーマ **book_store.xsd** にターゲット名前空間 `http://www.xmlspy.com/schemas/orgchart` が存在します。これはデフォルトの名前空間でもあります。プレフィックス `xsd` は名前空間 `http://www.w3.org/2001/XMLSchema` にマップされています。
- スキーマ **library.xsd** にターゲット名前空間 `http://www.altova.com/IPO` が存在します。これはデフォルトの名前空間でもあります。プレフィックス `xs` は名前空間 `http://www.w3.org/2001/XMLSchema` にマップされています。プレフィックス `ns1` は名前空間 `http://www.xmlspy.com/schemas/orgchart` にマップされています。

library.xsd スキーマと作業中 (book_store.xsd のターゲット名前空間である) 名前空間

`http://www.xmlspy.com/schemas/orgchart` から `bookType` を必要すると想定します。このケースのように異なるターゲット名前空間を持つスキーマドキュメントを結合する場合、インポートリレーションシップが使用されます。2つのスキーマ間のインポートリレーションシップはチュートリアル前のステップで既に追加されています。インポートリレーションシップの作成を参照してください。チュートリアルこの部分では、インポートされた名前空間からの型を使用します。ローカル型 `bookType` をグローバル複合型にします。これが完了すると、この型の新規の要素を `library.xsd` スキーマ内で宣言できるようになります。

[book] コンポーネントをグローバル複合型にする方法:

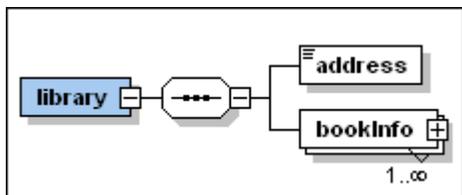
1. SchemaAgent Client 内で **book_store.xsd** を右クリックし **XMLSpy (Ctrl+Y)** で編集をコンテキストメニューから選択します。
2. XMLSpy 内で要素 **book_store** のための [ダイアグラムの表示]  アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。
3. **bookInfo** 要素を展開するために **[+]** アイコンをクリックします。



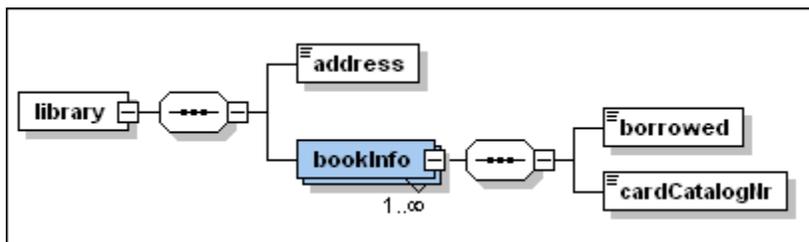
4. **book** 要素を右クリックしてグローブに作る | 複合型 をコンテキストメニューから選択します。
5. ファイルを保存します。

library.xsd に bookType をインポートする方法:

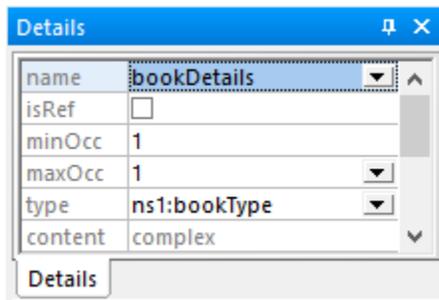
1. SchemaAgent Client 内で **library.xsd** を右クリックし **XMLSpy (Ctrl+Y)** で編集をコンテキストメニューから選択します。
2. XMLSpy 内で要素 **library** のための [ダイアグラムの表示] アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。



3. **bookInfo** 要素を展開するために [+] アイコンをクリックします。

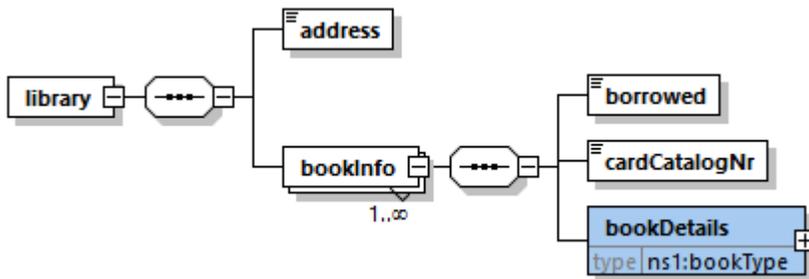


4. **bookInfo** 要素の後のシーケンスアイコンを右クリック、コンテキストメニューから [子の追加 | 要素] を選択します。
5. [bookDetails] をこの要素のための名前として入力します。
6. この要素が選択されている状態で、詳細入力ヘルパー内で ns1:bookType をドロップダウンリストから選択します。



7. 保存してファイルを閉じます。

スキーマ `book_store.xsd` から2つの型がスキーマ `library.xsd` にインクルードされました。



2.3.7 XMLSpy のみを使用して型をインクルードする

前のセクションでは SchemaAgent 内でレリジョンシップのインクルード、インポート、および再定義、そして XMLSpy 内で型のインクルード、インポートおよび再定義を行いました。このセクションでは SchemaAgent LocalServer へのクライアントとして XMLSpy のみを使用してインクルードレリジョンシップを作成する方法を学習します。

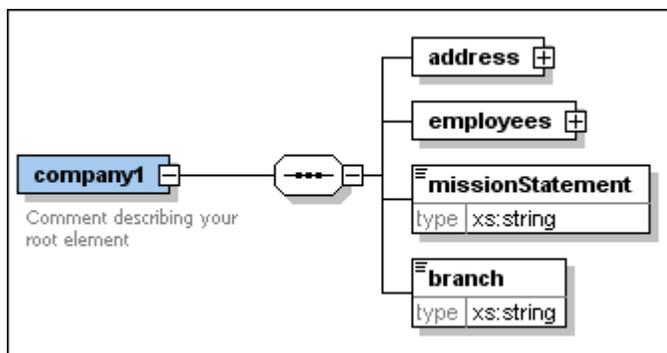
次のスキーマが使用されます:

- **company1.xsd**: このスキーマは企業とその社員に関する情報を含むように構成されています。
- **company2.xsd**: このスキーマは企業の製品に関する情報を含むように構成されています。

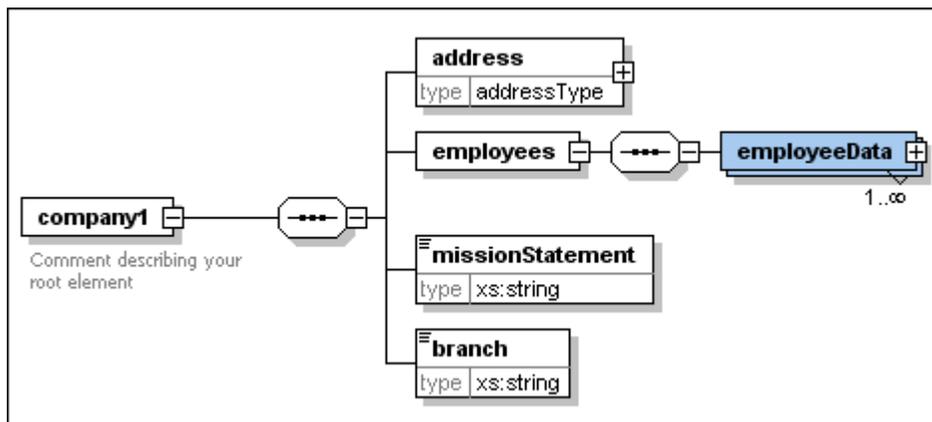
目的はアドレスと社員コンポーネントを `company2.xsd` 内の `company1.xsd` からインクルードすることです。`SchemaAgentExamples\Tutorial\include2` フォルダ内に両方のスキーマは存在します。

グローバルな複合型にコンポーネントを含む方法:

1. XMLSpy 内で **company1.xsd** スキーマを開きます。
2. SchemaAgent LocalServer に接続されていることを確認してください。
3. XMLSpy 内でルート要素 **company1** のための [ダイアグラムの表示] アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。



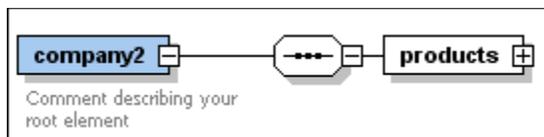
4. **address** 要素を右クリックし、コンテキストメニューから [グローバル化 | 複合型] を選択します。 `addressType` と呼ばれる新規のグローバル複合型が作成されます。
5. **employees** 要素を展開するために [+] アイコンをクリックします。



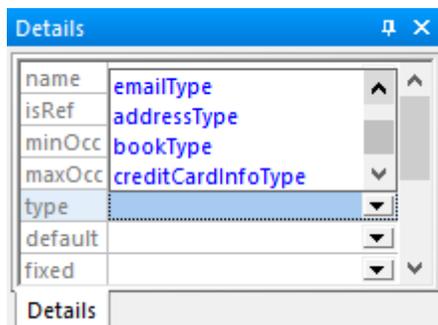
6. 同様に **employeeData** 要素をグローバルな複合型にします。これにより `employeeDataType` という名前の型が作成されます。
7. ファイルを保存します。

XMLSpy を使用してグローバルな複合型をスキーマにインクルードする:

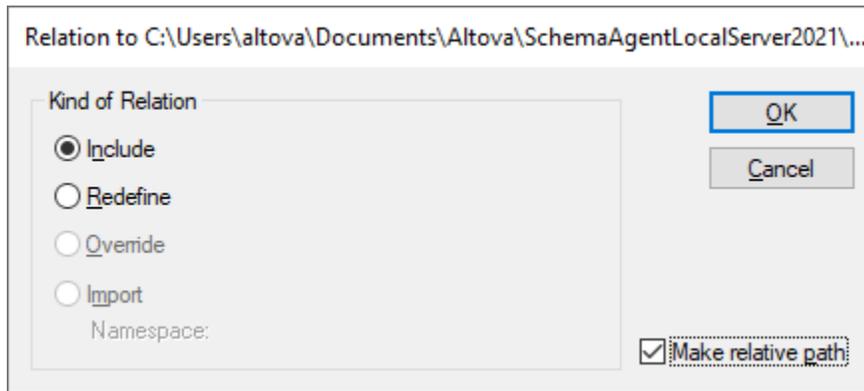
1. ターゲットスキーマ **company2.xsd** を XMLSpy 内で開きます。
2. が SchemaAgent LocalServer に接続されていることを確認してください。
3. XMLSpy 内でルート要素 **company2** のための [ダイアグラムの表示] アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。



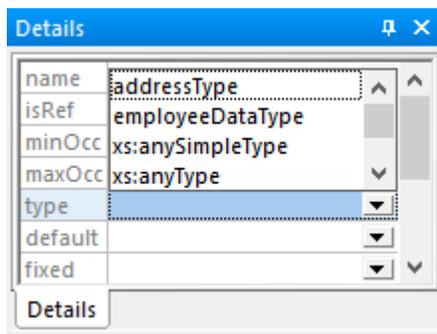
4. シーケンス要素を右クリックコンテキストメニューから [子の追加 | 要素] を選択します。
5. [customerInfo] をこの要素のための名前として入力します。
6. この要素が選択されている状態で、詳細入力ヘルパー内で **addressType** をドロップダウンリストから選択します。SchemaAgent 検索ノブ上にある型 [addressType] は青色です。



7. 2つのスキーマ間のルーショシップの型を選択することのできるダイアログが開かれます。

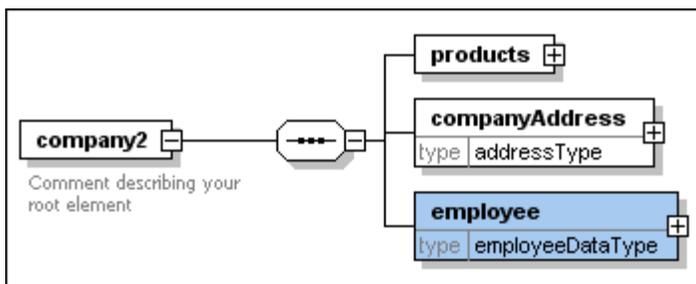


8. インクルードを選択し OK をクリックして確認します。これはインクルード ステートメントを **company2.xsd** スキーマに挿入します。
9. 名前「employee」と型 `employeeDataType` を持つ要素を更に作成するためにステップ 4、5、6 を繰り返します。詳細の入力ヘルパー内で `employeeDataType` を型ドロップダウンリストから選択すると、インクルードスキーマ間のルーショシップが存在するため、黒色で表示されることにご注意してください。



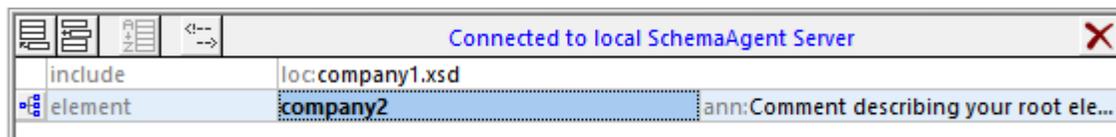
10. ファイルを保存します。

スキーマ **company1.xsd** から2つの型がスキーマ **company2.xsd** にインクルードされました。



挿入されたインクルード ステートメントを確認する方法:

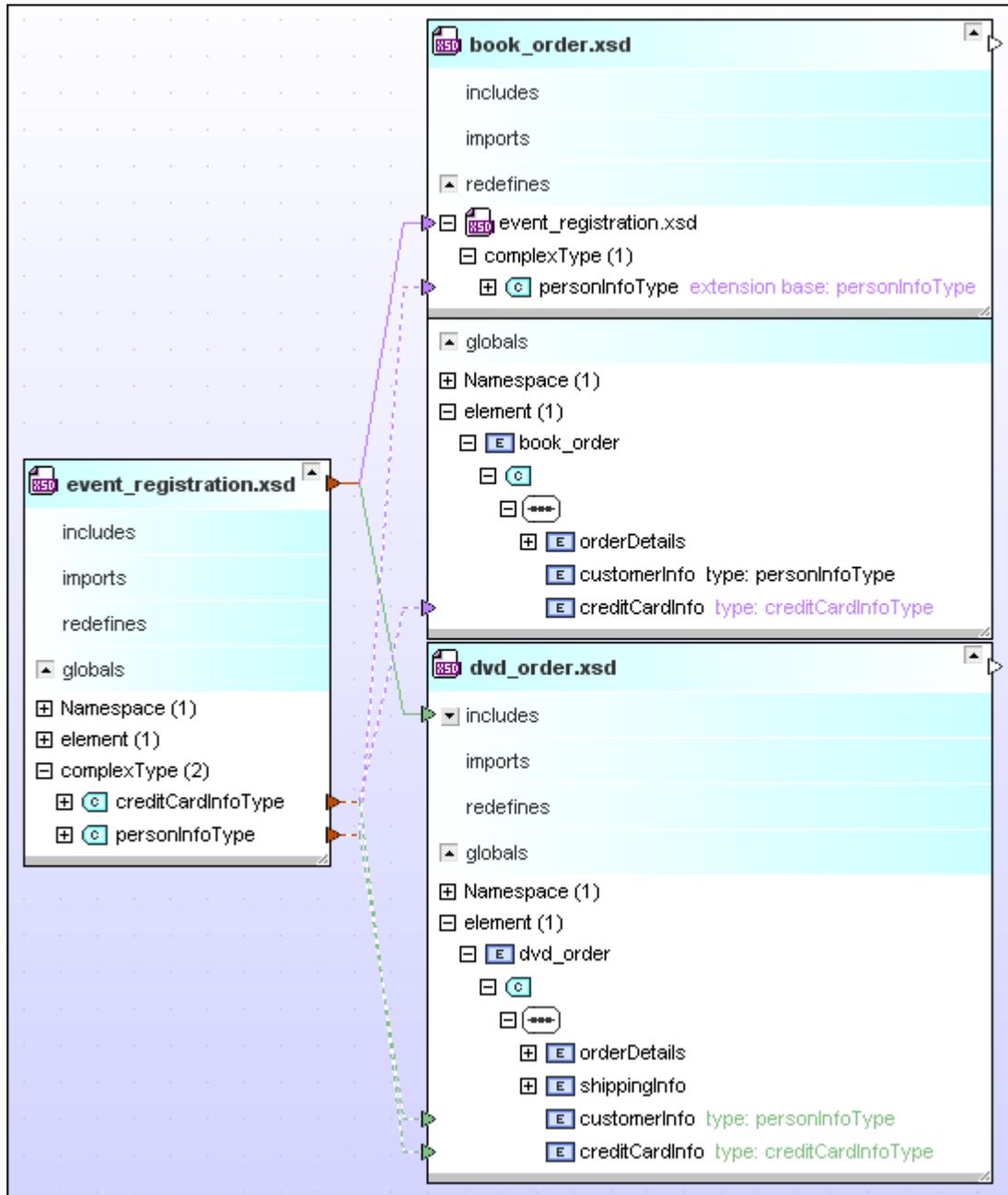
- 全てのグローバルを表示  アイコンをクリックします。



2.4 アップデートされたリレーションシップの表示

このチュートリアル内のスキーマ間で作成されたリレーションシップのインクルードと再定義をビューすることができます。例:

1. SchemaAgent Client 内で **ファイル | 新規** メニューコマンドを選択し、または新規  ツールバーボタンをクリック、または **Ctrl+N** を押してデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラーウィンドウ内で **階層** タブをクリックします。
3. **include_redefine** フォルダーから以下のファイルをデザインウィンドウにドラッグします: **event_registration.xsd**, **dvd_order.xsd** と **book_order.xsd**。



スキーマ内の特定のセグメントに関する情報をビューするには、▼ アイコンを展開します。スキーマを移動するには、タイトルバーをクリックしてマウスを新しいポジションにドラッグします。コンポーネントのサイズを変更するには、L の右下の角をドラッグ、またはコンポーネントの内部をダブルクリックしてフィットするようにサイズ調整する をコンテキストメニューから選択します。

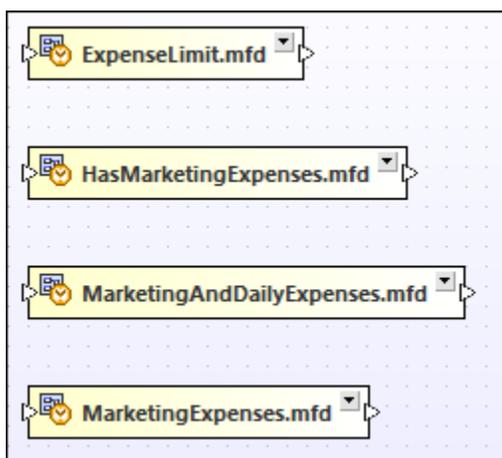
デザインウィンドウの特定のファイルに関する情報を表示するには、カーソルをタイトルバーにポイントします。クイック情報ボックスはそのファイルに関する情報を表示しています。

2.5 MapForce (.mfd) デザインファイルのビュー

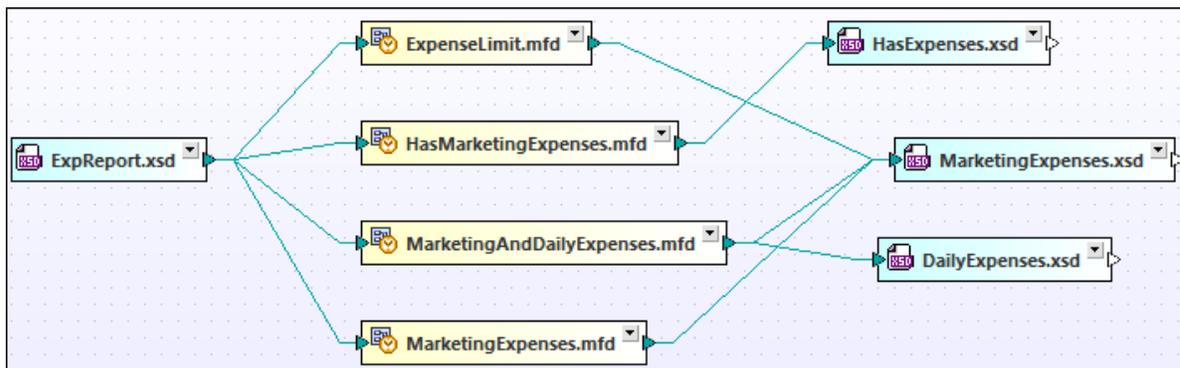
MapForce (<https://www.altova.com/ja/mapforce>) はXML を含むがXML のみに制限されないデータを複数の書式にまたは複数の書式からデータにデータを変換することのできるデータマッピングツールです。MapForce を使用してデザインされるデータマッピングは MapForce デザインファイル(.mfd) または簡単にマッピングとして知られています。このセクションでは SchemaAgent Client を使用して、MapForce デザイン(MFD) ファイルのコンポーネントをビューする方法について学習します。

SchemaAgent 内で MapForce デザインファイルをビューする方法：

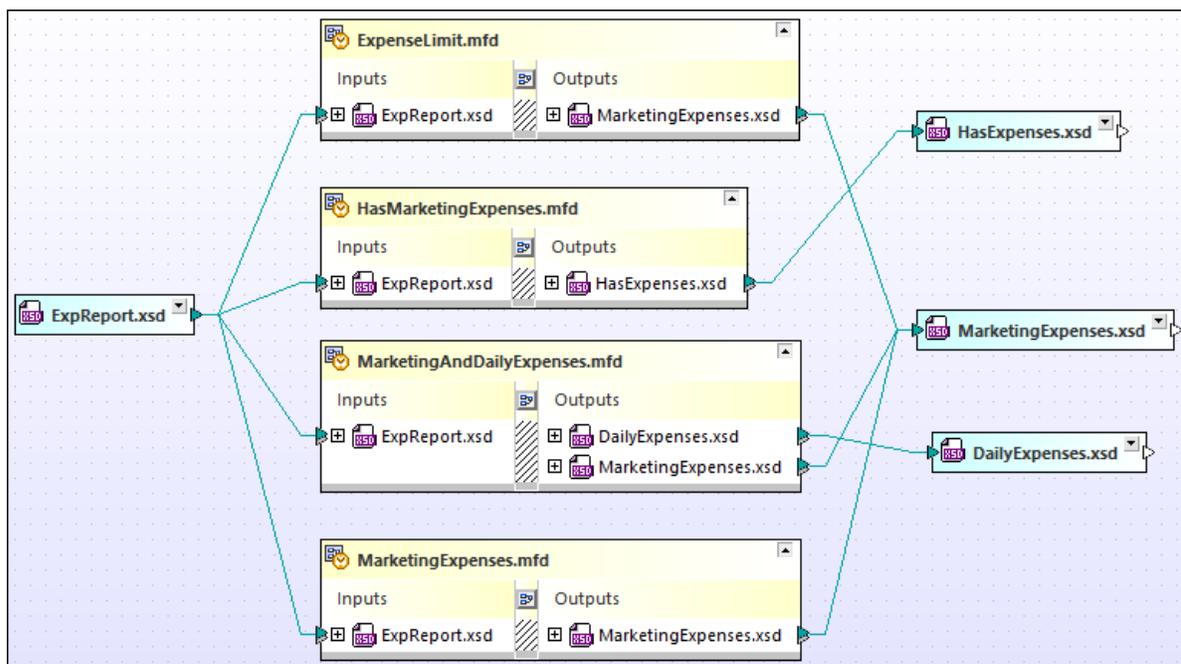
1. SchemaAgent Client 内で **ファイル | 新規** メニューコマンドを選択し、または **新規**  ツールボタンをクリック、または **Ctrl+N** を押してデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラーウィンドウ内で **ExpenseLimit.mfd**、**HasMarketingExpenses.mfd**、**MarketingAndDailyExpenses.mfd** および **MarketingExpenses.mfd** を MapForce フォルダから選択し、デザインウィンドウにドラッグします。



3. それぞれのファイルを右クリックし、コンテキストメニューから、**挿入 | 参照付けられているすべてのディレクトリ | ファイル** を選択します。関連した XML スキーマとそのルーションシップがデザインウィンドウ内に表示されます。



4. .mfd ファイルのそれぞれのファイルボックスを展開するために **展開**  アイコンをクリックします。各マッピングデザインファイルの入力と出力を確認することができます。入力または出力スキーマをさらに展開して構造を確認することができます。



5. コンポーネントのサイズを変更するには、右下の角をドラッグ、またはコンポーネントの内部をダブルクリックしてフィットするようにサイズ調整するをコンテキストメニューから選択します。

3 SchemaAgent Server

SchemaAgent Server は、スキーマIIR（インクルード、インポート、と再定義）サポートされるファイル間の参照を作成、アップデート、または削除するクライアントのクエストを処理し、SchemaAgent Server とクライアント間の通信を管理します。

SchemaAgent Server は識別するフォルダ（オプションでそのフォルダ内のサブフォルダ）— 検索ノブ内でサポートされるファイルについての情報を読み取ります。複数の検索ノブを定義することができます。構成の命令はサーバーとクライアントでは同様です。検索ノブの追加と検索を参照してください。SchemaAgent Server は検索ノブ上のファイル間のルーションシップを決定し、これらのファイルとコンポーネントの内部マップを作成します。

検索ノブがサーバー上で定義されると、定義済みの検索ノブ内のファイル間のルーションシップを接続されたクライアントの視覚的なユーザーインターフェイスからビューして管理することができます。

検索ノブ内のフォルダが例えば、フォルダがWindows Explore から削除された場合など、SchemaAgent Server 外で変更された構造を持つ場合、この情報は、ノブが再ロードされるまで SchemaAgent Server 内では更新されません。

SchemaAgent Server とそのクライアントはポート 2799 を介してUDP とTCP を使用しデータを転送します。

3.1 SchemaAgent Server のインストール

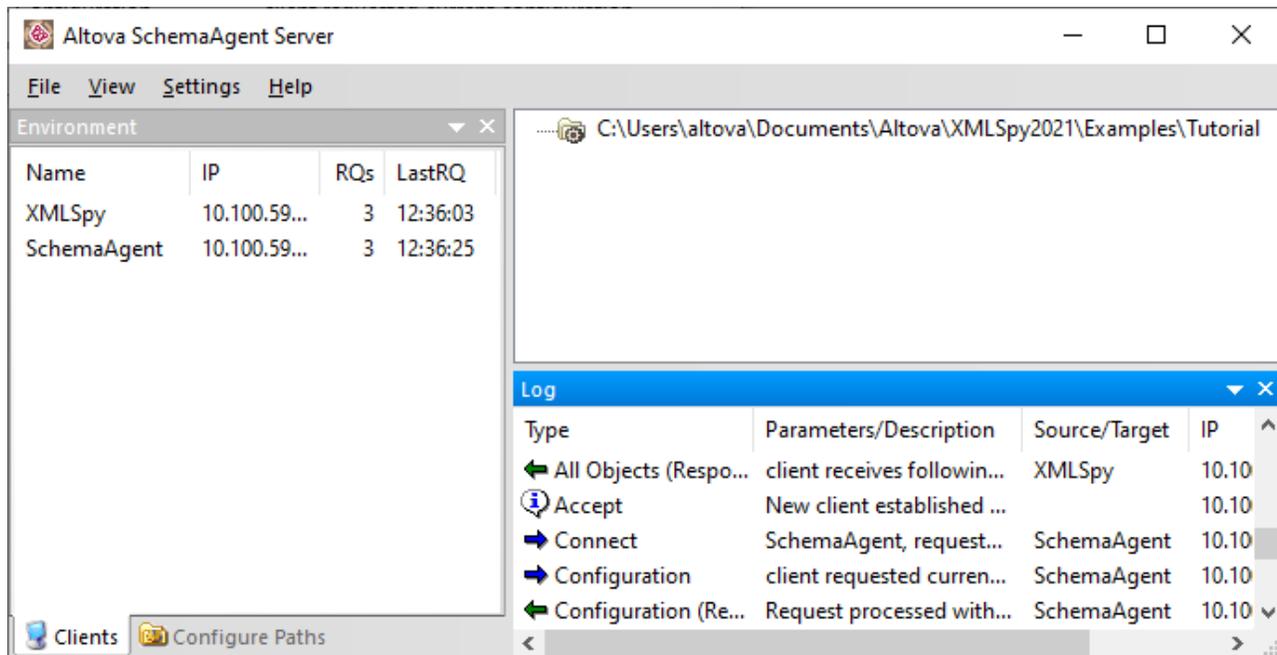
SchemaAgent Server インストールパッケージを SchemaAgent ダウンロードページ (<https://www.altova.com/schemaagent/download>) から無料でダウンロードすることができます。

SchemaAgent Client のインストール方法:

1. SchemaAgent Server インストーラーファイルをダブルクリックします。
2. 画面上の命令に従います。インストール中、ダイアログボックスは、SchemaAgent Server がスタブアロン サーバーとして、または、サービスとしてインストールするかを選択するようにプロンプトします。これらのオプションは下で説明されています。
3. 必要であれば、サーバーを開始します (SchemaAgent Server の開始を参照してください)。

スタブアロン サーバーとして SchemaAgent Server をインストールする方法

スタブアロンサーバーとしてインストールされると、開始  メニューから SchemaAgent Server を Windows アプリケーションとして開始することができます。サーバーが起動されるとアイコン  がシステムトレイ内に表示されます。このアプローチでは、アプリケーションは検索/パスと他の設定を構成可能な視覚的なユーザーインターフェイスを使用することができます。この種類のインストールは (例えば、検索/パスを変更する場合など) 視覚的なユーザーインターフェイスに頻繁にアクセスする必要がある場合に役立ちます。



サービスとして SchemaAgent Server をインストールする方法

サービスとしてインストールされている場合、SchemaAgent Server をサービスとして「コントロールパネル | 管理ツール | サービス」内で使用することができます。他の Windows サービスと同様に管理することができます。システムが起動する際に自動的に構成されること利点です (このオプションはインストールウィザード上でも使用することができます)。SchemaAgent Server のサービスとしてのインストールは複数のクライアントのオンプレミスネットワークサーバーとしての役割を果たすシナリオに適しています。

このシナリオでは SchemaAgent Server は視覚的なユーザーインターフェイスを持たず、開始  メニューから、または デスクトップショートカットから起動することはできません。または、システムトレイアイコンを使用することもできません。SchemaAgent Server を構成(すなわち、検索パスを定義)するには、最初に SchemaAgent Server をインストールして、構成し、コマンドラインからインストールメソッドを変更する必要があります(下の指示を参照してください)。

インストールの型を変更する方法

プログラムをインストール後インストールモデルを(スタンドアロンからサービスへ、またはその逆) 変更する場合、**SchemaAgentServer.exe** をコマンドラインを使用して呼び出すことができます。それ以外の場合 SchemaAgent Server アンインストールして、異なるインストールメソッドを選択してインストールする必要があります。

下にリストされるコマンドは、コマンドラインから **SchemaAgentServer.exe** を呼び出す際に使用することができます。実行可能ファイルは、コマンドラインモードで作動する際、常にターシコードを返します。install と remove パラメータを使用しエラーが発生した場合、返されたエラーコードはオペレーティングシステムから与えられたコードと同一です。

コマンドライン/パラメータなし	GUI アプリケーションとして開始します。
/install or -install	サービスとしてインストールします。
/remove or -remove	サービスをアンインストールします
/quiet or -quiet	インストールまたは削除コマンドを使用してエラーが発生した際に表示されるメッセージボックスを抑制します。

「スタンドアロン」から「サービス」にインストールメソッドを変更する方法:

1. SchemaAgent Server が作動していないことを確認してください。作動中の SchemaAgent Server を終了するには、システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから **シャットダウン** を選択します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウ(管理者として)を開き、現在のディレクトリを SchemaAgent Server のインストールフォルダーに変更します(デフォルトでは **C:\Program Files\Altova\SchemaAgentServer2021**)。
3. コマンドプロンプトで、SchemaAgent Server サービスとしてインストールするために **SchemaAgentServer.exe /install** を入力します。
4. SchemaAgent Server をサービスとして開始します(SchemaAgent Server の開始を参照してください)。

「サービス」から「スタンドアロン」へインストールメソッドを変更する方法:

1. SchemaAgent Server が作動していないことを確認してください。実行中の SchemaAgent Server サービスを終了するには、「コントロールパネル|管理ツール| サービス」から SchemaAgent Server サービスを右クリックし、コンテキストメニューから **停止** を選択します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウ(管理者として)を開き、現在のディレクトリを SchemaAgent Server のインストールフォルダーに変更します(デフォルトでは **C:\Program Files\Altova\SchemaAgentServer2021**)。
3. コマンドプロンプトで、**SchemaAgentServer.exe /remove** を入力して既存の SchemaAgent Server サービスをアンインストールします。
4. コマンドプロンプトで、**SchemaAgentServer.exe** を入力しスタンドアロン インストールを開始します。

3.2 SchemaAgent Server の開始

スタンドアロン サーバーとして SchemaAgent Server をインストールした場合、サーバーアプリケーションは SchemaAgent Client を接続する前に開始される必要があります。SchemaAgent Server がサービスとしてインストールされている場合、インストールの際のオプションにより、既にサービスとして開始されている場合があります。SchemaAgent Server のインストールを参照してください。

メモ 1度だけ開始することのできる SchemaAgent Server のインスタンスは 1 つです。SchemaAgent Server が既に作動している場合、開始使用を試みると、エラーメッセージが表示されます。



SchemaAgent Server がサービスとして既に作動しているかチェックする方法:

1. 「コントロールパネル | 管理ツール | サービス」を開きます。
2. SchemaAgent Server サービスをリスト内から検索し、ステータスをチェックしてください。

スタンドアロン サーバーとして SchemaAgent Server を開始する方法:

- 開始  をクリックして **Altova SchemaAgent Server 2021 | Altova SchemaAgent Server** を選択します。

SchemaAgent Server をサービスとして開始する方法:

1. 「コントロールパネル | 管理ツール | サービス」を開きます。
2. SchemaAgent Server サービスを右クリックして「開始」を選択します。

3.3 SchemaAgent Server の非表示

スタンドアロン SchemaAgent Server の検索パスとファイル拡張子を構成すると、サービスとして再構成することができ、システムと列内で、ユーザーが使用できないように設定し、アプリケーションを非表示にすることができます。

システムトレイ内で SchemaAgent Server を非表示にする方法:

- システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニュー内の「非表示」を有効化します。

システムトレイ内で非表示の場合、SchemaAgent Server を表示するには以下の内の1つを行ってください:

- システムトレイ内の SchemaAgent Server  アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニュー内の「非表示」を無効化します。
- システムトレイ内のアプリケーションアイコンをダブルクリックします。

3.4 SchemaAgent Server の終了

スタンドアロンサーバーとして SchemaAgent Server が作動している場合、下の命令を使用して終了することができます。SchemaAgent Server がサービスとして作動する場合、「コントロールパネル | 管理ツール | サービス」から代わりに停止することもできます。

クライアントに接続中に SchemaAgent Server を終了する場合、これらのクライアントは SchemaAgent Server への接続を失い、SchemaAgent Server への接続による処理コマンド(例えば、SchemaAgent デザイン内での IIR リレーションシップの作成、および変更などのコマンド)を実行することができなくなります。従って、ダイアログボックスは、現在接続されているクライアントの数を表示し、シャットダウンの継続を問います。

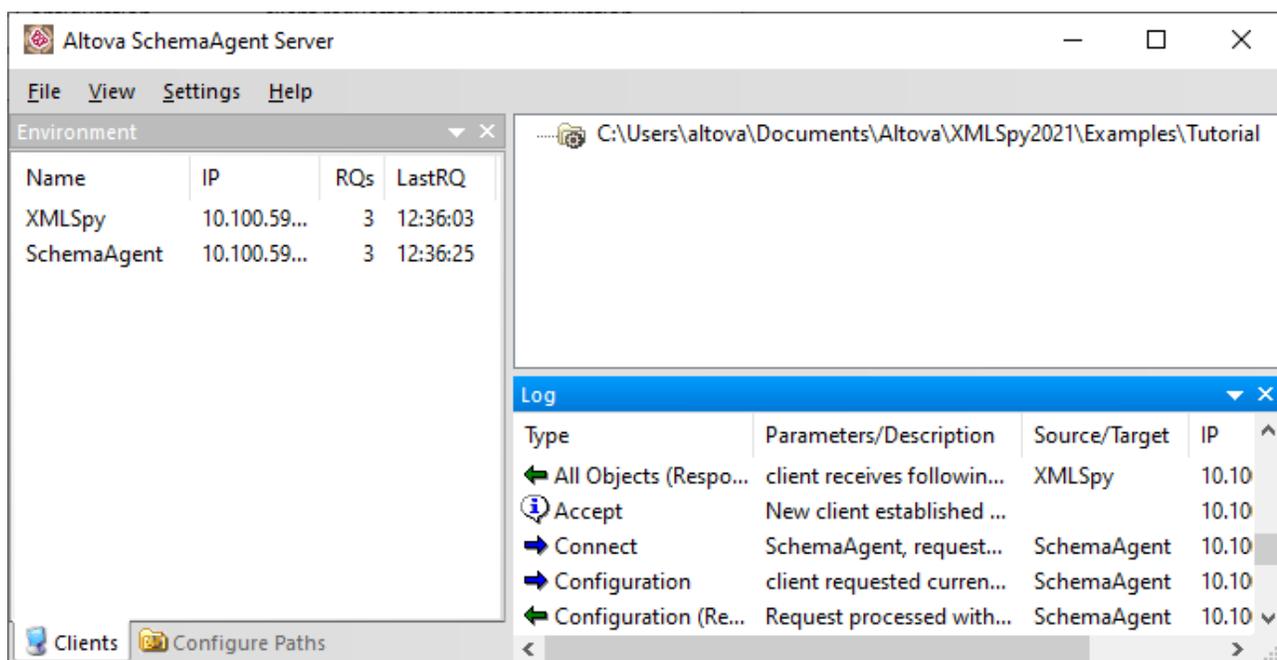
SchemaAgent Server を終了するには、以下の内の1つを行ってください。

- SchemaAgent Server GUI 内で、メニューオプション「ファイル | シャットダウン」を選択します。
- システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「シャットダウン」を選択します。

3.5 SchemaAgent Server ユーザーインターフェイス

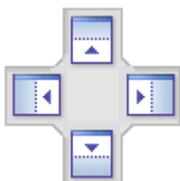
スタンドアロンサーバーとして SchemaAgent Server がインストールされている場合、視覚的なユーザーインターフェイス (GUI) を使用することができます (SchemaAgent Server のインストールを参照してください)。SchemaAgent Server をサービスとしてインストール開始した場合、GUI を使用することができません。ユーザーインターフェイスは以下のように整理されています:

- 環境ウィンドウではここで使用することができる検索ノブとファイルに関する情報が表示されています。
- メインウィンドウは検索ノブ内で定義されているフォルダーのエントリを表示します。
- ログウィンドウではクライアントのリクエスト、サーバーレスポンス と他のサーバーに関連したデータが表示されています。



環境とログウィンドウを新しいポジションに以下のようドッキングまたはドッキングの解除することができます:

1. ウィンドウのタイトルバーをクリックしマウスをドラッグします。ドックするためのヘルパーが表示されます。



2. ウィンドウを上、右、左、下のハンドルをドラッグして新しいポジションにドッキングします。

ウィンドウを表示または非表示にするには表示メニューから対応するオプションを選択します。

環境ウィンドウ

クライアント タブは現在 SchemaAgent Server に接続されているクライアントの詳細を表示します。SchemaAgent Server への接続はクライアントからのリクエストから開始され、クライアントで作成される必要があります。

上のスクリーンショットは2つのクライアント SchemaAgent Client とXMLSpy が現在 SchemaAgent Server に接続されていることを表示しています。クライアントに接続されているIP アドレスがリストされています。クライアントにより作成されたリクエストの数量がRQ 列内で表示されており、各クライアントの最後のリクエストはLastRQ 列内で表示されています。

構成ノスタブは検索ノスタブが検索するファイルのファイル拡張子を表示しています。詳細に関しては AS2 検索ノスタブの構成を参照してください。

ログウィンドウ

ログウィンドウではクライアントのリクエスト、サーバーレスポンス、と他のサーバーに関連したデータが表示されています。このデータは実行の日時(アクションの場合)と共に、またはデータ転送の時刻(通知の場合)と共に詳細として表示されています。情報がクライアントを含む場合、クライアントはIP アドレスと共に表示されています。

以下のシンボルがログウィンドウ内に表示される可能性があります:

-  クライアントからのリクエスト (青色、右向き矢印)
-  サーバーからのレスポンス (緑色、左向き矢印)
-  クライアントの接続または接続の解除に関する情報

(リクエストの) ソースクライアント とレスポンスのターゲットクライアント ソース/ターゲット 列内で示されています。パラメーター/詳細 列はアクションの型を表示しており時刻 列はアクションの日時を表示しています。

(例えば 検索ノスタブのために再帰的 オプションが無効化されている場合) SchemaAgent Server 内で検索ノスタブが変更される都度、変更されたファイル構造はSchemaAgent Server により全ての接続済みのクライアントに送信されます。

検索ノスタブ内のフォルダーが例えば フォルダーがWindows Explore から削除された場合など SchemaAgent Server 外で変更された構造を持つ場合、この情報はノスタブが再ロードされるまでSchemaAgent Server 内では更新されません。

ファイルが指定された箇所に存在しない他のファイルを含む、またはインポートする場合メッセージ [<ファイル型> ファイルの読み取りに失敗しました] が表示されます。

3.6 サーバーの構成

SchemaAgent Server オプションを以下のように構成することができます:

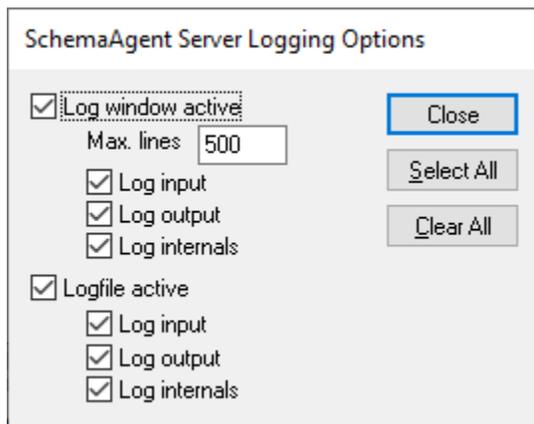
1. 変更されたファイルの検索ノードと拡張子。命令は SchemaAgent Client と同様です。検索ノードの構成方法を参照してください。
2. ログオプション。

ログオプションの設定

ログウィンドウ内に表示される情報がログファイルに書き込まれるかをオプションで構成することができます。

ログオプションの構成方法:

1. 「設定」メニューから「ログオプション」をクリックします。ログオプションダイアログボックスが開かれます。



2. 任意で全てを選択 または全てをクリアをクリックしてチェックボックスを選択、またはクリアします。

使用することのできるすべてのオプションは以下にリストされています。

ログウィンドウをアクティブに	SchemaAgent Server アクションがログウィンドウ内で表示される場合、このチェックボックスを選択します。
最大行	ログウィンドウ内で表示される行の最大数を指定します。
入力をログ	受信されるリクエストの表示を有効化または無効化します。
出力をログ	送信されるレスポンスの表示を有効化または無効化します。
内部処理をログ	内部の SchemaAgent Server 情報の表示を有効化または無効化します。
ログファイルをアクティブに	チェックボックスを選択すると、ログウィンドウ内に SchemaAgent Server アクションが表示されます。ログファイルは、 SchemaAgentServerLog.csv という名前の拡張子により区切られた Comma separated Values (CSV) ファイルで、SchemaAgent Server セッションを開始する都度 SchemaAgent Server と同じファイルで作成されます。これは「ログファイルをアクティブに」チェックボックスが有効化されていることが前提です。

	入力のログ、出力のログ、および内部処理をログ チェックボックスによりログファイルヘデータのカテゴリが書き込まれるかを指定します。
--	--

3.7 メニューレファレンス

「ユーザーレファレンス」セクションにはすべてのSchemaAgent Server メニューコマンドの完全な記述が含まれています。

3.7.1 ファイルメニュー

「ファイル | シャットダウン」コマンドによりSchemaAgent Server を終了することができます。クライアントへの全ての接続が失われることに注意してください。

3.7.2 表示メニュー

[表示 | 環境] コマンドは環境ウィンドウを表示または非表示します。

[表示 | ログ] コマンドはログウィンドウを表示または非表示します。

3.7.3 設定メニュー

「設定 | ログオプション...」コマンドはSchemaAgent Server のログオプションの構成をおこなうことのできる「SchemaAgent Server ログオプション」ダイアログボックスを開きます。

3.7.4 ヘルプメニュー

「ヘルプ」メニューには、上でヘルプを取得するために必要とされるコマンドなど、およびWeb サーバー上のSchemaAgent の情報とサポートページへのリンクが含まれています。

目次

このコマンドはオンラインヘルプシステムに含まれるすべてのチャプターおよびトピックを階層的に表示します。SchemaAgent 内から直接目次に移動するためにこのコマンドを使用します。

ヘルプウィンドウが開かれると、3つのタブを使用して、目次、インデックス、と検索 ペイン間をナビゲートします。お気に入りタブはヘルプシステム内のページをブックマークすることができます。

インデックス

「インデックス」コマンドによりオンラインのヘルプの「キーワード インデックス」にアクセスすることができます。オンラインのヘルプシステムの左側のペイン内のインデックス タブを使用することができます。

インデックスは、すべての関連付けられたキーワードをリストし、それぞれのキーワードをダブルクリックすることによりトピックに移動することができます。1つ以上のトピックが選択されたキーワードに一致する場合があります。選択可能なトピックのリストが表示され、リストからトピックを選択することができます。

検索

「検索」コマンドはフルテキスト検索をオンラインのヘルプシステム上で実行します。

1. クエリフィールドに検索用語を入力し、「Enter」を押します。オンラインのヘルプシステムは、入力された検索用語を含むトピックのリストを表示します。
2. 対応するトピックを表示するために、リスト内のアイテムをダブルクリックします。

サポートセンター

コマンドはFAQ、ドキュメントおよびAltova サポートへ連絡するためのサポートフォームへのリンクを提供します。

WEB 上のFAQ

上記と同様です。

インターネット上の SchemaAgent Server

このコマンドを使用してニュース、製品のアップデートやAltova チームからの追加情報などについての情報が掲載されるAltova Web-サイトをブラウザウィンドウで開くことができます。

SchemaAgent Server に関して

このコマンドは著作権に関する情報とSchemaAgent Serverのバージョンを表示します。SchemaAgent の64 ビットバージョンを使用している場合、これはアプリケーション名の後のサフィックス(x64) により示されています。32 ビットバージョンにはサフィックスは存在しません。

4 SchemaAgent Client

SchemaAgent Client によりスキーマとサポートされたファイル型間のルーションと間のIIR ルーションシップ(インポート、インクルード、と再定義)を作成、または変更するSchemaAgent デザインをビルドすることができます。

SchemaAgent デザイン内で、スキーマ、スキーマベースのMapForce デザインファイル(.mfd) とその関連付けられたスキーマ間のルーションシップを確認することができます。更に XSLT スタイルシートとW SDL ファイルを表示し、スキーマファイルを持つファイル、XML インスタンス .mfd ファイル間のルーションを確認することができます。SchemaAgent デザインを後で編集するためにディスクに保存することができます。

変更されたファイルへの参照は関連付けられたファイル内でグローバルに更新するために、SchemaAgent Client によりスキーマとその関連するファイルを(名前の変更、移動、削除して)管理することができます。この機能によりSchemaAgent Client は、多数の複雑な、関連付けられたスキーマを管理し、これらのスキーマ間のルーションシップとリンクされる他のサポートされるファイルを編集する、パワフルなワークスペースとしての役割を果たすことができます。

SchemaAgent Client をSchemaAgent サーバーに接続する。同じ実行可能内にインストールされているLocalServer、またはスタンドアロンSchemaAgent Server に接続することができます。これらの2つのサーバーの主要な差分は、LocalServer がローカルマシンにインストールされており、同じマシン上のクライアントにサブスクリプション、while SchemaAgent Server はネットワークマシン上にインストール、複数のクライアントにサブスクリプション、詳細なログ情報を提供します。

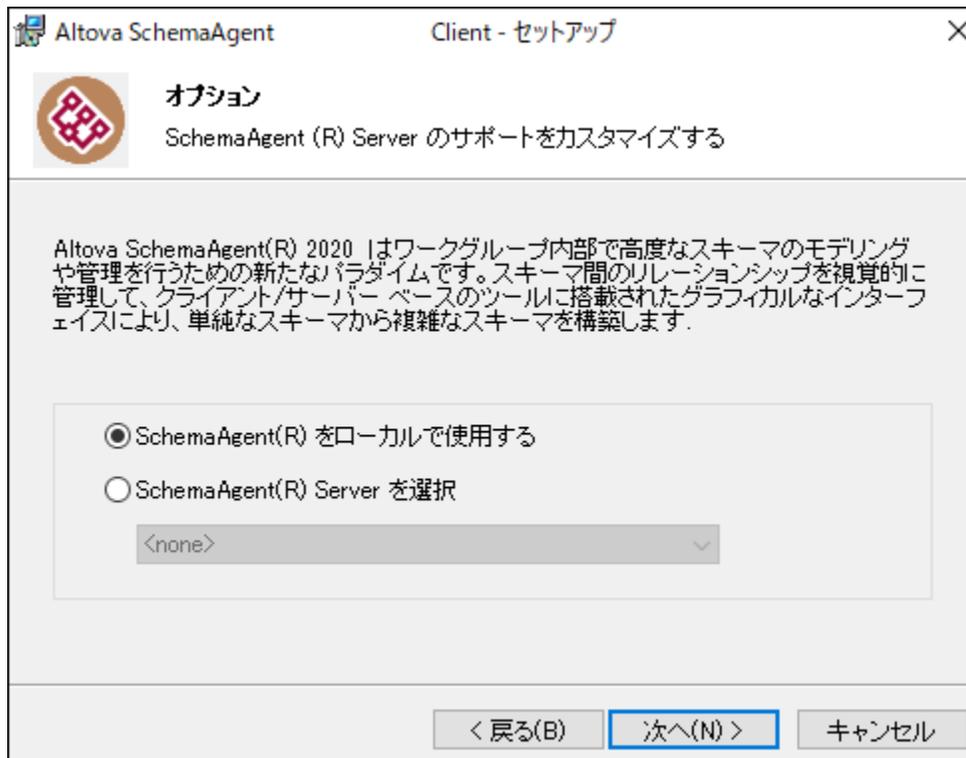
サーバーに接続後、SchemaAgent Client は、それぞれのサーバーの検索ノード内でモニターされたファイルに関する情報を取得し、SchemaAgent Client のエクスプローラーウィンドウ内でツリー構造(階層型タブ、および フォント)として検索ノード内のフォルダーを表示します。SchemaAgent Client 内では、デザインウィンドウ内のSchemaAgent デザインツリーからドラッグしてドロップすることができます。

デザインウィンドウ内で、スキーマとその関連するファイルの構成をビューし、サポートされるファイル間のルーションシップをビルドすることができます。2つのスキーマ間のルーションシップをビルドし変更すると、新規の情報と共に実際のスキーマファイルが更新されるだけでなく、ルーションシップにも影響を受ける他のリンクされたスキーマも更新されます。

4.1 SchemaAgent Client のインストール

SchemaAgent インストールパッケージを SchemaAgent ダウンロードページ (<https://www.altova.com/schemaagent/download>) からダウンロードすることができます。Altova® MissionKit™ を購入済みの場合 SchemaAgent Client がパッケージ内に含まれています。

SchemaAgent Client をインストールする場合、インストーラーファイルをダブルクリックしてインストールプロセスを実行し、ウィザードのステップに従います。インストールプロセスで現在のインストールされている LocalServer と共にクライアントと共に接続する SchemaAgent のローカルの使用、または、既存の SchemaAgent Server に接続するかを問われます。

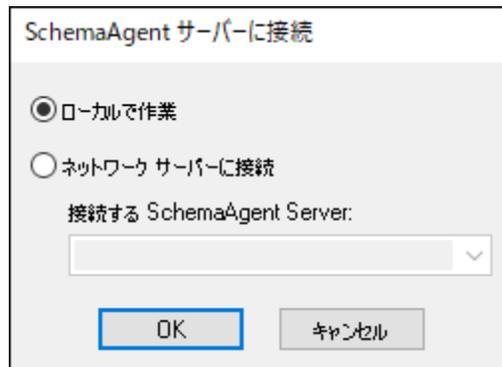


SchemaAgent Server の選択を選択すると、ローカルネットワーク上のコンピュータにインストールされている SchemaAgent Server のインスタンスのリストから選択することができます。SchemaAgent Server のインストールを参照してください。メニューコマンド [その他 | サーバーに接続] を実行して設定を後に変更することができます。

4.2 SchemaAgent Client の開始

SchemaAgent Server を開始するには、以下の内の1つを行ってください！

- SchemaAgent アイコンをデスクトップ上でダブルクリックします。
- 開始 ■■ をクリックしてプログラムのショートカットにアクセスするために[SchemaAgent]を入力します。



サーバーに接続するようプロンプトされると、以下のオプションを選択することができます。

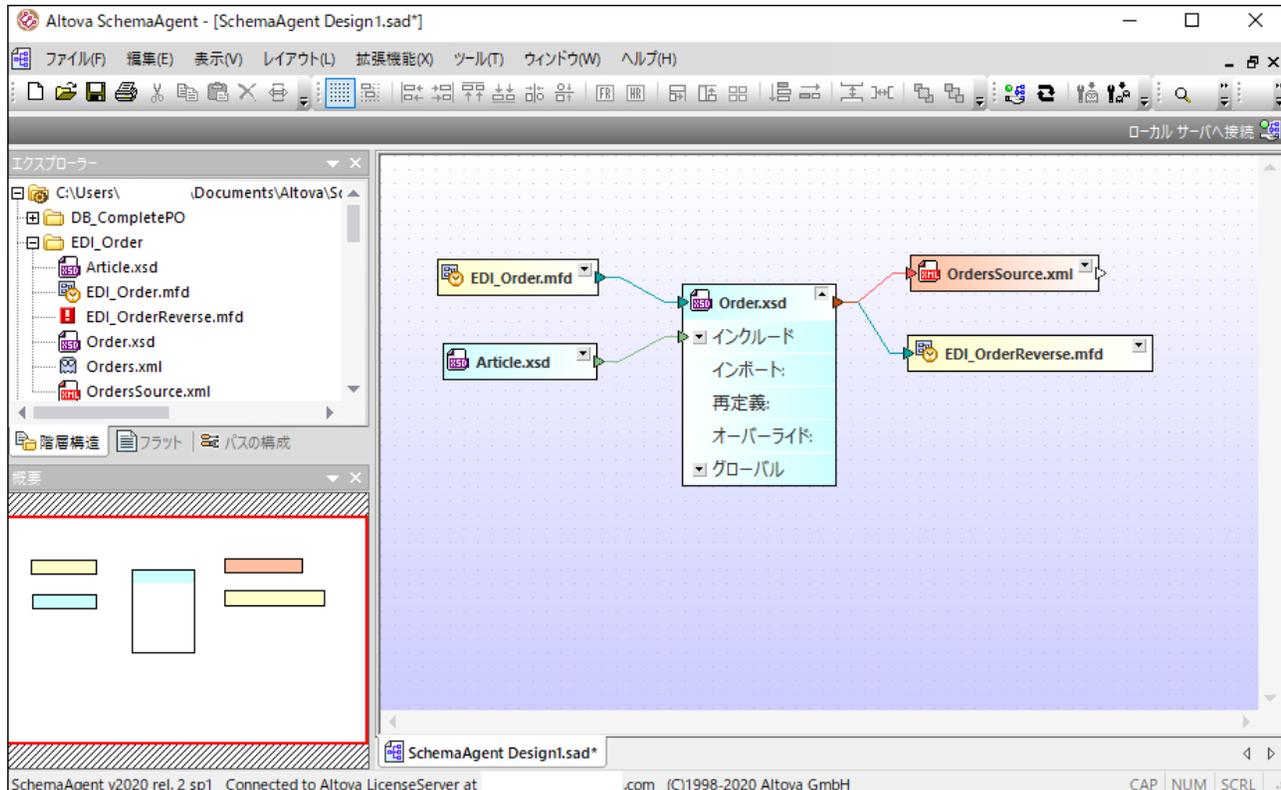
- ローカルで作業。ローカルサーバーを開始して接続するためこのオプションを選択します。このアプローチでは、エクスプローラーウィンドウから検索パスの構成をすぐに開始することができます。サーバーがローカルで動作するため、他のSchemaAgent クライアントは接続できない事に注意してください。
- ネットワークサーバーへの接続。このオプションを選択して以前にインストールされているSchemaAgent Server に接続します。SchemaAgent Server はリスト内に表示されるため動作している必要があります。このアプローチでは、サーバー上で検索パスを構成する必要があります。サーバーに接続されているクライアントは検索パス上でファイルをビューし管理することができます。

サーバーに接続を参照してください。

4.3 SchemaAgent Client ユーザーインターフェイス

SchemaAgent Client にはおつのおおまかな部分に整理することのできる視覚的なインターフェイスです:

- 使用することのできる検索パスとファイルに関する情報を提供するエクスプローラー ウィンドウ。
- メインウィンドウ内で現在表示されているアクティブなデザイン箇所を表示する 概要ウィンドウ。
- デザインウィンドウはサポートされた ファイル型の構造、および、スキーマ間の既存のインクルード、インポート、再定義 (IIR)、または、サポートされるファイルの間のルーションシップ、をそれぞれ視覚的に表示します。

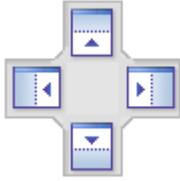


ウィンドウのドッキングまたはボッキングの解除を行う場合、次のいずれかを実行してください:

- ウィンドウのタイトルバーを右クリックしてドッキング (またはフロートをそれぞれ) コンテキストメニューから選択します。
- 矢印  ボタンをウィンドウの右上をクリックしてドッキング (またはフロートをそれぞれ) コンテキストメニューから選択します。
- ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックしてウィンドウのドッキング、ドッキングの解除を切り替えることができます。

新規のポジションにウィンドウをドッキングする方法:

1. ウィンドウのタイトルバーをクリックして新規の場所ドラッグします。ドックするためのヘルパーが表示されます。



2. ウィンドウを上、右、左、下のハンドルドラッグして新しいウィンドウにドッキングします。

ツールバーとウィンドウをデフォルトの状態に復元する方法:

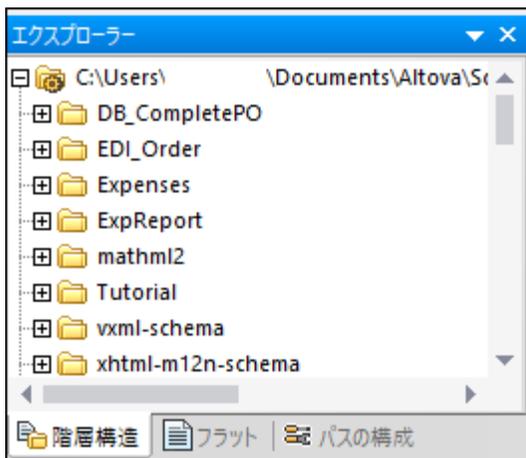
- メニューコマンド [ツール | ツールバーとウィンドウの復元]を実行します。

4.3.1 エクスプローラー ウィンドウ

エクスプローラーウィンドウは選択された SchemaAgent Server のために定義された検索パスを全て、およびここに含まれている関連するファイルを表示します。インストールによりこれらの検索パスを (LocalServer に接続されている場合) / スの構成 タブ または (ネットワークベースのサーバーに接続されている場合) SchemaAgent Server で直接構成することができます。この結果、LocalServer に接続されている場合のみ / スの構成 タブが表示されます。

階層的なタブ

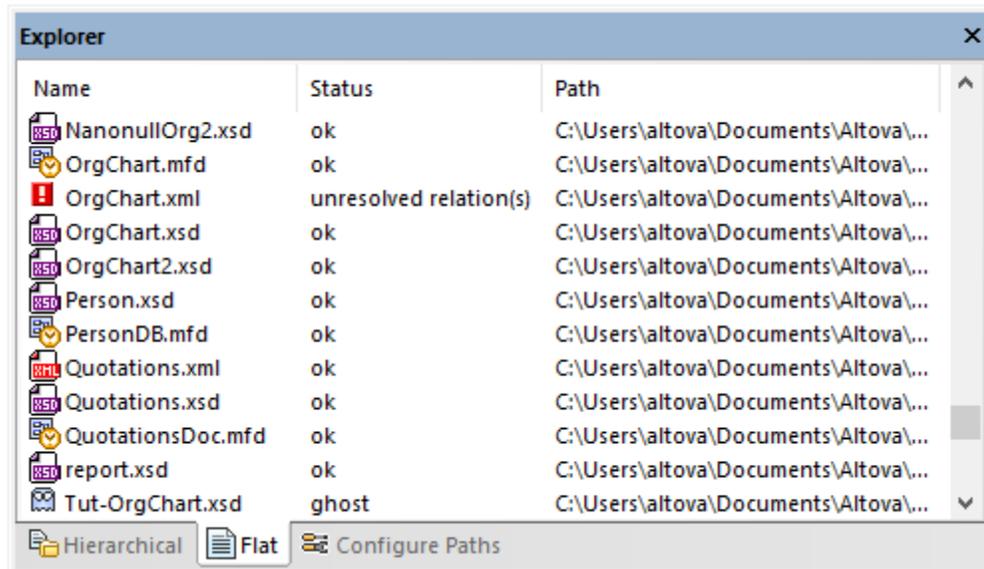
階層的な タブは定義済みの検索パスとそのエントリを全て表示しています。サポートされるファイル型 を含むフォルダーは標準の Windows の外観を持っています。このようなファイルを含むフォルダーは下のイメージのような インポート フォルダーのように見えます。



サポートされるファイルを含むフォルダーを非表示にするにはウィンドウを右クリックして、からのフォルダーの表示 をコンテキストメニューから選択します。

フラットタブ

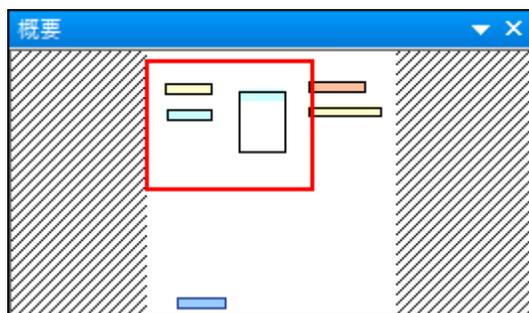
フラット タブはすべての検索パス内の管理されているファイルのすべてのフラットファイル、および存在する場合、外部ファイルフォルダーからのすべてのスキーマを表示します (すなわち、これは検索パス内のスキーマ内で参照されるスキーマを指します。しかしながら、これらは検索パス内には存在しません)。各ファイルエントリはロケーションとそのステータスと共に表示されています。



上のスクリーンショットでは、異なるアイコンがゴーストファイル  と未解決のリレーション  を持つファイルを表示するために使用されていることに注意してください。

4.3.2 概要ウィンドウ

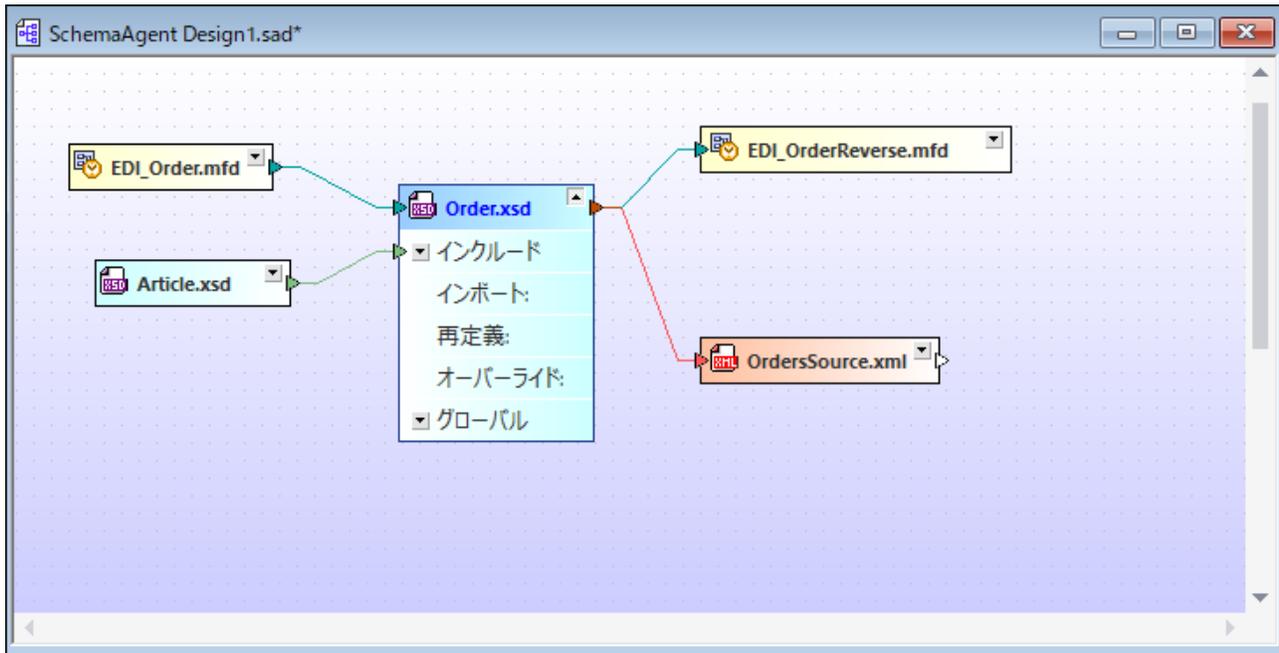
概要ウィンドウは、デザインウィンドウ内で使用できるスペースを占める大きなデザインファイルのためのナビゲーターの役割を果たします。概要ウィンドウはデザイン内で現在表示されているエリアを表示し、デザインファイル内の必要とするロケーションに三角形をクリックしてフォーカスを移動することができます。



4.3.3 デザインウィンドウ

デザインウィンドウで関連したファイル拡張子が定義されたファイルをビューし編集します。

ファイルとその既存のインクルード、インポート、と再定義 (IIR) の視覚的に表示するには、エクスプローラーウィンドウからファイルをドラッグして、デザインウィンドウにドロップします。ファイルは、必要に応じて整列と並べ替えることができ、または、デザインから削除することもできます。削除済みのファイルを再作成することもでき、指定されている場所に存在しないファイルの参照パスを修正することもできます。



スキーマ、またはスキーマとMFD ファイル間のインクルード、インポート、と再定義、はそれぞれ、カスタム化することのできる色の接続線により表示されています。IIR はドラッグアンドドロップを使用して、編集と追加することができ、後で再利用するための各デザインを SAD ファイルとして保存することができます。

複数のデザインウィンドウを作成または開くことができます。ウィンドウメニュー内のコマンドを使用して、ウィンドウをアレンジまたは前景に配置します。

4.3.4 メニューバー、ツールバー、ステータスバー

[メニューバー]には多種のアプリケーションメニューが含まれています。次のロベクションが適用されます:

- メニュー内のコマンドが適用できない場合、使用することができません(灰色表示されています)。
- 一部のメニューコマンドは、追加のオプションをリストするサブメニューをポップアップします。サブメニューを持つメニューコマンドはコマンド名の右側の右向き矢印の先端(三角形)により表示されています。
- メニューコマンドの一部は選択されたコマンドを実行するために必要とされる更なる情報をプロンプトするダイアログをポップアップする場合があります。このようなコマンドはコマンド名の後の省略記号(...)により表示されています。
- メニューコマンドにアクセスするには、メニュー名をクリックし、コマンドをクリックします。メニューアイテムのためにサブメニューが存在する場合、メニューアイテムにマウスポインターをポイントするとサブメニューが開かれます。必要とされるサブメニューアイテムをクリックします。
- メニューはキーボードから適切なキーの組合せ、を押して開くことができます。各メニューのためのキーの組合せは[KEY]がメニュー名内の下線の引かれた文字である箇所の[Alt+KEY]です。例えば [ファイル] メニューのためのキーの組合せは[Alt+F]です。
- メニューコマンド(メニュー内のコマンド)は、以下を順番に選択することにより選択することができます (i) キーの組合せを持つメニュー(前のポイントを参照)、(ii) 特定のコマンドのための[KEY]がコマンド名内の下線の引かれた文字であるキーの組合せ。例えば、ファイルを開くには([ファイル] 開く)、[Alt+F] を押し、[O] を押します。
- 特別なショートカット キー、または キーの組合せ(Ctrl+KEY) を押して、直接メニューコマンドの一部を選択することができます。関連したショートカットを持つコマンドは、ショートカットキー、または、コマンドの右側にリストされるキーの組合せにより表示されています。例えば、ショートカットキーの組合せ[Ctrl+N]を使用して、新規のファイルを作成することができます。エクスプローラーウィンドウ内のファイルまたはフォルダをショートカットキー[F2]を使用して名前を変更することもできます。

ツールバー

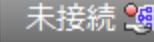
ツールバーにはメニュー内で見つけたコマンドのためのショートカットであるボタンが含まれています。コマンド名はボタンにマウスポインターが置かれると表示されます。コマンドを実行するために、ボタンをクリックします。

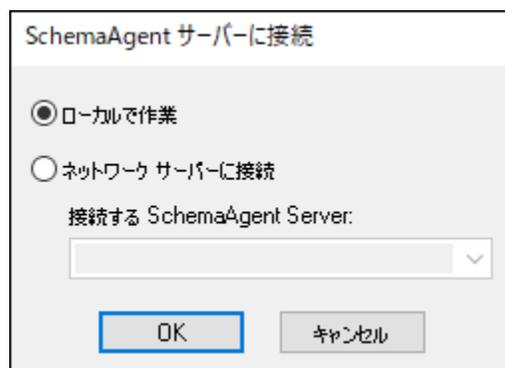
ツールバーボタンはグループ別に整理されます。[ツール| カスタマイズ| ツールバー] ダイアログ内、または ツールバーを右クリック [カスタマイズ] を選択すると、表示されるツールバーグループを指定することができます。GUI 内で、ハンドル(または タイトルバー) をスクリーン上の場所ドラッグすることにより、ツールバーグループを移動することもできます。ハンドルをダブルクリックすると、ツールバーがアンロックされ、フロートした状態になります。タイトルバーをダブルクリックするとツールバーが前の場所ドッキングします。

ステータスバー

ステータスバーはアプリケーション ウィンドウの下に表示され (i) ファイルのロードに関するステータス情報、と (ii) マウスのカーソルがポイントされると使用することのできるメニューコマンドとツールバー内のコマンドショートカットに関する情報。SchemaAgent の 64 ビットバージョンを使用する場合、アプリケーション名の後に サフィックス (x64) を持つステータスバーにより表示されます。32 ビットバージョンにはサフィックスは存在しません。

4.4 サーバーへの接続

SchemaAgent Client を使用するには、アプリケーションをサーバーに最初に接続する必要があります。SchemaAgent Client を起動すると、 アイコンがアプリケーションの右上に表示され、[SchemaAgent Server | 接続] ダイアログボックスがポップアップします。



SchemaAgent Client を使用するために2つのオプションを使用することができます:

- ローカルで作業: ローカルで作業: スタンドアロン LocalServer を SchemaAgent Client 内から構成することのできる使用中のコンピュータで起動します。
- ネットワークサーバーへの接続: 既に作動している複数のユーザーが接続しているネットワークベースの SchemaAgent Server へ接続します。SchemaAgent Server を構成するにはサーバー アプリケーションを開く必要があります、この構成を全ての接続されたクライアントで使用することができます。

SchemaAgent サーバー 接続が既存の場合、新規の接続を作成する前にこの接続を閉じる必要があります。

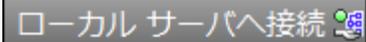
サーバーへの接続方法:

1. メニューオプション [ツール] サーバーへの接続] を選択します。または [サーバーへの接続]  アイコンをクリックします。[SchemaAgent Server | 接続] ダイアログボックスが開かれます。
2. 以下の一つを行います:
 - 起動しスタンドアロン LocalServer に接続するには [ローカルで作業] を選択します。[バスの構成] タブがエクスプローラー ウィンドウに追加されます。
 - [ネットワークサーバーへの接続] を選択し、ドロップダウンリストから、接続する SchemaAgent Server を選択します。検索バスのエクスプローラー ウィンドウ内に表示されます。
3. [OK] をクリックします。

接続を切断する方法:

- システムトレイ内の Altova SchemaAgent サーバー  アイコン(スクリーンの右下)をクリック [シャットダウン] コマンドを選択します。

4.4.1 ローカルでの作業

ローカルのスタンドアロンサーバーに接続を選択する場合 LocalServer が自動的に起動され、[バスの構成]タブがエクスプローラーウィンドウに追加されます。  アイコンがアプリケーションの右上に表示され、システムトレイは LocalServer  アイコンを表示します。

Windows にログインすると LocalServer が自動的に開始されるように以下のように定義することができます:

1. [ツール] メニューから [オプション] をクリックします。
2. [その他] タブをクリックします。
3. [ユーザーがログインする際に起動(スタートアップフォルダーに追加)] チェックボックスを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

LocalServer をシャットダウンする方法:

- システムトレイ内の LocalServer  アイコン(スクリーン右下)をクリックし、**SchemaAgent LocalServer** の [シャットダウン] を選択します。

4.4.2 ネットワークサーバーへの接続

接続するネットワークサーバーをセットアップすると [ネットワークサーバーへの接続] オプションを選択し、ドロップダウンリストから適切なサーバーを選択します。SchemaAgent Client が接続できるように、サーバーが既に作動済みである必要があることにご注意してください。SchemaAgent Server の開始を参照してください。

接続に成功すると  アイコンがアプリケーションの右上に表示され、接続されているサーバーの名前が表示されます。SchemaAgent Server 内で直接検索バスを構成することができ、全ての接続済みのクライアントのために有効であることができます。このため [バスの構成] タブをエクスプローラーウィンドウ内で使用することができます。

4.5 エクスプローラーとの作業

エクスプローラーウィンドウの階層型タブ、およびフラットタブでは、定義済みの検索ノードと定義済みのファイル拡張子を持つファイルが全て表示されます。階層型タブ内では、既存のファイルまたはフォルダーを更に、作成、名前を変更、削除することができます。またファイルとフォルダーを各ノード内の他の箇所に移動し、ゴーストファイルを再作成することができます。

エクスプローラーウィンドウ内の全てのアクションは、コンテキストメニューを使用して、またはドラッグアンドドロップを使用して操作されます。コンテキストメニューのコンテンツはファイル、フォルダー、またはエリアが呼び出される場所により異なります。エクスプローラーウィンドウ内の空白のエリアを右クリックすると、次のメニューが表示されます：

- 空のフォルダーの表示: このコマンドは[ノードの構成]タブ内の定義済みファイル拡張子を使用して、ファイルを含むフォルダーの表示をオンとオフ切り替えることができます。
- 検索ノードの追加: このコマンドはLocalServerに接続している場合使用することができます。ノードの[ノードの構成]タブに変更され、新規の検索ノードの設定を定義することのできる[検索ノードの追加]ダイアログボックスが開かれます。

ファイルまたはフォルダーを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示される場合があります：

- 名前の変更 (F2): 選択されたファイル、またはフォルダーの名前の変更をします。
- 削除 (Delete): 選択されたファイルまたはフォルダーをファイルシステムから削除します。
- 新規作成: コマンドはフォルダーのために使用することができます。新規のファイル、またはフォルダーの作成を選択することのできるサブメニューを開きます。
- 再ロード: ディスクから選択されたファイルを再ロードします。複数のファイルを選択して[再ロード]コマンドを実行してファイルを単一のステップで再ロードすることができます。
- 再作成: 少なくとも1つのゴーストファイルが選択されている場合のみこのコマンドを使用することができます。ゴーストファイル名を持つ新規の基本的なファイルが作成されます。
- 参照ノードの修正 (Ctrl+R): このコマンドはゴーストファイルへの参照が少なくとも1つあるファイルを選択している場合のみ使用することができます。異なる場所にあるゴーストファイルを検索することのできるダイアログボックスを開きます。
- 同期の選択: デザインウィンドウ内でデザインが開かれている場合、このコマンドはデザインウィンドウ内で、エクスプローラー内で選択された同じファイルを選択します。
- MapForce内でファイルを編集 (Ctrl+M): 編集のためにMapForce内で選択された.mfdファイルを開きます (MapForceがインストールされていることが条件です)。
- XMLSpy内でファイルを編集 (Ctrl+Y): 編集のためにXMLSpy内で選択されたファイルを開きます (XMLSpyがインストールされていることが条件です)。
- ファイルをクリップボードに挿入 (Ctrl+C): デザインウィンドウで張り付けるために選択されたファイルをクリップボードにコピーします。
- ファイルを現在のデザインに挿入 (Insert): 選択されたファイルはデザインウィンドウ内で現在開かれているデザインに追加します。

(ファイルの名前の変更、ファイルの削除、またはインクルード、リネーミングのインポートまたは再定義の変更など) 階層型タブ、およびフラットタブ内での変更は変更されたファイルの参照に自動的に影響します。これらのアクションのために元に戻すコマンドが存在しないため、SchemaAgent Clientと作業する際はバックアップシステム、またはソース管理ソフトウェアを使用することが奨励されます。

4.5.1 ファイルとフォルダーの作成

エクスプローラーウィンドウ内で新規のファイルまたはフォルダーを作成する方法

1. [階層型] タブ内でファイルまたはフォルダーを作成する箇所でフォルダーを選択します。
2. 右クリックし、適用可能な場合コンテキストメニューから以下のコマンドの一つを選択します:

- 新規作成 | スキーマ
- 新規作成 | XML ファイル
- 新規作成 | XSL ファイル
- 新規作成 | W SDL 1.1 ファイル
- 新規作成 | W SDL 2.0 ファイル
- 新規作成 | MapForce デザイン
- 新規作成 | フォルダー

新規のファイルの作成を選択する場合、対応するファイル拡張子を持つ基本の[タイトルの無い]ファイルが作成されます。フォルダーの作成を選択すると、[新規のフォルダー]と呼ばれる新規の空のフォルダーが作成されます。

3. 内容を示す名前を入力して [Enter] を押します。

新規のスキーマを XMLSpy 内で開くと、以下のようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  elementFormDefault="qualified"
  attributeFormDefault="unqualified" />
```

新規のXML ファイルには次のエンティティが存在します:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<root />
```

新規のXSLT ファイルは以下のようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<xsl:stylesheet version="2.0"
  xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform"
  xmlns:fo="http://www.w3.org/1999/XSL/Format"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:fn="http://www.w3.org/2005/xpath-functions" />
```

新規のW SDL 1.1 ファイルの追加を選択すると、次のエンティティを持つファイルが作成されます:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<wsdl:definitions
  xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
  xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/http/"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:soapenc="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/mime/"
  xmlns:tns="http://new.webservice.namespace"
  targetNamespace="http://new.webservice.namespace" />
```

新規のWSDL 2.0 ファイルの追加を選択すると、次のエレメントを持つファイルが作成されます:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<wsdl:description
  targetNamespace="http://new.webservice.namespace"
  xmlns:wsdl="http://www.w3.org/ns/wsdl"
  xmlns:wsoap="http://www.w3.org/ns/wsdl/soap"
  xmlns:whttp="http://www.w3.org/ns/wsdl/http"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:tns="http://new.webservice.namespace" />
```

4.5.2 ファイルとフォルダーの名前の変更

エクスプローラーウィンドウ内で、ファイルの名前を変更すると、SchemaAgent は、自動的に変更された名前への参照を修正し、デザインウィンドウ内で現在開かれているデザインに名前が変更されているアイテムが含まれているかを表示します。

メモ ファイルの名前を変更する際、ファイル拡張子を変更することができますが、ファイル型は変更されずファイルを使用できなくなる可能性があります。ファイル拡張子を変更しようとする時 SchemaAgent は警告を表示します。

ファイルまたはフォルダーの名前の変更の方法:

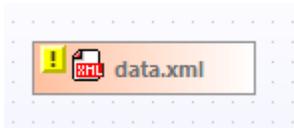
1. エクスプローラーウィンドウ内で、ファイルまたはフォルダーを選択し、以下の内の一つを行ってください。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「名前の変更」を選択します。
 - 「F2」を押します。
2. 名前を希望するとお変更します。変更された名前への参照は自動的に更新されます。

4.5.3 ファイルとフォルダーの削除

エクスプローラー ウィンドウからファイル、または、フォルダーをディスクから削除することができます。

注意点: 削除されたファイルはWindows コミ箱に存在しないため、このステップを元に戻すことはできません。

削除されたファイルがデザイン ウィンドウ内に存在すると、未知のファイルとして表示され黄色の警告アイコンが表示されます。



ファイルまたはフォルダーの削除方法:

1. エクスプローラー ウィンドウ内で、ファイルまたはフォルダーを選択し、以下の内の1つを行ってください。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから[削除]を選択します。
 - 「削除」キーを押します。
2. メッセージボックス内で[はい]をクリックして、削除を確認します

4.5.4 ファイルの編集

インクルード、インポート、と再定義の定義以外に SchemaAgent 内でファイルを直接編集することはできません。しかしながら、エクスプローラー ウィンドウとデザインウィンドウのコンテキストメニューは、XMLSpy、または、MapForce 内の選択されたファイルを編集するオプションを提供します。それぞれのプログラムが使用中のコンピューターにインストールされている場合のみこれらのオプションを使用できることに注意してください。

XMLSpy 内でファイルを編集する方法:

- デザインウィンドウ、または、エクスプローラー ウィンドウ内で、編集するファイルを選択し、以下の内の1つを行ってください。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから[XMLSpy 内で編集する]を選択します。
 - 「Ctrl+Y」を押します。

MapForce 内でMFD ファイルを編集する方法:

- デザインウィンドウ、または、エクスプローラー ウィンドウ内で、編集するMFD ファイルを選択し、以下の内の1つを行ってください。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから[MapForce 内での編集]を選択します。
 - 「Ctrl+M」を押します。

4.6 デザインウィンドウ内でのファイルの表示

デザインウィンドウは、XML スキーマ、MapForce デザインファイル、XML ファイル、XSL/XSLT スタイルシート、W SDL ファイルと IIR リレーションの最適な表示を促進するために構成することのできる複数のグリッドとズームオプションが搭載されています。

グリッドの表示または非表示

デザインウィンドウ内でグリッドを表示することにより、ファイルボックスを正確に配置する助けになります。各戸別のデザインウィンドウのためにグリッドの表示をオフとオンに切り替えることができます。

SchemaAgent デザインウィンドウ内でグリッドの表示をオフとオンに切り替える方法:

以下の一つを行います:

- メニューオプション [レイアウト | グリッドの表示] を選択します。
- デザインペイン内を右クリックし、コンテキストメニューから [配置 | グリッドの有効化] を選択します。
- [Alt+G] を押します。
- [グリッドの有効化/無効化]  アイコンを配置ツールバーから選択します。

グリッド上でのファイルボックスの配置

1. [ツール] メニューから [オプション] をクリックします。
2. [デフォルトでグリッドを有効化する] オプションを選択またはクリアします。

グリッド上のファイルボックスの配置方法:

グリッドが表示されていない場合は、グリッドの表示をオンに切り替えます

グリッド上でファイルボックスを整列する方法:

1. グリッドが表示されていない場合は、グリッドの表示をオンに切り替えます。
2. 整列するファイルボックスを選択します。
3. 以下の一つを行います:
 - メニューコマンド [レイアウト | グリッドにあわせる] を選択します。
 - 配置ツールバーから [グリッドにあわせる]  アイコンを選択します。

特定のファイルボックスのみを整列するには、タイトルバーを右クリックして [整列 | グリッド上] をコンテキストメニューから選択します。

ズームインとアウト

デザインのズームは、各デザインウィンドウのために調整することができます。SchemaAgent は、この目的を達成するために [レイアウト | ズーム] メニューコマンドと、ズームツールバーを搭載しています。更に (マウスのスクロールホイールを使用して [Ctrl] キーを押したままで、デザイン内外をスクロールによりズームすることができます。

デザインビュー内外でズームする方法:

1. 以下の一つを行います:
 - メニューコマンド [レイアウト | ズーム] を選択し、[ズーム]を選択します。
 - [ズームダイアログの表示]  ツールバーアイコンをクリックします。

[ズーム] ダイアログボックスが表示されます。



2. 以下の一つを行います:
 - スライダーを使用してズーム機能を調節します。
 - スライダーの下のボックスに特定の倍率を入力します。
3. [OK]をクリックします。

または、[ズーム]ツールバー内のドロップダウンリストからズームの倍率を選択、または、入力することもできます。

デザインウィンドウ内ですべてのファイルボックスを画面に合わせる方法:

- 以下の一つを行います:
 - メニューオプション [レイアウト | ズーム] を選択し、[画面にあわせる]をサブメニューから選択します。
 - [画面にあわせる]  ツールバーオプションをクリックします。

ズーム機能が調整され、デザインウィンドウ内の全てのファイルボックスが画面内に表示されます。

選択するためにズームする方法:

1. 1つまたは複数のファイルボックスを選択します。
2. 以下の一つを行います:
 - メニューオプション [レイアウト | ズーム]を選択し、[選択対象にあわせる] をサブメニューから選択します。
 - [選択対象にあわせる]  ツールバーオプションをクリックします。

ズーム機能が調整され、デザインウィンドウ内の全てのファイルボックスが画面内に表示されます。

4.6.1 デザインの作成と保存

デザインウィンドウで視覚的にリレーションシップをデザインし管理することができます。すなわち、無制限の数のW3C XMLスキーマ間のIIR（インクルード、インポート、または再定義）、およびXSLTスタイルシート、Webサービス記述言語（WSDL）ファイル、MapForce デザイン（.mfd）ファイル、またはXMLファイルと関連したスキーマ間のリレーションシップの表示を意味します。このように、スキーマ（と.mfd、またはXMLファイル）を関連付けられたファイルのコレクションに整理することができます。

SchemaAgent デザインを後で編集するためにSADファイルとして保存することができます。ファイルのセット（従って、そのリレーションシップ）が複数のSchemaAgent デザイン内に含まれることができます。SchemaAgent デザイン内で作成されたIIRリレーションシップは、リレーションシップが作成されると、それぞれのファイルに伝達されます。

SchemaAgent デザインウィンドウを開く方法:

- メニューオプション [ファイル | 新規作成] (Ctrl+N) を選択します。または、標準ツールバー内の [新規作成]  ボタンをクリックします。

既存のSchemaAgent デザイン（ファイル）を開く方法:

1. メニューオプション [ファイル | 開く] (Ctrl+O) を選択します。または、標準ツールバー内の [開く]  ツールバーボタンをクリックします。[開く] ダイアログボックスが表示されます。
2. [開く] ダイアログボックス内で、必要とするファイルを選択し「開く」をクリックします。

前回使用されたデザインファイルを開く方法:

- メニューオプション [ファイル] を選択し、メニューの下部に表示されている最近開かれたファイルの1つをクリックします。

デザインの保存方法:

1. メニューオプション [ファイル | 保存 (Ctrl+S)] を選択し、または、標準ツールバー内の [保存]  ボタンをクリックします。または、ファイルを異なるファイル名、または、パス名で保存する場合、メニューオプション [ファイル | 名前を付けて保存] を選択します。
2. デザインがまだ保存されていない場合、パスを選択して [名前を付けて保存] ダイアログボックスにファイル名を入力します。

現在アクティブなデザインファイルを閉じる方法:

1. 閉じるデザインファイルのために、SchemaAgent デザインウィンドウを選択します。
2. メニューオプション [ファイル | 閉じる] を選択します。

4.6.2 ファイルとフォルダーの挿入

エクスプローラー内のコンテキストメニューを使用して、または、エクスプローラーウィンドウからデザインウィンドウ内にドラッグすることによりサポートされる拡張子を持つファイルはデザインに追加されます。各ファイルはファイルボックスとして表示されます。ファイル間に既存のリレーションシップは色のマーカーで表示されています。

ファイル、または、フォルダーをデザインを挿入する方法:

エクスプローラーウィンドウ内で、以下の内の1つを行ってください!

- 1つまたは複数の個別のファイルを挿入する場合は、必要とするファイルを選択し、左側のマウスボタンを使用して、デザインウィンドウにドラッグします。
- フォルダー内に含まれているすべてのファイルを挿入する場合は、フォルダーをデザインウィンドウにドラッグします。

ドラッグされたフォルダーに含まれているファイルはそれぞれデザインウィンドウに表示されます。または、1つまたは複数のファイルまたはフォルダーを選択し、コンテキストメニューから[現在のデザインへ挿入する]を選択、または[挿入]を押します。

ファイルとすべてのディレクトリ、または、間接的に参照されたファイルを挿入する方法:

- 右のマウスボタンを使用して1つまたは複数のファイルを選択し、デザインウィンドウにドラッグし、希望するオプションを表示されるコンテキストメニューから選択します。選択されたファイルと対応する参照されているファイルはデザインウィンドウ内に表示されます。

4.6.3 関連するフォルダーの挿入

スキーマをドラッグすると、デザインウィンドウ、コンテキストメニューを使用してすべての関連付けられたMFD、または、XML ファイルをデザインに追加することができます。

関連した基になるファイルをデザインに挿入する方法:

- ファイルボックスのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューの[挿入] サブメニューから次のオプションを選択します:
 - 直接参照付けられているすべて
 - 直接参照するすべて
 - 全ての関連するディレクトリ
 - 参照されるすべて
 - 参照しているすべて
 - 関連しているすべて
 - リンクされているすべて

ファイル、スキーマファイル、XML ファイル、XSLT ファイル、WSDL ファイル、または、MapForce デザインを選択することで、これらのメニューオプションのサブメニューを開きます。[ファイル] オプションは、必要条件を満たすすべてのファイルを挿入し、残りのオプションは選択されたファイル型に挿入されるファイルを制限します。

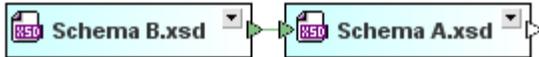
右側のマウスボタンを使用してエクスプローラーウィンドウからドラッグしてデザインウィンドウ内にファイルを挿入する際にもこれらのオプションを使用することができます。

4.6.3.1 直接関連付けられたファイル

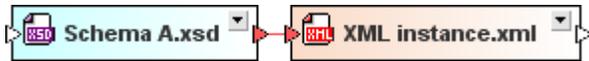
直接関連付けられたファイルは、デザインウィンドウ内で実線の接続線により表示されます。

直接参照されたファイル

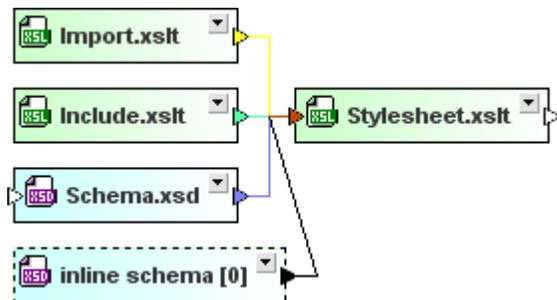
これらはインクルード、インポート、再定義、または(IIR) ステートメントを使用して直接参照されているファイルです。例えば、スキーマA がスキーマB を参照するインクルードステートメントを持つ場合、スキーマB は直接スキーマA により参照されています。



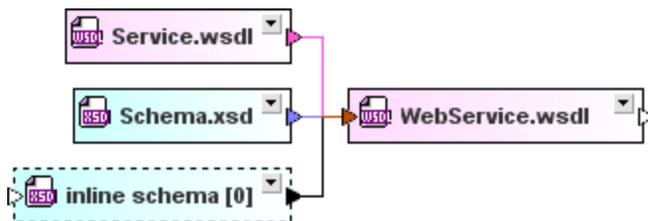
XML ファイルは、1つまたは複数のXML スキーマ、または XSLT スタイルシートを参照することができます。



XSLT ファイルはXML スキーマをインポートすることができ、他のXSLT ファイルをインポート、またはインクルードすることができます。更に、定義済みの1つまたは複数のインラインのスキーマを持つことができます。これらのルーションは直接的な参照です。



WSDL ファイルは、存在する他のインポートされたWSDL ファイルとXML スキーマとインラインのスキーマを直接参照することができます。



.mfd ファイルは、ソースターゲットスキーマとXML インスタンスを直接参照することができます。



ファイルを直接参照する方法

この場合、挿入されるファイルは、挿入されるファイルにより参照されている選択されたファイルである。IIR ステートメントを持つ選択されたファイルを参照します。上のサンプルではスキーマ A はスキーマ B を直接参照しており Target.xsd は Design File.mfd を直接参照しています。

全ての関連するディレクトリ

このオプションは直接的、及び、間接的に参照されているファイルに適用されます。

4.6.3.2 間接的に関連付けられたファイル

ファイルが間接的に互いに関連付けられている場合、直接的な接続線はファイルボックス間に表示されません。リレーションは 3 番目のファイルボックスを介して、これらのファイルへの直接的なリレーションとして作成されます。

直接参照されたファイル

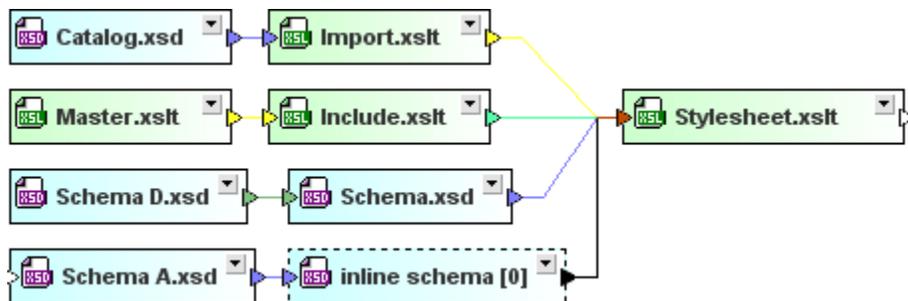
直接、または間接的に参照されるファイルが存在します。例えば、スキーマ A がスキーマ B を参照するインクルード ステートメントを持つ場合、スキーマ B がスキーマ C を参照するインクルード ステートメントを持つ場合、(i)スキーマ A は、スキーマ B を直接参照しています (ii) スキーマ B はスキーマ C を直接参照しています (iii) (スキーマ A がスキーマ C を参照するスキーマ B を参照するため)スキーマ A はスキーマ C を間接的に参照しています。



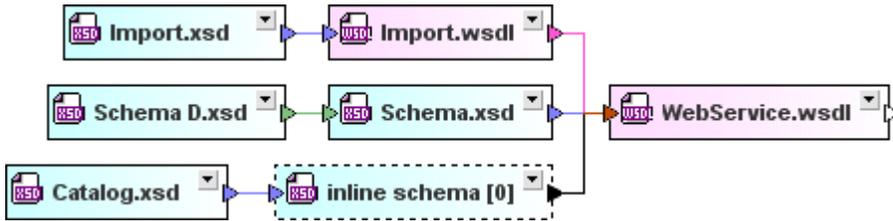
XML ファイルにより直接参照されるスキーマがスキーマ A によりスキーマ B がインポートされているなどの別のスキーマを参照する場合、このスキーマ(このサンプルではスキーマ B) がXML ファイルにより間接的に参照されていると考えられます。



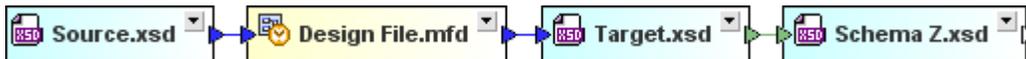
XSLT スタイルシートにより直接参照されるファイル内にインクルードまたはインポートされるスキーマとXSLT ファイルは、これらのスタイルシートにより間接的に参照されていると考えることができます。Stylesheet.xslt 内に含まれている Import.xslt 内にインポートされているため、下のサンプルでは、Catalog.xsd は直接 Stylesheet.xslt により参照されています。



W SDL ファイルは (インライン) スキーマおよび/またはこれらの (インライン) スキーマがインクルード、インポート、または再定義することのできる他のスキーマを含むことができます。(下のサンプル内のスキーマインポート、D とカタログなど)スキーマ内でインクルードされる、インポートされる、または再定義されるスキーマは W SDL ファイルにより間接的に参照されます。



.mfd ファイルの場合、直接参照されているソースとターゲットスキーマに加え、ソーススキーマが参照するスキーマ、または参照されているターゲットスキーマ（このサンプルではスキーマ Z）は MFD ファイルにも参照されていると考えられます。



参照されたファイル

選択されたファイルを直接、または間接的に参照するファイル

関連しているすべて

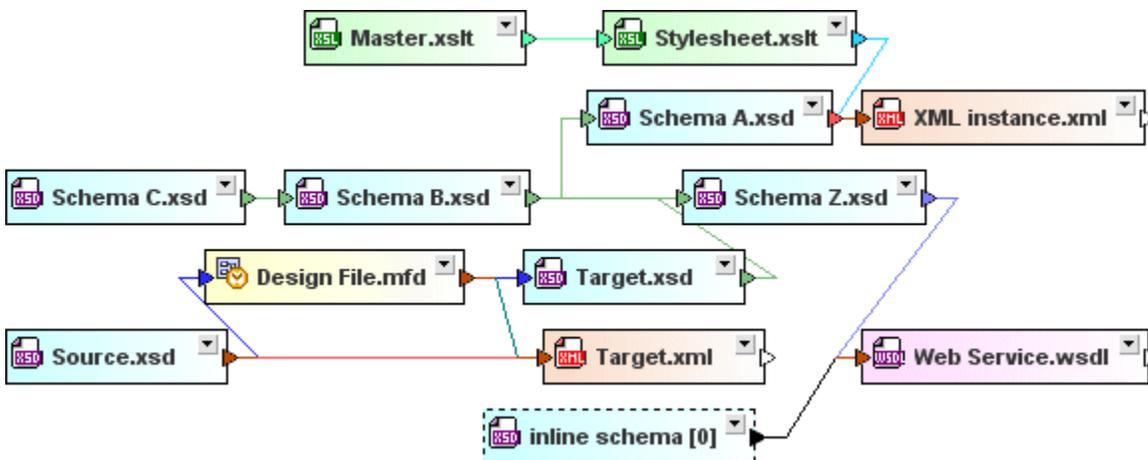
このオプションは直接的、または間接的な参照を持つファイルを参照する、またはファイルにも参照する項目に適用されます。

4.6.3.3 リンクされているファイル

これは直接および間接的に参照されているスキーマ、および直接および間接的に参照されているスキーマにリンクされているスキーマです。例えば、前のサンプルを展開して、スキーマ Z がスキーマ B を含むと（スキーマ A にはスキーマ B が含まれるため）スキーマ Z はスキーマ A にリンクされます。更にスキーマ A にリンクされているスキーマ Z は MFD ファイルのターゲット、またはソーススキーマより、その MFD ファイルはスキーマ A にリンクされているものと考えられます。

スキーマ B を含むスキーマ Z を使用し、スキーマ A はスキーマ B を含むため **Web Service.wsdl** はスキーマ A にリンクされています。

スキーマ A を参照する **instance.xml** にも参照されているため **Stylesheet.xslt** はスキーマ A にリンクされています。



4.6.4 デザイン内でファイルを整理する

デザインウィンドウ内にファイルを挿入すると、マウスを使用して必要とするロケーションにドラッグして、デザインペイン上でファイルボックスを整理することができます。多数のファイルを含むデザインに関しては概要ウィンドウは概要を提供し、デザイン内で表示することができる部分を一瞥することができます。

ボックスのサイズ調整をボックスの枠線をドラッグして、またはボックスのタイトルバーの  ボタンをクリックして展開し行うことができます。

ファイルボックス内のアイデザインウィンドウ内で、ファイルボックスから次のファイルボックスにナビゲートするには、カーソルキー(上、下、左、右)を使用します。

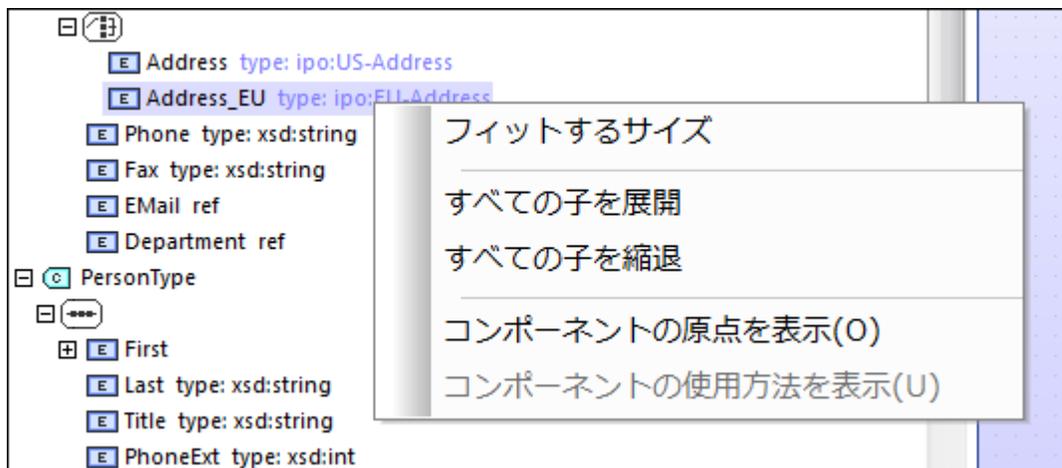
ファイルボックスを展開し折りたたむ方法:

- タイトルバー、または、ファイルボックス内の展開  ボタンをクリックします。

ファイルボックス内のツリー構造を展開し折りたたむ方法:

以下の内の1つを行ってください!

- 個別のアイテムを展開、または、折りたたむには、アイテムの左側のプラスまたはマイナスアイコンをクリックします。
- 個別のアイテムとその子を展開、または、折りたたむには、アイテムを右クリックして、コンテキストメニューから [全ての子の展開]、または [全ての子を折りたたむ] を選択します。



- ファイルボックス内の全てのアイテムを展開、または、折りたたむには、ボックス内のアイテムを右クリックし、コンテキストメニューから [全て展開する]、または [全て折りたたむ] を選択します。

ファイルボックス内のすべての展開されたアイテムを表示する方法:

- ファイルボックスの展開されているセクション内を右クリックし、コンテキストメニューから [フィットするサイズ] を選択します。

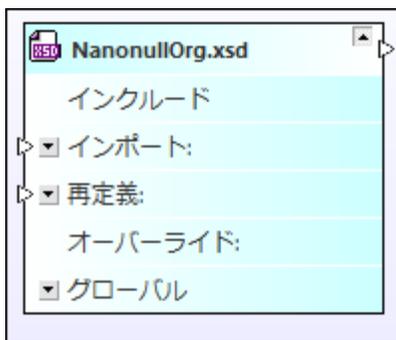
4.6.5 スキーマの表示

デザインウィンドウ内で、各スキーマは折りたたみ、展開することのできるボックスとして表示されています。スキーマがデザイン内に挿入されると折りたたまれたスキーマボックスとして表示されます。

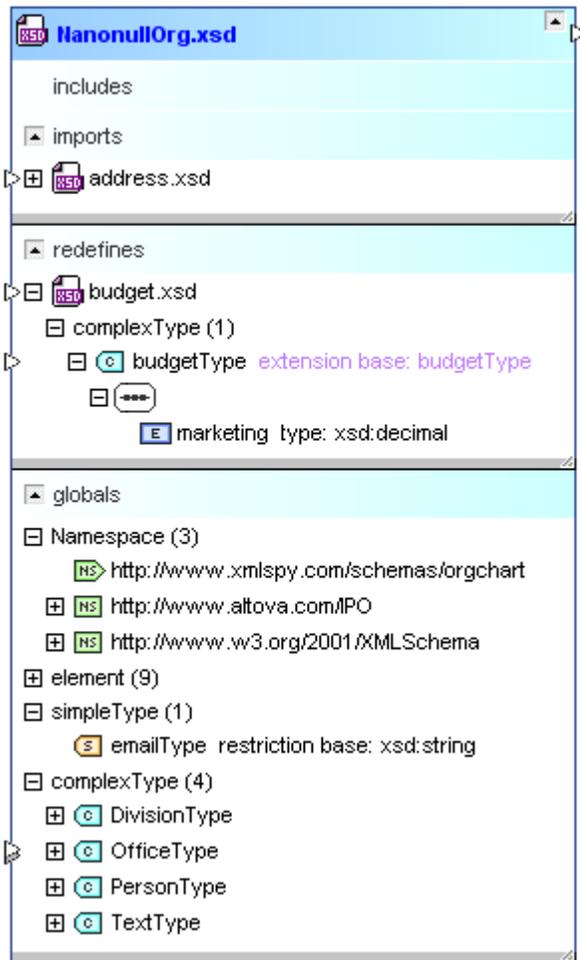


上のスキーマ内では、展開 ボタン内の矢印の先端(三角形)以外に、2つの矢印の先端(三角形)が存在します。左側の矢印は、このスキーマが他のスキーマ、またはスキーマエッセントをインクルード、インポート、または再定義することを示しています。スキーマボックスを展開することにより、他のスキーマ、またはスキーマエッセントがインクルード、インポート、または再定義されるかを決定することができます。右側の矢印の先端(三角形)はこのスキーマ、または他のスキーマ内のスキーマエッセントをインクルード、インポート、または再定義する IIR を作成するために使用されます。

最小化されたスキーマボックスをタイトルバー内のボタンをクリックすることにより展開することができます。4つのセクションに展開されます: インクルード、インポート、再定義、およびグローバル。下のスクリーンショットでは、インポートと再定義セクションの左側の矢印はこのスキーマインポートには少なくとも1つのスキーマと再定義、少なくとも1つの外部スキーマからのスキーマエッセントが存在していることを示しています。



サブ構造が存在する場合、スキーマボックスの(スキーマボックスの右上にある展開 ボタンにより表示されている)各セクションを更に展開することができます。このサブ構造は自由に展開することのできる IIR とグローバルエッセントのソリ構造として表示されます。



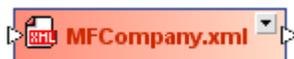
個別のセクションを展開することにより表示される詳細のレベルにより矢印を移動することができます。**OfficeType** 複合型 の横の二重の矢印の先端(三角形)は、このセクションが2つのルーションシップが含まれていることを示しています。

スキーマの表示方法:

1. エクスプローラーウィンドウからビューするスキーマをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップします。または、コンテキストメニューを使用してファイルを現在のデザインに追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、IIR または、コンポーネントの詳細情報を表示します。

4.6.6 XML インスタンスファイルの表示

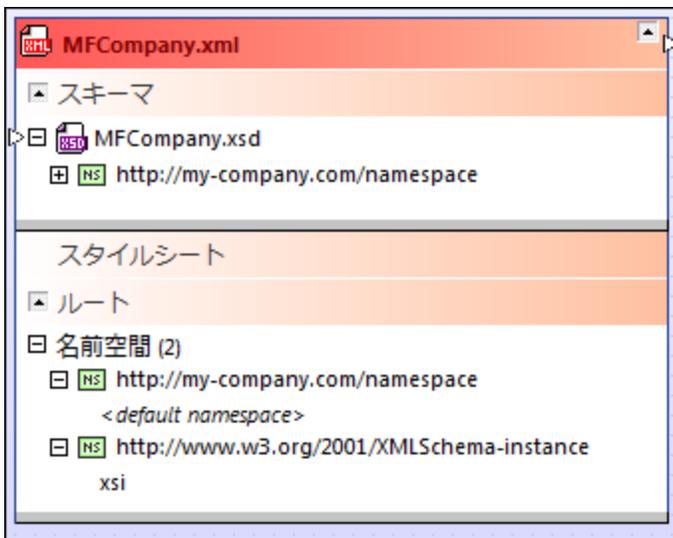
デザイン内に挿入されたXML ファイルは、折り込まれたXML ボックスとして表示されます。



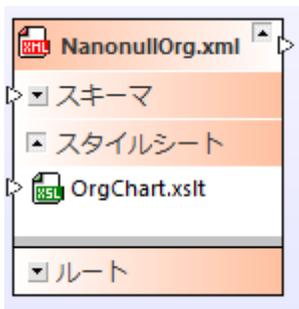
XML ボックスのデザインはスキーマボックスのデザインと同様にデザインされています。ボックスを展開することができ、3つのサブセクションが表示されます。下のスクリーンショットでは、スキーマセクションの左側の矢印の先端(三角形)は、このXML インスタンスに定義済みのXML スキーマが存在することを示しています。



XML ボックスのスキーマとルートセクションを更に展開し、XML ファイルのためこのXML スキーマと名前空間が定義されているかを確認することができます。



XML インスタンスに定義済みのXSLT スタイルシートが存在する場合、スタイルシート セクションを展開することができ、XSLT ファイル上の情報を確認することができます。



XML ファイルの表示方法:

1. エクスプローラーウィンドウからXML ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、または、コンテキストメニューを使用して現在のデザインに追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、スキーマ、スタイルシート、または、名前空間に関する詳細情報を表示します。

4.6.7 XSL/XSLT スタイルシートの表示

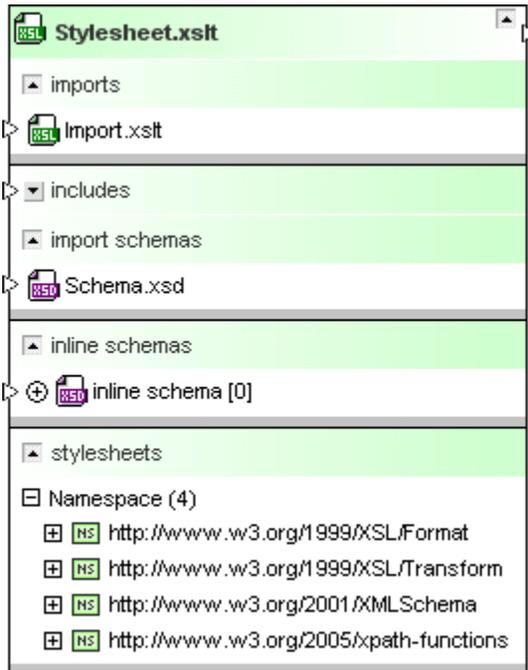
デザインウィンドウに挿入されると、XSLT スタイルシートは、折りたたまれたXSLT ボックスとして表示されます。



展開されたボックスは、インポートされている、または、インクルードされているXSLT ファイル、インポートされたスキーマ、インラインのスキーマ、とスタイルシートのための、5つのサブセクションを表示します。



サブセクションを展開すると、スタイルシートのために定義されているインポートされた、または、インクルードされたファイル、と名前空間の名前が表示されます。



注意: バージョン 1.0 のスタイルシート ファイルは、スキーマ、または、インラインのスキーマのインポートをサポートしないため、関連したセクションはこれらのファイルのファイルボックス内に表示されません。スタイルシートファイルのバージョンは、ファイルボックスのウィック情報内に表示されています。

XSLT ファイルの表示方法:

1. エクスプローラーウィンドウからXML ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、または、コンテキストメニューを使用して現在のデザインに追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、インポート、または、インクルード、インポートされた、または、インラインのスキーマ、または、名前空間の詳細情報を表示します。

4.6.8 WSDL ファイルの表示

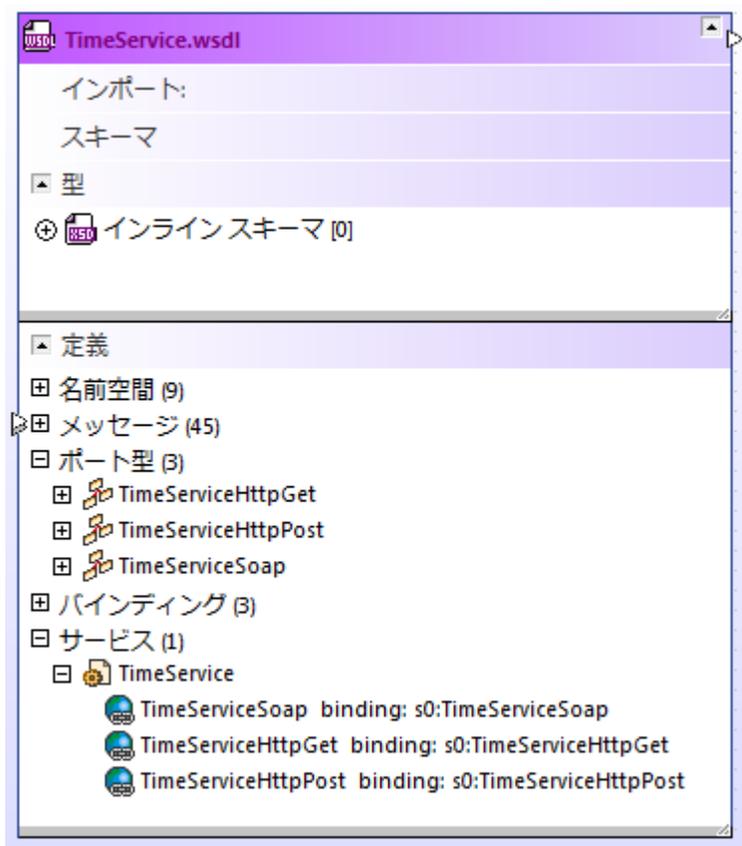
WSDL ファイルをデザインウィンドウに追加すると、折りたたまれた状態で表示されます。



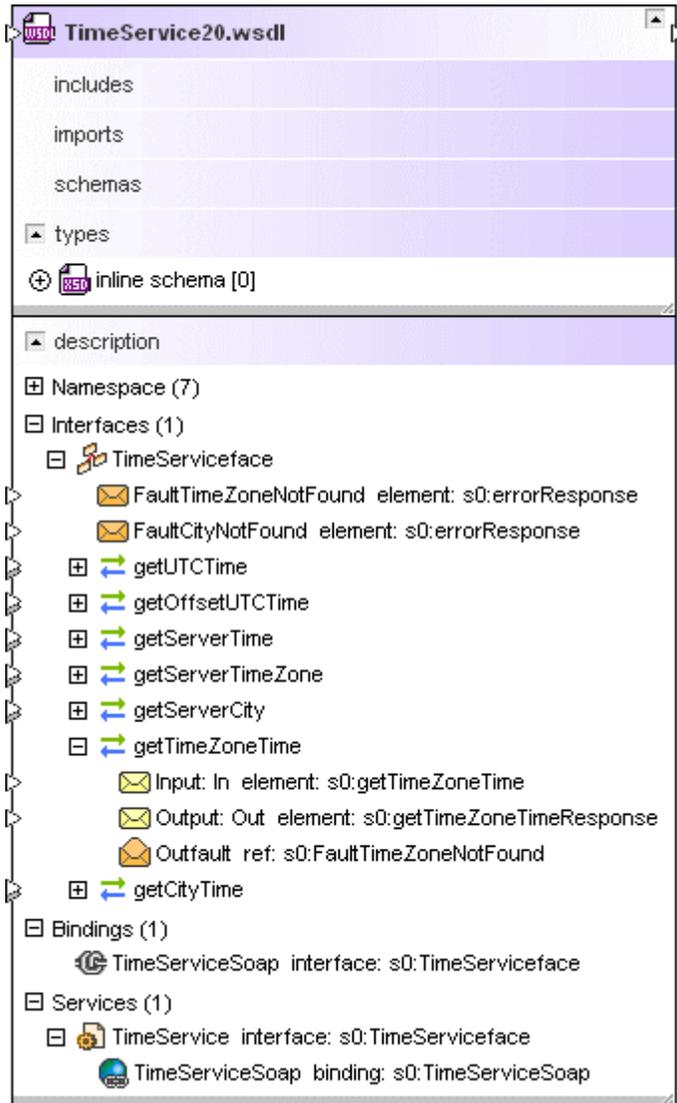
展開されたボックスはインポートされたWSDL またはXML スキーマファイル、インラインのスキーマ、と定義のための一つのサブセクションを表示しています。



サブセクションを更に展開する場合、インポートされたWSDLファイルのサブセクション、または、XMLスキーマ、インラインスキーマ、およびWebサービスの個別の定義の詳細を確認することができます。



SchemaAgentはWSDL 2.0もサポートしています。



WSDL ファイルの表示方法:

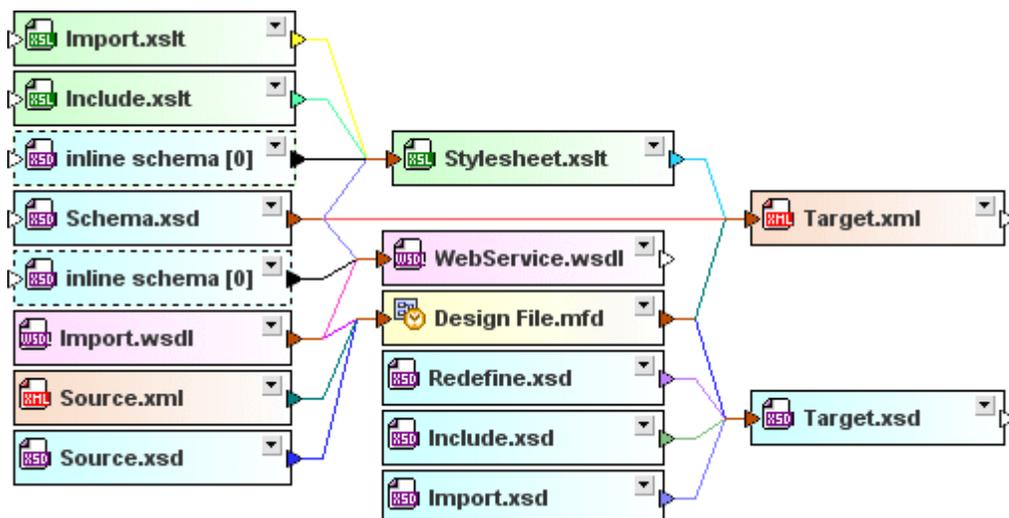
1. エクスプローラーウィンドウからビューするWSDL ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、またはコンテキストメニューを使用して現在のデザインファイルを追加します。
2. 任意で、インポートされたWSDL、またはスキーマファイル、インラインのスキーマ、またはWeb サービス記述言語 (WSDL 1.1)、またはWeb サービス記述言語 (WSDL 2.0) の詳細情報を確認するために、それぞれのサブセクションを展開してください。

4.6.9 リレーションの表示

SchemaAgent は、サポートされるファイル間の多数の異なるリレーションを表示します。

- XML スキーマ間のIIR リレーション(インクルード、インポート、と再定義)

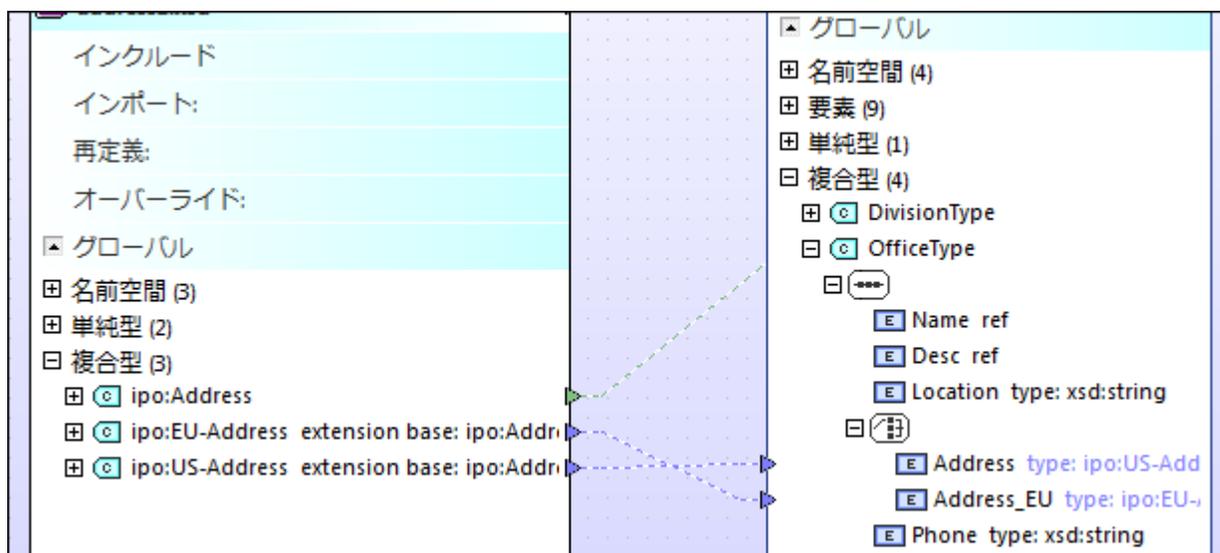
- XML インスタンスとXML スキーマ、または XSLT スタイルシート間のルーション
- XSLT スタイルシート間のインクルードとインポート ルーション、および ルーション XSLT スタイルシートとXML スキーマ間のルーション
- W SDL ファイル間のルーションとW SDL ファイルとXML スキーマ間のルーションをインポートします。
- MapForce デザイン(.mfd) ファイルとXML スキーマ、XML インスタンス、または W SDL ファイル間のルーション



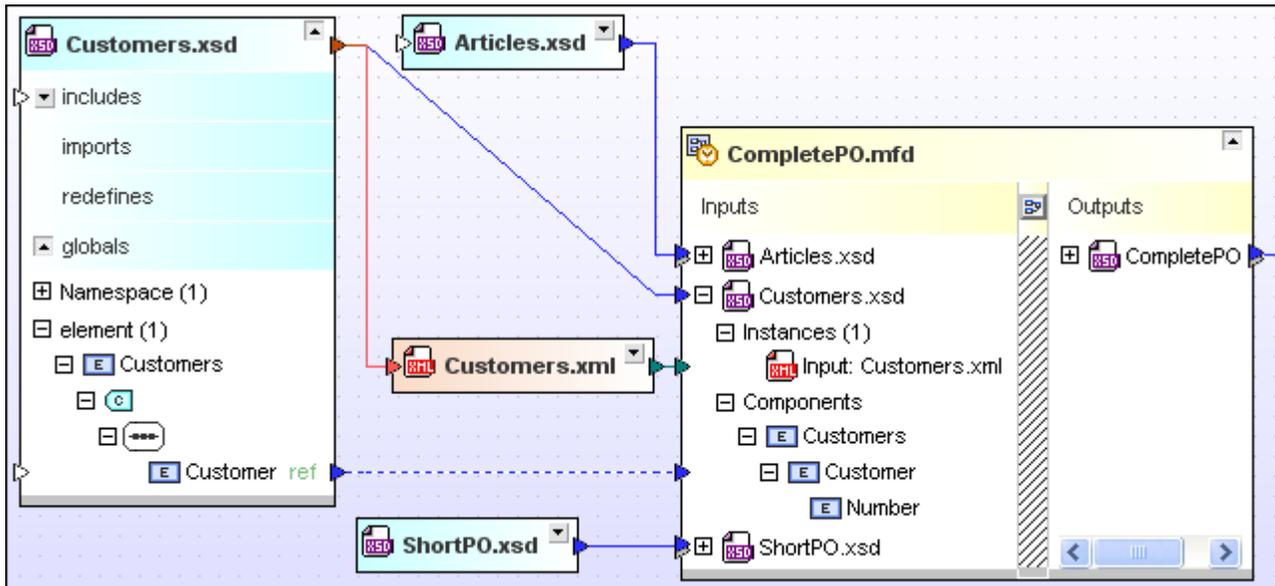
これらのルーションはデフォルトでは個別のファイルボックス間を実線の接続線で示しています。接続線は特定のファイル間に存在するルーションを示す異なる色で表されています。オプションダイアログ(メニューコマンド [ツール] オプション)の色とルーションタブで接続線の外観をカスタマイズすることができます。

コンポーネントルーション

2つのスキーマ内のグローバルコンポーネント間のルーションシップは点線の接続線で示されています。このようなルーションを表示するには両方のスキーマのグローバルセクションが展開されている必要があります。

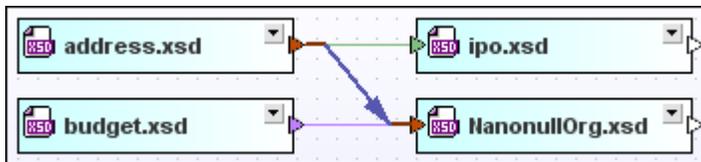


同様にソースとターゲットスキーマ内の.mfd ファイルとグローバルコンポーネントは点線で示されています。このようなルーションを表示するために、スキーマのグローバルセクションと.mfd ファイルの入力または出力のセクションは展開されている必要があります。



接続線をハイライトする方法

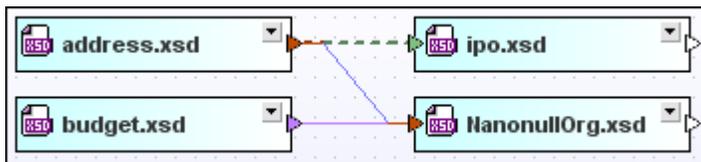
接続線にカーソルをポイントすると、接続線がハイライトされます。リレーションシップの詳細を表示するヒントが表示されます。表示される矢印の先端(三角形)はリレーションシップの「方向」を示します。



上のスクリーンショットでは、青色のインポートリレーションがハイライトされ、NanonullOrg.xsd 内に address.xsd がインポートされたことを示します。ハイライトされたコネクタの外観はツール | オプション | リレーションにより構成することができます。

接続線を選択する方法

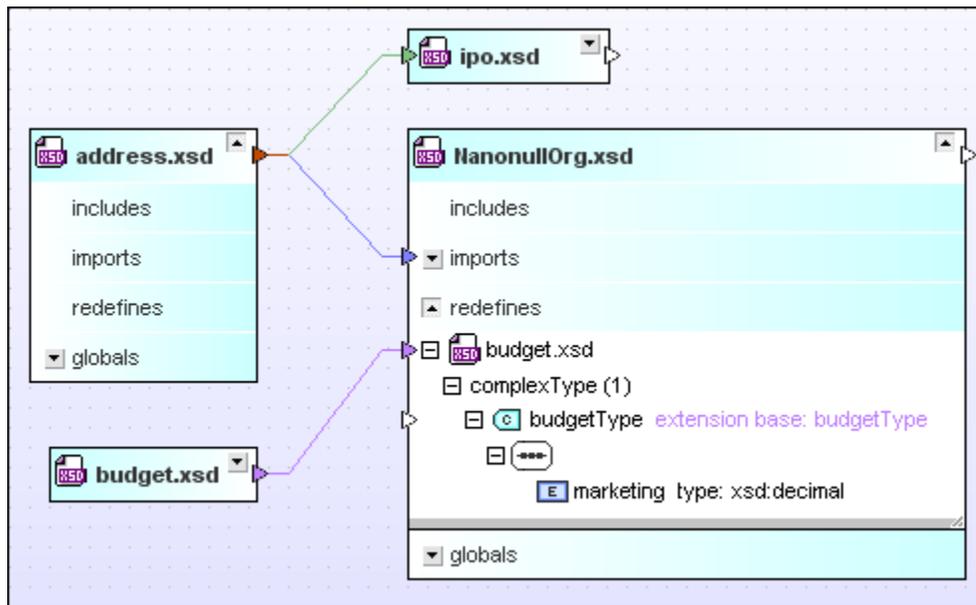
ラインをクリックして選択します。接続線を右クリックしてコンテキストメニューオプションを表示します。



上のスクリーンショットでは、緑色のインクルードリレーションが選択されています。選択されたラインの外観はツール | オプション | リレーションにより構成することができます。選択されたラインもハイライトできることに注意してください。

4.6.9.1 スキーマリレーションシップ

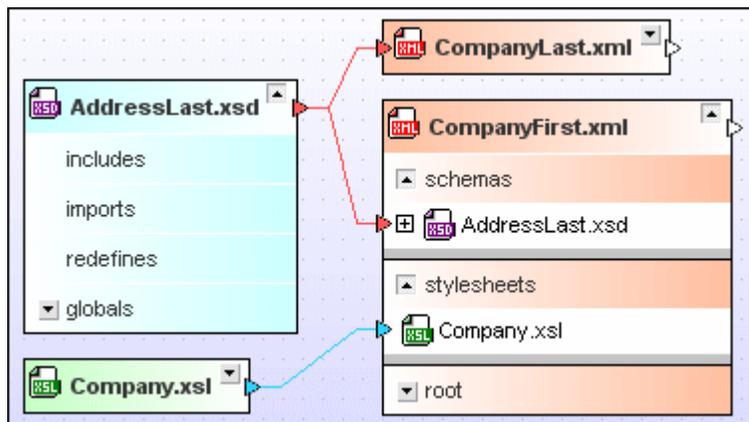
スキーマ間のリレーションシップを示すラインはデフォルトでは実線です。異なる色が使用され、インポート、インクルード、と再定義が区別されています。デフォルトの設定は、インポートを青色で、インクルードを緑色で、再定義を紫色で表示しています。



スキーマボックス内のセクションも展開した場合、コネクタは参照されたコンポーネントをポイントすることご注意ください。

4.6.9.2 XML インスタンス

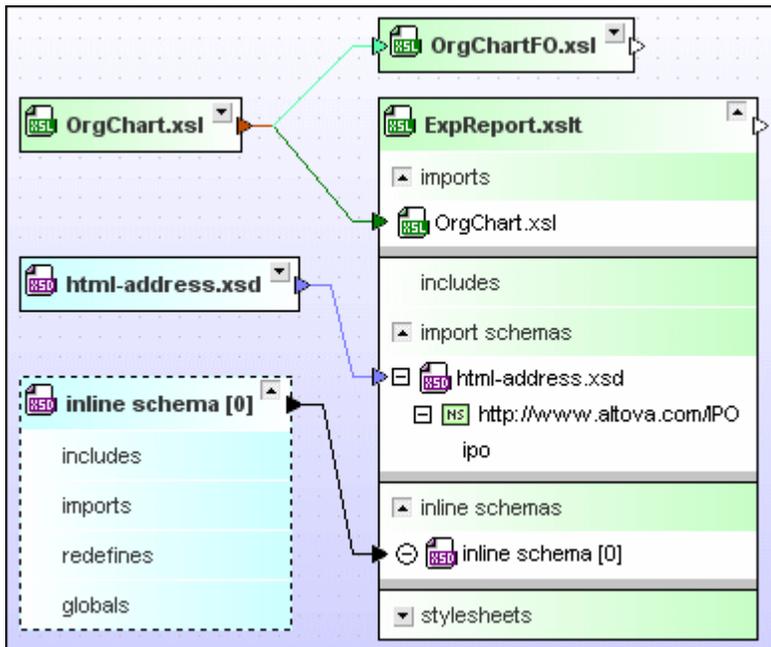
XML スキーマ間に存在するリレーションシップ、または XSLT スタイルシートに対応する XML インスタンスが SchemaAgent 内に表示されています。



スキーマリレーションのためのデフォルトの色は赤色です。スタイルシートのリレーションのためのデフォルトの色はシアンです。

4.6.9.3 スタイルシートのリレーションシップ

XSLT スタイルシート ファイルは他のXSLT ファイルまたはXML スキーマをインポート、または、インクルードすることができます。更に1つまたは複数のインラインのスキーマがXSLT ファイル内に存在する場合があります。SchemaAgent はこれらのリレーションシップを異なる色で表示します。



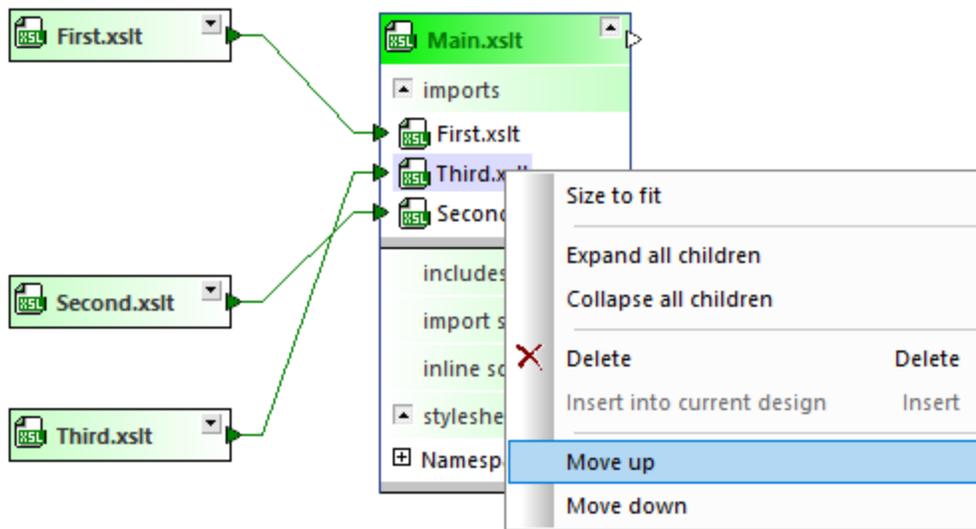
インポートのデフォルトの色は深緑色、インクルードのデフォルトの色は薄緑色、スキーマリレーションは薄青色で表示されます。

インポート済みまたはインクルード済みのXSLT ファイルの順序の変更

インポート済みまたはインクルード済みのスタイルシートが適用されるシーケンスの順序はXSL 変換では重要です。この理由のため、デフォルトではこれらのファイルはアルファベット順に並べ替えられておらず、挿入の順序で並べ替えられています。必要であれば並べ替え順序を変更することができます。

インポート済みまたはインクルード済みのXSLT ファイルの順序の変更:

1. [インポート]と[インクルード]セクションを展開して関連するXSLT ファイルを確認します。
2. ポジションを変更するファイルを右クリックし適用可能な「上に移動」または「下に移動」をコンテキストメニューから選択します。



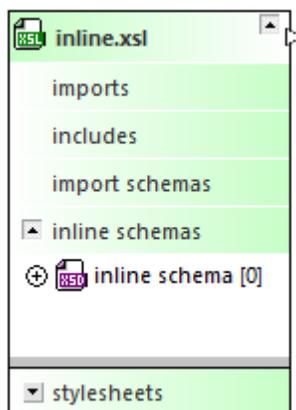
3. オプションでファイルが希望する箇所で表示されるまでステップ 2 を繰り返します。

インラインのスキーマ

XSLT ファイルにインラインスキーマが含まれている場合、インラインスキーマのためのファイルボックスを表示することができます。インラインスキーマのためのファイルボックスは点線の枠線で囲まれています。それ以外は他の XML スキーマボックスと同様に処理を続けます。

インラインスキーマの表示方法:

1. インラインスキーマがインラインスキーマセクションの下にリストされるまで XSLT ボックスを展開します。



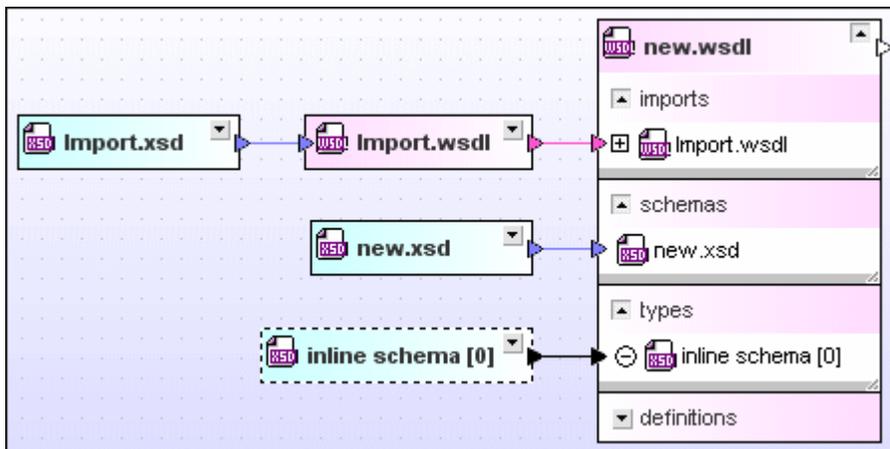
2. 以下の内の1つを行ってください
 - インラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内からインラインの表示 オプションを選択します。
 - インラインスキーマ エントリの左側の ⊕ アイコンをクリックします。
 - インラインのスキーマエントリをダブルクリックします。

インラインスキーマを非表示にする方法:

- 以下の内の1つを行ってください!
 - インラインスキーマを右クリックして **インラインの表示 オプション** をコンテキストメニューからクリアします。
 - インラインスキーマエントリの左側の **☉ アイコン** をクリックします。
 - インラインのスキーマエントリをダブルクリックします。

4.6.9.4 WSDL リレーションシップ

WSDL ファイルは他のWSDL ファイル、または XML スキーマをインポートすることができます。更に、1つまたは複数のインラインのスキーマがWSDL ファイル内に存在する場合があります。SchemaAgent はこれらのリレーションシップを異なる色で表示します。



インポートのデフォルトの色はマゼンタで、スキーマリレーションの色は薄い青色です。

WSDL ボックス内の型セクションが展開されていると、インラインのスキーマが表示されます。インラインのスキーマのためのファイルボックスを表示することもできます。インラインスキーマのためのファイルボックスは点線の枠線で囲まれています。それ以外は他のXML スキーマボックスと同様に処理を続けます。

インラインスキーマの表示方法:

1. [型]の下にインラインスキーマがリストされるまでWSDL ボックスを展開します。
2. 以下の内の1つを行ってください!
 - インラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内から**インラインの表示 オプション**を選択します。
 - インラインスキーマエントリの左側の **⊕ アイコン** をクリックします。
 - インラインのスキーマエントリをダブルクリックします。

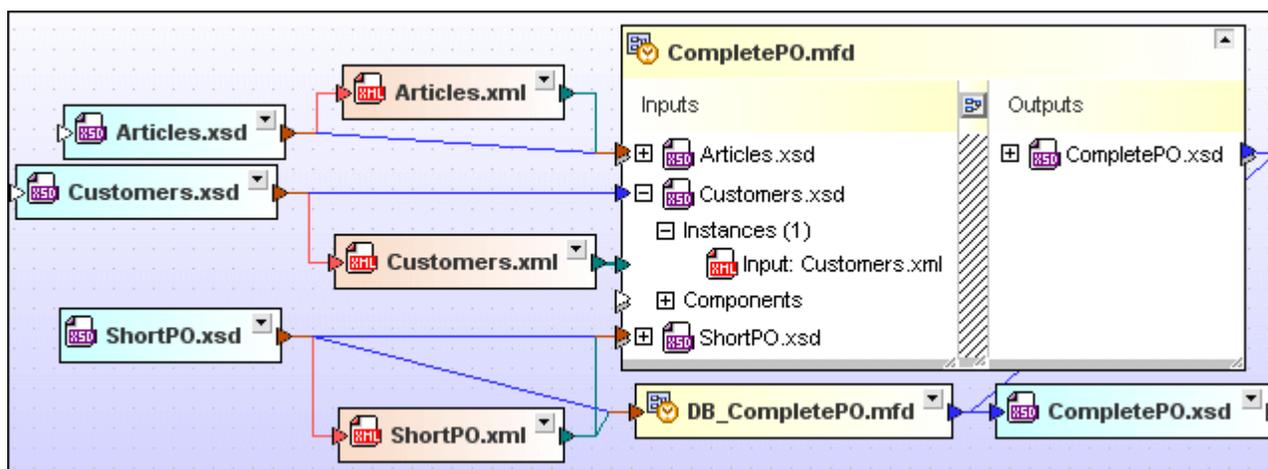
インラインスキーマを非表示にする方法:

- 以下の内の1つを行ってください!

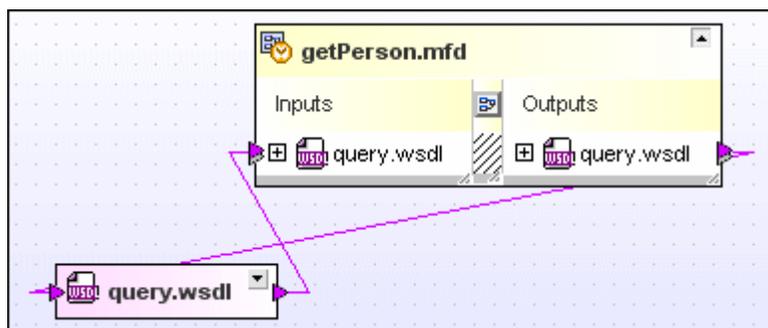
- インラインスキーマを右クリックしてインラインの表示 オプション をコンテキストメニューからクリックします。
- インラインスキーマ要素の左側の ☉ アイコンをクリックします。
- インラインのスキーマ要素をダブルクリックします。

4.6.9.5 MapForce デザイン リレーションシップ

MapForce デザインファイルに関しては、実線の接続線がファイルから対応するソースとターゲットスキーマまたは既存のXML インスタンスに接続されます。デフォルトでは、.mfd ファイルとスキーマ間のルーションの色は青色です。デフォルトでは、.mfd ファイルとXML インスタンス間のルーションの色は緑色です。

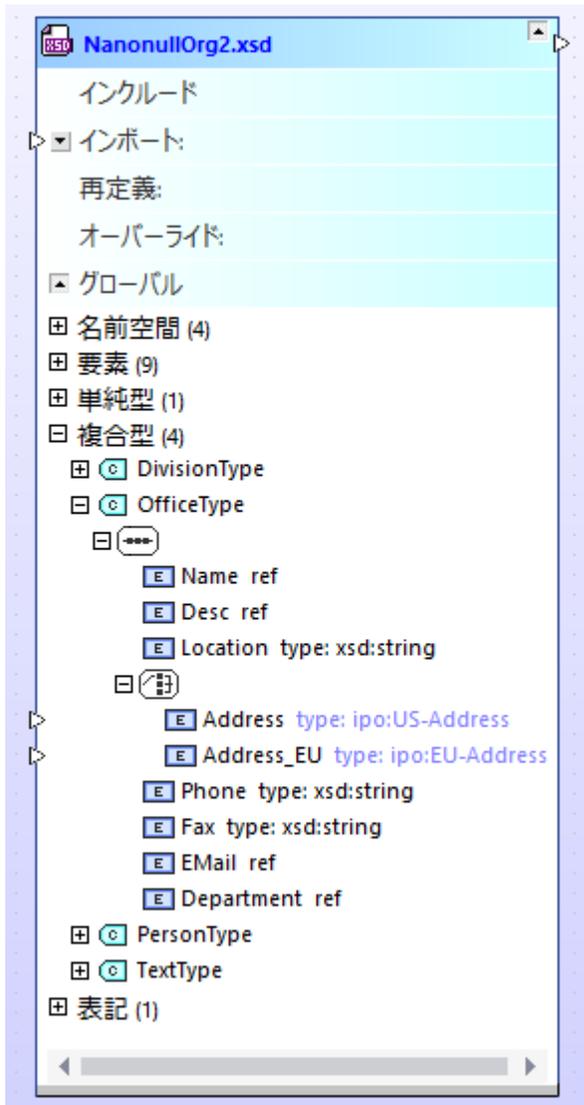


デフォルトでは、.mfd ファイルとWSDL ファイル間のルーションの色はマゼタです。



4.6.10 関連したコンポーネントの表示

スキーマコンポーネント、またはその方はコンポーネントの左側で矢印で示されている他のスキーマにより定義されている、またはコンポーネントの右側で矢印で示されている他のスキーマにより使用されている可能性があります。例えば、下で説明されている複合型 **ipo:US-Address** は(デフォルトの色のスキーマに従い)青色でインポートを示しています。

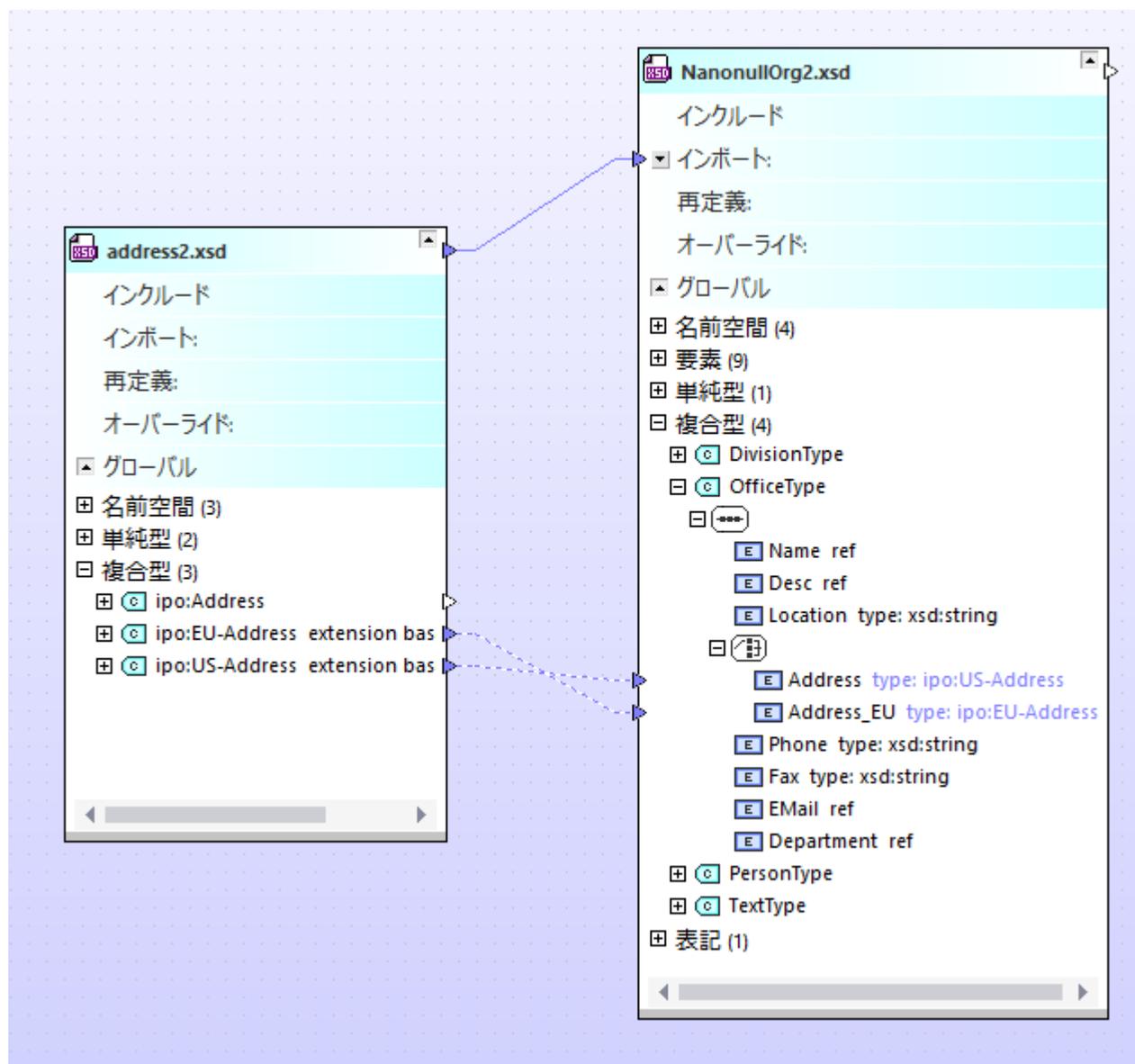


このようなコンポーネントのための原点または使用方法をビューすることができます。

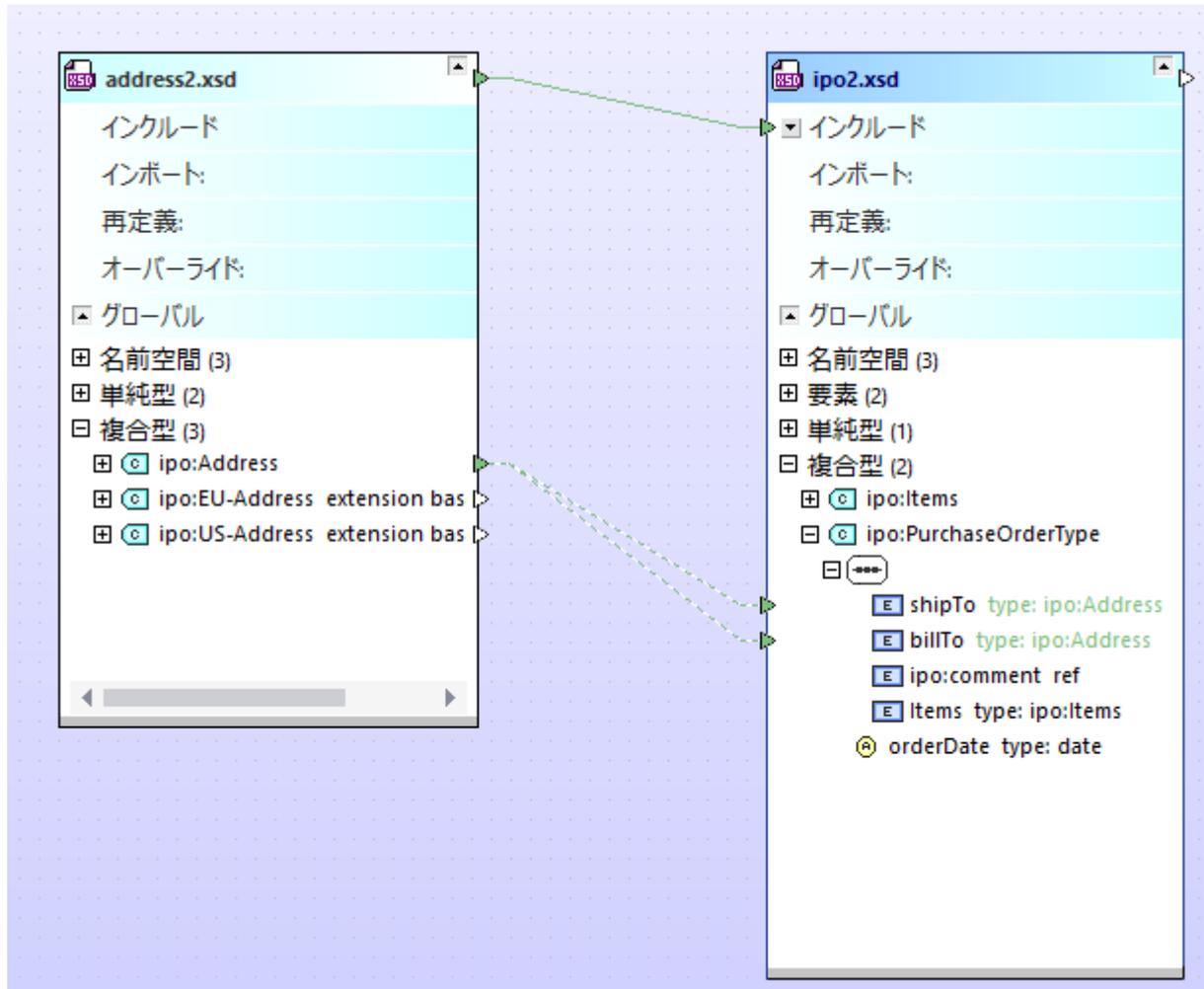
1. コンポーネントを右クリックしてコンポーネントの原点を表示（または、適用可能な場合 コンポーネントの使用方法的表示）をコンテキストメニューから選択します。
2. 現在のデザイン内にソースコンポーネントのスキーマが存在しない場合ポップアップされるメッセージボックス内の「はい」任意でをクリックします。

上記の命令はデザインウィンドウに追加されたXML スキーマと.mfd ファイルの両方に適用可能です。

コンポーネントの原点の表示 コマンドは関係ソーススキーマ内の関連した定義をデザイン追加します（このサンプルでは address2.xsd）。



一方 コンポーネントの使用方法の表示 コマンドは型が使用されている個所でデザインスキーマの関連した定義を追加します。下で説明されているデザインではaddress2.xsd内で定義されている型 ipo:Address は ipo2.xsd内で使用されています。



4.6.11 MFD ファイルの表示

MapForce (<https://www.altova.com/ja/mapforce>) と MapForce 統合パッケージが同じコンピュータにインストールされている場合、SchemaAgent Client 内のマッピングデザインファイル(.mfd) に関する詳細を確認することができます。具体的には

- XML をベースとしたソースまたはターゲットコンポーネント
- (存在する場合) MapForce 内で入力または出力として指定される XML インスタンスファイル。
- WSDL-スタイル Web サービスへの呼び出しであるすべてのソースまたはターゲットコンポーネント。
- 上記と他のファイルの間のルーション

メモ

- While MapForce はライセンスを必要としますが MapForce Integration Package は <https://www.altova.com/ja/mapforce/download> で無料でダウンロードすることができるコンポーネントです。
- .mfd ファイルに XML スキーマコンポーネントが含まれる場合、XML 入力または出力、または WSDL-スタイル web サービスへの呼び出し、表示される情報は SchemaAgent Client 内で XSD、XML、または WSDL コンポーネントを確認するかの

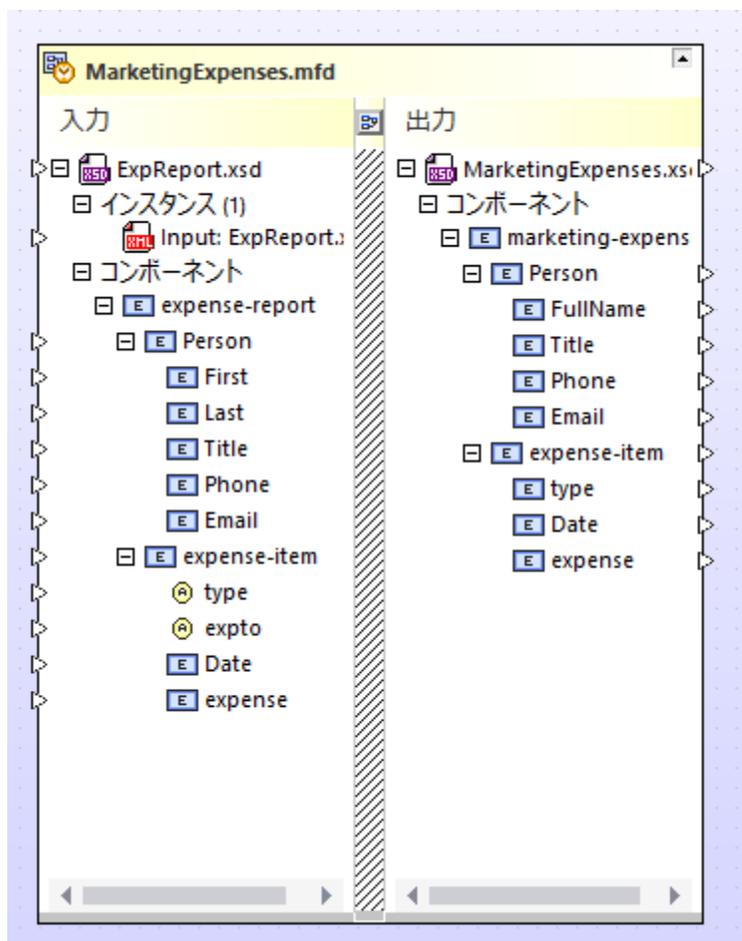
ように同じレベルの詳細が表示されます。.mfd ファイルは SchemaAgent (CSV または Excel ファイルまたはデータベース など) によりサポートされないコンポーネントが含まれています。このような入力と出力は表示されません。

SchemaAgent 内で .mfd ファイルに関する情報をビューする場合、以下の一つを行います:

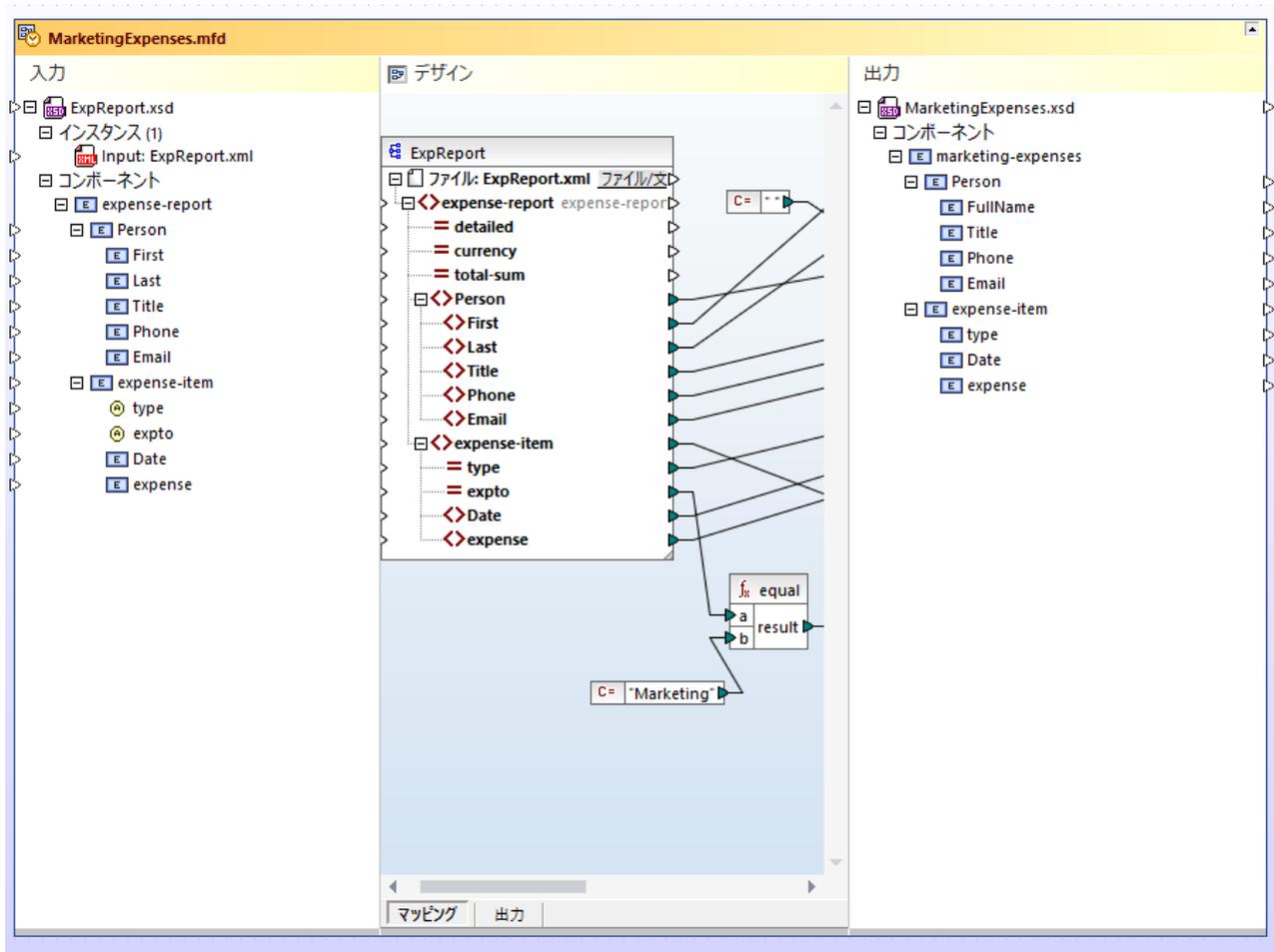
- .mfd ファイルをエクスプローラーウィンドウからデザインウィンドウにドラッグアンドドロップします。
- エクスプローラーウィンドウ内の .mfd ファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [現在のデザインに挿入する] を選択します。



ソースとターゲットコンポーネントは展開  ボタンをクリックするとリストされます。ソースコンポーネントは左側に表示されており、ターゲットコンポーネントは右側に表示されています。.mfd ファイルのフル構造を素早くビューするには、タイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [全て展開する] を選択します。



MapForce に表示される通りマッピングデザインをビューするには入力と出力ファイルの間にある **デザイン**  ボタンをクリックします。



マッピング タブはデザインビューを表示します。XSLT タブはMapForce により生成された XSLT 出力を表示します。このタブはマッピングの変換言語が XSLT の場合のみ表示されます。「出力」タブはマッピングの実行の結果を表示します。

デザインペインを閉じるにはデザイン  ボタンをもう一度クリックします。

メモ デザインペインを表示するために MapForce と MapForce Integration Package が使用中のコンピュータにインストールされている必要があります。以下で述べられているとおり入力と出力インスタンスの設定以外 .mfd ファイルは SchemaAgent 内で直接編集することができません。

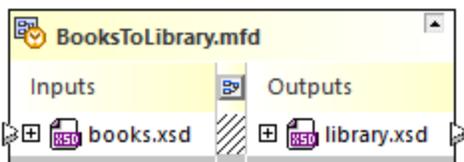
MapForce 内で編集するために .mfd ファイルを開くには、以下のショートカットコマンドを使用してください！

- エクスプローラーウィンドウ内の .mfd ファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [MapForce 内で編集] を選択します。
- デザインウィンドウ内の .mfd ファイルのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [MapForce 内で編集] を選択します。
- エクスプローラーウィンドウ内のファイルを選択して **Ctrl+M** を押します。

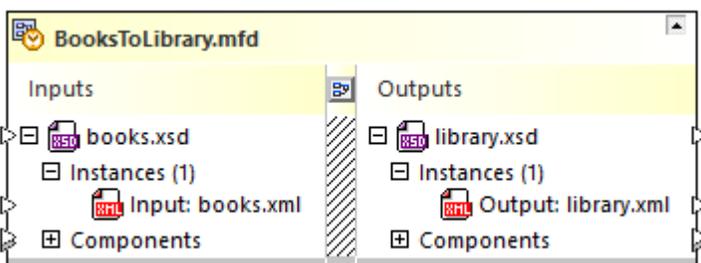
入力と出力の設定方法

SchemaAgent Client 内で直接 .mfd ファイルを編集することができません。XML をベースとしたコンポーネントの入力または出力 XML インスタンスを設定することができます。

A MapForce デザインファイルは一つまたは複数のソース XML コンポーネント、および一つまたは複数のターゲット XML コンポーネントを持つことができます。SchemaAgent Client 内でソースコンポーネントはボックスの左側に、ターゲットコンポーネントは右側に表示されます。例えば、以下で説明される.mfd には一つのソースコンポーネントと一つのターゲットコンポーネントが存在します:



上のイメージのとおりソースコンポーネントがXMLスキーマの場合、MapForce 内で実行する際に通常マッピングがデータを読み取るXMLファイルである入力インスタンスファイルが読みます。ターゲットコンポーネントは通常[出力]インスタンスファイルを持っています。これはデータが書き込まれるXMLファイルです。例えば、下で説明される.mfd はデータを **books.xml** から読み取り **library.xml** に書き込みます。



入力インスタンスファイルの前のプレフィックス[入力]と出力ファイルの前のプレフィックス[出力]に注意してください。

コンポーネントの入力または出力ファイルを設定する方法:

1. 必要とされるXMLファイルをエクスプローラーウィンドウからデザインウィンドウにドラッグします。
2. XMLファイルボックスの左側または右側の入力または出力コネクタ(小さな三角形)をクリックし、マウスキーを押し、ソースまたはターゲット .xsd コンポーネントにドラッグします。新規のインスタンスファイルが追加され[入力]または[出力]のプレフィックスが追加されます。

メモ MapForce コンポーネントには最高で1つの入力と出力を持つことができます。更に追加しようと試みるとエラーメッセージが表示されます。

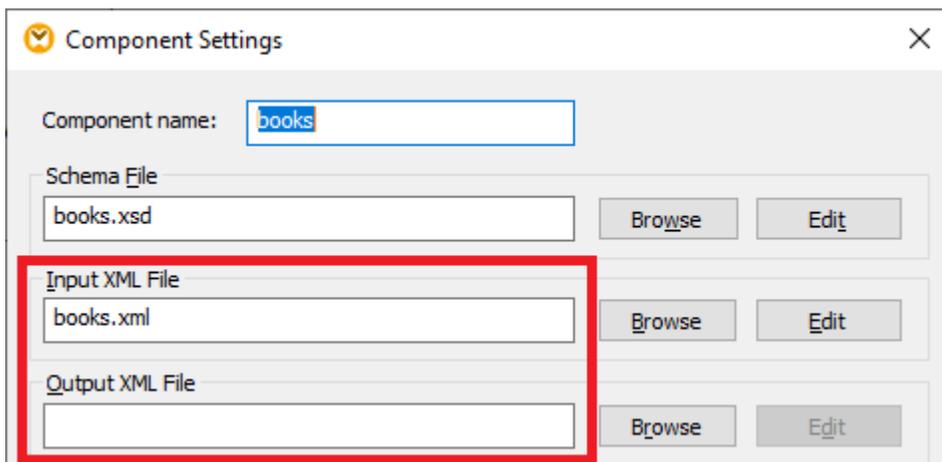
3. 入力ファイルを出力に変換する必要がある場合、またはその逆が必要な場合、ファイルを右クリックしてコンテキストメニューから[インスタンスの切り替え]を選択します。以下を参照してください。

既存の入力または出力のインスタンスを削除する方法:

- インスタンスファイルを右クリックし、[削除]をコンテキストメニューから選択します。または、ファイルを選択し、[削除]を押します。

入力と出力インスタンスの切り替え

[入力]インスタンスファイルを[出力]インスタンスファイルに変更、または、その逆をSchemaAgent Client から直接行うことができます。MapForce 内のマッピングコンポーネント設定上の入力XMLファイルと出力XMLファイル間の切り替えと同じオペレーションと考えることができます:



MapForce 内のコンポーネント設定

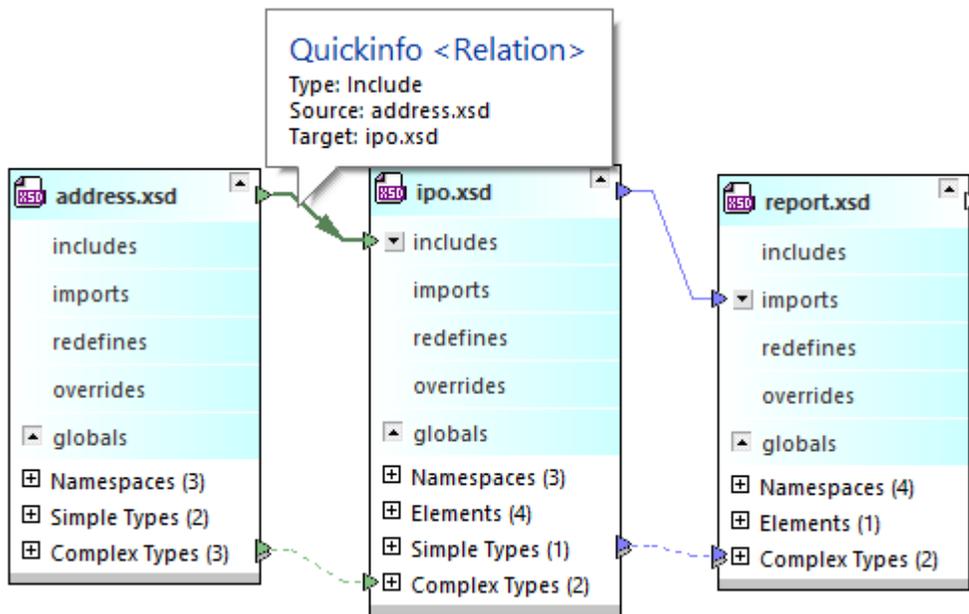
入力ファイルを出力ファイルに指定する、またはその逆の方法

- 親 XML スキーマ、インスタンス ノード、または XML インスタンスのどちらかを右クリックし、インスタンスの切り替え をコンテキストメニューから選択します。

インスタンスの切り替え コマンドを実行した後、対応するスキーマコンポーネントの[入力]インスタンスファイルは[出力]になり、[出力]は[入力]になります。MapForce コンポーネント設定はすぐに効果を反映することご注意ください。

4.6.12 クイック情報の表示

マウスポインターをファイルのタイトルバーに移動すると、デザインウィンドウ内で接続線をハイライトすると SchemaAgent はファイルのローケーション、ターゲット名前空間、IIR 情報 などを含むクイック情報 ボックスを表示します。クイック情報ボックスに表示される情報の型と量はマウスポインターのフォーカスとなるオブジェクトにより異なります。



クイック情報 ボックスは次のオブジェクトの名称を提供されます:

- スキーマボックス
- 他のスキーマボックスの個別のセクション内に含まれたスキーマ
- MapForce デザインファイルボックス
- .mfd ファイルボックスの入力、または、出力セクション内に含まれるスキーマ
- XML インスタンス
- IIR コネクタライン
- MapForce コネクタライン
- エンポート/リレーションコネクタ
- XML インスタンスへの参照

メモ クイック情報ボックスはIIR 情報を検索ノードで決定された通りに表示します。

通知  アイコンにテキストカーソルをポイントすると、スキーマボックス内で表示されている場合、関連したエラーメッセージ内で、クイック情報ボックス内で関連したメッセージが開かれます。

スキーマ

マウスポインターをスキーマボックスのタイトルバーに合わせると、以下の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- スキーマのロケーション
- ターゲット名前空間とプレフィックス
- スキーマに関するIIR 情報。例えば、そのスキーマに含まれるスキーマ、そのスキーマ自身がどのスキーマに含まれるなどの情報が表示されます。

スキーマボックスを展開し、マウスポインターをインクルードされる、インポートされる、再定義される外部スキーマのファイル名に移動すると、外部スキーマに関する以下の情報を表示するクイック情報ボックスが表示されます:

- スキーマのロケーション

- ターゲット名前空間

MapForce デザインファイル

マウスポインターを .mfd ボックスのタイトルバーに合わせると、以下の情報を含むウィック情報ボックスが表示されます:

- ファイルのロケーション
- ソースファイル
- ターゲット ファイル

.mfd ファイル内に含まれているスキーマのファイル名にマウスポインターを移動すると、次の情報を含むウィック情報ボックスが表示されます

- スキーマのロケーション

XML インスタンス

XML インスタンス ファイルボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むウィック情報ボックスが表示されます:

- XML ファイルのロケーション
- 参照されたファイル
- 適用可能な場合 XML インスタンスに書き込むファイル
- 適用可能な場合 XML インスタンスを読み取るファイル

XSLT スタイルシート

XSLT スタイルシート ボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むウィック情報ボックスが表示されます:

- XSLT ファイルのロケーション
- XSL バージョン
- インポートされた XSLT ファイル
- インクルードされた XSLT ファイル
- インポートされた XML スキーマ
- XSLT ファイルを含むファイル
- XSLT ファイル内に含まれたインラインスキーマ

Web サービス 記述言語ファイル

WSDL ファイルボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むウィック情報ボックスが表示されます:

- WSDL ファイルのロケーション
- WSDL バージョン
- ターゲット名前空間
- インポートされた WSDL ファイル
- インポートされた XML スキーマ
- WSDL ファイルを含むファイル
- WSDL ファイルを読み取るファイル
- WSDL ファイル内に含まれたインラインスキーマ

リレーション

スキーマ、.mfd ファイル、XML インスタンス、またはコンポーネント、および、それぞれのソースまたはターゲット アイテム間の接続線がハイライトされている場合、クイック情報 ボックスが表示されます。クイック情報ボックスのコンテンツは、ハイライトされたコネクタの型により異なります。

リレーションのため以下が表示されます:

- 型 (インポート、インクルード、再定義、MapForce、または参照)
- ソース
- ターゲット

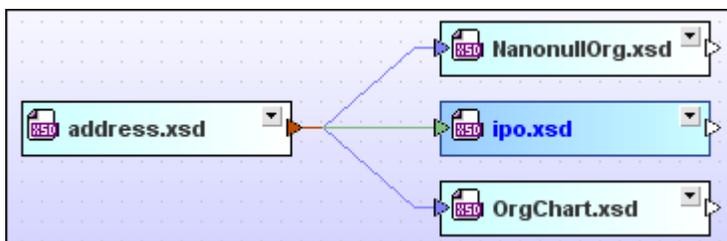
コンポーネントリレーションにマウスポインターを移動すると、クイック情報ボックスには、MapForce アイテムが読み取る入力コンポーネントの情報、または、出力コンポーネントが書き込まれる MapForce アイテムが含まれます。

4.7 デザインとの作業

デザインウィンドウ内で SchemaAgent デザインと作業する場合、ファイルボックスを選択するだけでなく、整理、または、削除し SchemaAgent Client 外で変更されたロードされたファイルを印刷し、デザインをエクスポート することができます。コンテキストメニューはデザイン自身、ファイルボックスと接続線のために使用することができます。参照/ 矢の修正とゴースト ファイル再作成することができます。

4.7.1 ファイルの選択

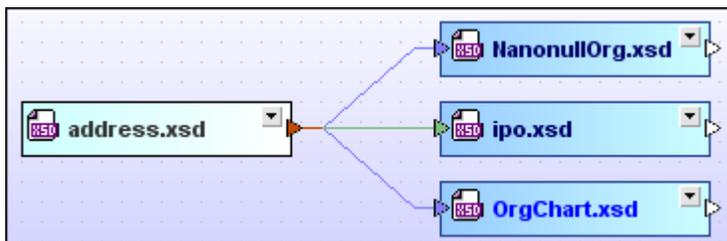
デザインウィンドウ内で単一のファイルを選択する場合、ファイルボックスは色を変更し、選択されたボックスは自動的にフォーカスを与られます。これは異なる色で表示されたタイトルにより示されています。オプション内で選択されたファイルのために色を変更することができます。下で説明されている選択メカニズムはスキーマの参照を用いて説明されています。同じメカニズムがサポートされる他のファイルにも適用されることにご注意ください。



複数のファイルの選択

デザインウィンドウ内で複数のファイルを選択することができます。選択されたファイルのタイトルバーは色を変更します。ファイルの選択方法により、ファイルがどのようにフォーカスされるかが決定されます:

- 複数のファイルボックスを選択するために、Ctrl+クリック メソッドを使用すると、最後に選択されたファイルボックスがフォーカスされます。
- マーキーの選択 メソッドを使用すると、カーソルが最後にマウスするファイルボックスがフォーカスされます。
- マーキーをファイルボックスをマウスしないようドラッグすると、ファイルはフォーカスを受け取りません。



デザインウィンドウ内でスキーマを選択する方法:

以下の内の一つを行ってください!

- **[Ctrl]** キーが押されている間に選択するスキーマのスキーマボックスを選択します。
- スキーマのスキーマボックス上のマーキーの選択 テクニックを使用します(必要とされるスキーマボックスの周りのマーキーの三角形をクリックしてドラッグします)。

フォーカスの変更方法

選択されたファイルがフォーカスを持つファイルに対して整理されるため、整理などの一部のアクションのために、フォーカスを設定することは重要です。並べ替えなどの他のアクションのためにはフォーカスは役に立ちません。

複数の選択内のフォーカスを変更する方法

- **[Ctrl]** を押し、フォーカスを与えるファイルのボックスを2回クリックします。

関連したファイルの選択

コンポーネントの原点の表示、コンポーネントの使用法の表示とリレーションの表示 コマンドが実行されるとスキーマボックスは自動的に選択されます。

デザイン内の関連付けられたファイルを選択する他の方法は、ファイルを右クリックして、次のオプションの一つをコンテキストメニューの[選択] サブメニューから選択します。オプションのそれぞれは選択を特定のファイルが他に制限するためサブメニュー、またはすべてのファイルを選択するためのファイルを提供します。

- 直接参照付けられているすべて: 選択されたファイルにより直接参照付けられているすべてのファイルを選択します。
- 直接参照するすべて: 選択されたファイルを直接参照するすべてのファイルを選択します。
- 直接関連付しているすべて: 選択されたファイルにより直接参照される、または、選択されたファイルを直接参照するすべてのファイルを選択します。
- 参照されるすべて: 選択されたファイルにより直接、または、間接的に選択されるすべてのファイルを選択します。
- 参照しているすべて: 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照するすべてのファイルを選択します。参照しているすべて
- 関連しているすべて: 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照する、または、選択されたファイルにより参照されるすべてのファイルを選択します。
- リンクされているすべて: 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照する、または、選択されたファイルによりリンクされるすべてのファイルを選択します。リンクされているすべて

または、デザインウィンドウ内でファイルを選択し、メニューオプション[編集 | 選択] を選択します。適切なサブメニュー内のオプションを使用して、デザインウィンドウ内で必要とするファイルを選択します。

メニューに加え、アクティブなデザインウィンドウ内の全てのファイルを選択するためにキーボード ショートカット **[Ctrl+A]** を使用することができます。

選択をコピーし貼り付ける方法

選択をコピーし貼り付ける方法デザイン全体に選択範囲をコピーして張り付けることができます。マウスを使用すると、関連したスキーマを含む新規のデザインを作成する便利な方法となります。

選択項目を同期化する方法

選択されたファイルボックスのコンテキストメニューは、デザインウィンドウとエクスプローラーウィンドウ内の選択を同期するオプションを提供します。デザインウィンドウがアクティブの場合このコマンドは最も役に立ちます。ですから、デザインウィンドウ内で[同期の選択] コマンドを選択すると、デザインウィンドウ内で現在選択されているファイルは、エクスプローラーウィンドウの階層型タブ、および、フロント タブ内でも選択され、エクスプローラーペインを切り替え、必要とされるアクションが取られます。

注意点: [同期の選択]は現在選択されているデザインウィンドウのみで適用され、開かれている全てのデザインウィンドウにも適用されません。

選択項目を同期化する方法:

以下の内の1つを行ってください!

- 階層型、または、エクスプローラーウィンドウのフラットタブ、または、デザインウィンドウタブ内でファイルをダブルクリックします。ファイルは他の2つのタブ内でも選択されます。
- メニューオプション[編集 | 同期の選択]を選択します。
- デザインウィンドウ内で、ファイルボックスを右クリックし、コンテキストメニューから[同期の選択]を選択します。
- 標準ツールバー内の同期の選択  ボタンをクリックします。

4.7.2 ファイルをデザインから削除する

エクスプローラーウィンドウ内でファイルを削除と比較すると、デザインから削除されたファイルは使用中のコンピュータのファイルシステム内に、および、このファイルを含む他のデザイン内に残ります。

注意点 : デザインからファイルを削除する場合、デザインウィンドウ上の選択されたファイルのフォーカスが、エクスプローラーウィンドウ内ではないことにご注意してください。それ以外の場合、デザインからファイルは削除されず、SchemaAgent サーバーが与えられた名前のファイルを検索ノズル内で見つけることができず、未知のファイルとして表示されます。このようなファイルはデザインウィンドウ内で黄色の感嘆符と共に表示されています。



削除済みのファイルを再度利用できるようにする唯一の方法としては（黄色の感嘆符を削除すること）ファイルを物理的に再作成、または、バックアップからコピーして正確な場所へコピーします。

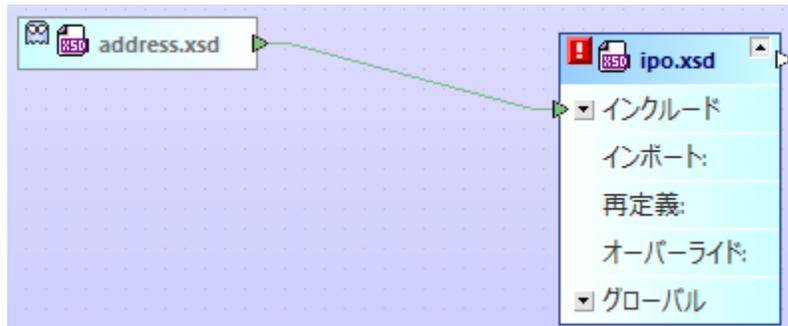
ファイルをデザインから削除する方法:

以下の内の1つを行ってください!

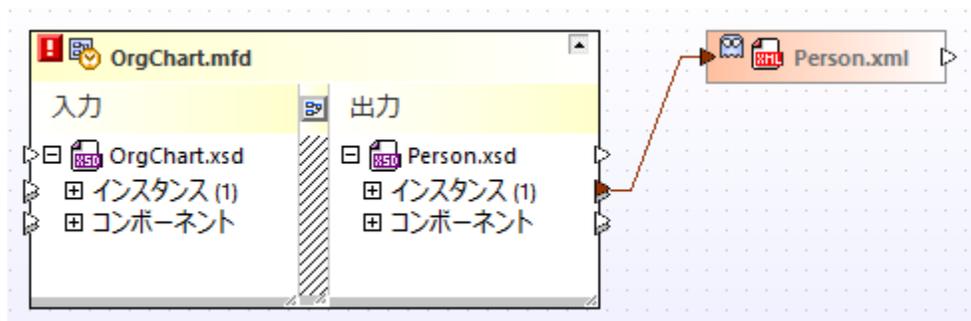
- デザインウィンドウ内のファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。
- デザインウィンドウからファイルを選択し、メニューオプション「編集 | 削除」を選択、または、「削除」キーを押します。
- 標準ツールバー内の「削除」  ボタンをクリックします。

4.7.3 ゴーストスキーマと正確ではないパス

ファイルが、指定されている場所に存在しない他のファイルへの参照を含む場合、(この種類のファイルはゴーストファイルと呼ばれます) エラー  アイコンはタイトルバーの左上に表示されます。ゴーストファイルは、タイトルバー内でゴースト  アイコンにも表示されています。下のスクリーンショットでは、スキーマ address.xsd をポイントする ipo.xsd には、インクルードステートメントがインクルードステートメント。内で指定されている場所で見つけることができません。この場合 address.xsd はゴーストスキーマファイルです。この結果 address.xsd を参照するすべてのファイルは、スキーマボックスとエクスプローラーペイン内でエラー  アイコンと共にマークされています。



ファイルが見つからない場合、XML インスタンスはゴーストファイルとして扱われます。



いくつかの理由によりスキーマがゴーストスキーマなる場合があります。最も一般的な理由は以下のとおりです:

- スキーマがなんらかの理由で指定されている場所に存在しない場合。例えば、移動済みの場合など。
- Web サーバー、またはネットワークノードを使用することができないため、スキーマをロードすることができない場合。

(レファレンス内で指定されている場所に存在しない場合でも)ゴーストファイルはエクスプローラーとデザインウィンドウ内で表示されることにご注意ください。デザイン内では、ゴーストファイルとターゲットスキーマ間の接続線も表示されています。

正確ではない参照とゴーストファイルが発生した場合、問題を解決するため2つの方法を使用することができます:

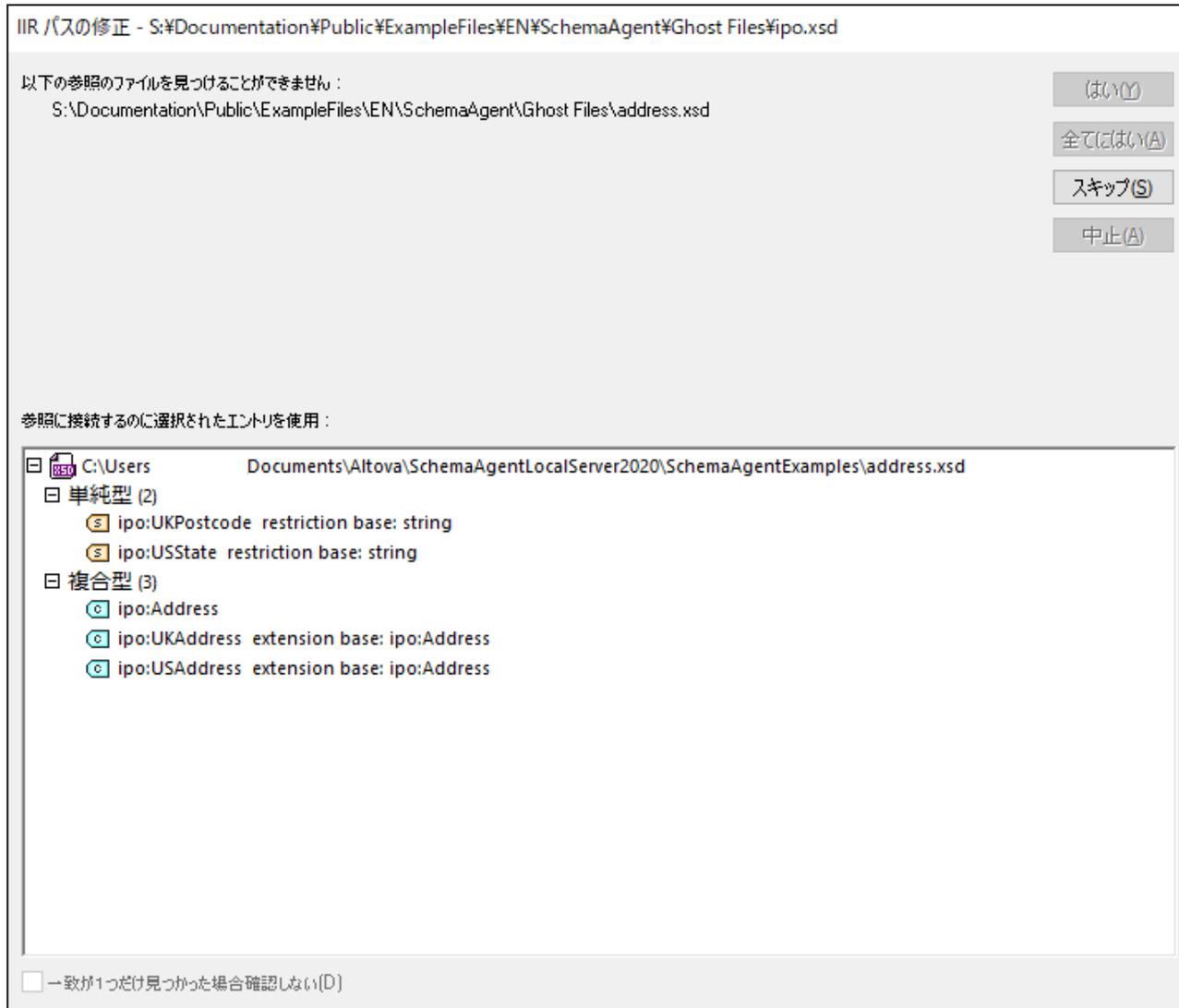
- 参照へのパスの修正
- ゴーストファイルの再作成

4.7.3.1 参照パスの修正

正確ではない参照を持つファイルを右クリックすると参照パスの修正 コマンドがコンテキストメニュー内で使用可能になります。このコマンドは SchemaAgent Client に全ての検索パス内の同じ名前のファイルを検索するように命令します。ゴーストファイルの検索パス内の他の場所に移動された場合に使用可能な理想的な解決方法です。

単一の参照パスを修正する方法:

- エクスプローラーウィンドウ、またはデザインウィンドウ内で、エラーアイコンを持つファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [参照パスの修正] を選択します、または、ファイルを選択し [Ctrl+R] を押します、または [拡張機能] ツールバー内の [参照パスの修正] ボタンをクリックします。



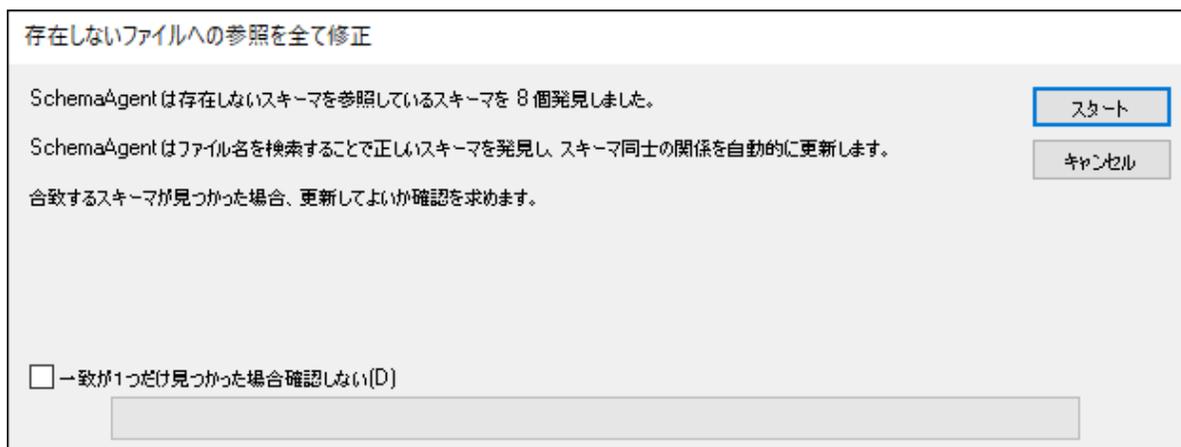
1つ以上の一致が見つかった場合、使用可能な代替パスがダイアログボックス内にリストされます。見つかったファイルの構成が不足しているファイルの構成と同一化をチェックするためエントリを展開することができます。長いパスを表示、または複雑なスキーマをスクロールバーを使用することでより詳細表示するためにダイアログボックスのサイズを変更することが可能です。

複数のパスの修正方法

単一のステップで全ての正確ではないパスの修正を試みることができます。これはデザインウィンドウ内で表示されているファイルに関わらず SchemaAgent 内のすべてのパスを修正します。デザインウィンドウが開かれていない場合でもこの操作を行うことができます。

全ての参照パスを修正する方法:

1. メニューコマンド [拡張機能 | 全ての参照パスを修正する]を選択します。



- 任意で、1つの代替パスのみが見つかった場合、自動的にパスを修正するために「一致が1つだけ見つかった場合確認しない」チェックボックスを選択します。
- [スタート] をクリックします。[参照パスの修正] ダイアログボックスが最初のゴーストファイルのために表示されます。個別の参照パスの修正 ダイアログボックスがデザイン内で見つかったゴーストファイルのそれぞれのために表示されます。特定のゴーストファイルのために一致が見つからない場合、メッセージボックス内で報告されます。例:



- 少なくとも1つの一致が見つかった場合、以下の内の1つを行ってください!
 - 一致するパスを選択し[はい] を選択して修正を確認します[一致が1つだけ見つかった場合確認しない] チェックボックスが有効化されている場合、[参照パスの修正] ダイアログボックスを表示することなく単一の一致が自動的に確認されます。
 - [全て[はい]] をクリックして、プロンプト無しに全ての単一の一致を確認します。
 - [スキップ] をクリックして、現在のパスを修正することなく次のゴーストファイルに移動します。
 - [アバート] をクリックして、残りのパスを修正することなくプロセスを中断します。

4.7.3.2 ゴーストファイルと XML インスタンスの再作成

SchemaAgent Client 内で、参照内で指定されたロケーションで基本的なスキーマとしてゴーストスキーマを作成することができます。基本的なスキーマは `xs:schema` 宣言のみを宣言するスキーマです。ゴースト XML インスタンスは空の `<root />` 要素を含む基本的な XML ファイルとして再作成されます。しかしながら、再作成された基本ファイルに適切なコンテンツを追加する必要があります。

参照 ステートメント内で定義されている場所で指定されているフォルダーが存在しない、または、検索パス内に存在しない場合[再作成]コマンドを使用することはできません。これにより参照パスが指定されたスキーマまたは XML ファイルを正確に指していることを保障することができます。

スキーマの再作成の方法:

1. エクスプローラーウィンドウ、または、デザインウィンドウ内で、ゴーストスキーマを選択し、以下の内の1つを行ってください。
 - メニューコマンド [編集 | 再作成] を選択します。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから [再作成] を選択します。同じ名前の基本的なスキーマは、IIR ステートメント内で指定されている場所にあります。
2. XMLSpy 内で基本的なスキーマを開き、適切なコンテンツを追加します。

XML ファイルの再作成の方法:

1. プロジェクトウィンドウ内でゴースト XML ファイルを右クリックして、[再作成] をコンテキストメニューから選択します。同じ名前の基本的な XML ファイルが参照内で指定されている場所に作成されます。
2. XMLSpy 内で基本的な XML ファイルを開き、適切なコンテンツを追加します。

4.7.4 ファイルの再ロード

ファイルが外部プログラム内で編集されている場合、(例えば、XMLSpy、または、MapForce)、SchemaAgent Client 内で変更は自動的に反映されません。SchemaAgent Client 内で変更されたファイルの構造をビューするには、それぞれのファイルを再ロードする必要があります。

ファイルの再ロードの方法:

- エクスプローラーウィンドウ内のファイル、または、デザインウィンドウ内で必要とされるフォルダーを右クリックし、コンテキストメニューから「再ロード」を選択します。

4.7.5 デザインオプション

デザインウィンドウを右クリックするとコンテキストメニューは、SchemaAgent デザインのレイアウトを編集し変更するための一連のコマンドを提供します。デザインウィンドウ内で右クリックされる場所によりメニューのコンテンツは動的に変更されます:

- デザインウィンドウ背景
- ファイルボックス、または、セクションキャプション (コンテンツはファイルの型により異なります)
- セクション内の空白のエリア
- セクション内のアイテム (コンテンツはアイテムの型により異なります)

デザインウィンドウ背景



- **ファイルの選択:** 型別にファイルボックスを選択するためのサブメニューを開きます。

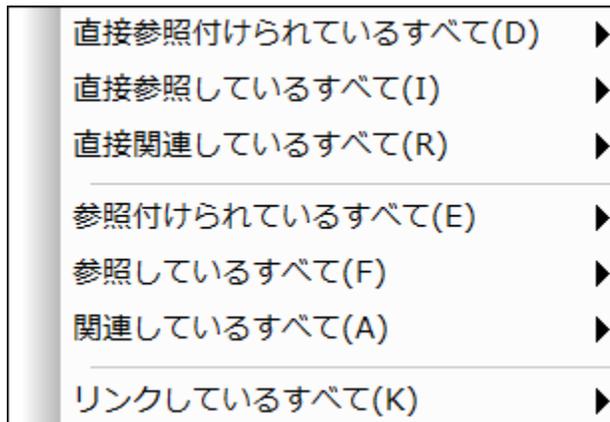


- **貼り付け (Ctrl+V):** エクスプローラーからクリップボードにコピーされているファイルボックスを貼り付けます。
- **グリッドの表示 (Alt+G):** グリッドの表示をオンとオフ切り替えます。

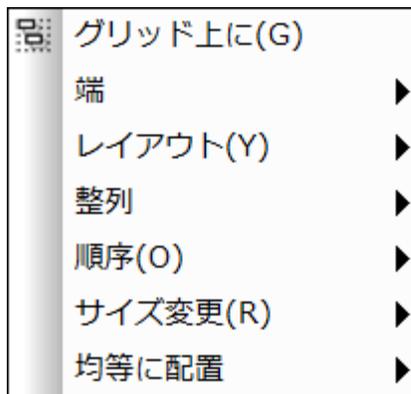
ファイルボックスまたはセクションのキャプチャ

	切り取り(T)	Shift+Delete
	コピー(C)	Ctrl+C
	削除	Delete
すべて展開		
すべて縮退		
フィットするサイズ		
	選択対象の同期(S)	
	選択(E)	▶
	挿入(I)	▶
	整列(A)	▶
	並べ替え	▶
	再ロード(L)	
	再度作成(T)	
	参照パスの修正(R)	Ctrl+R
	XMLSpy で編集(Y)	Ctrl+Y
	MapForce でファイルを編集(M)	Ctrl+M

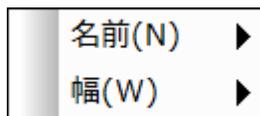
- 切り取り (Shift+Delete): 選択されたファイルをクリップボードにコピーし、デザインから削除します。
- コピー (Ctrl+C): 選択されたファイルをクリップボードにコピーします。このコマンドを使用して、デザインウィンドウからファイルを他のデザインウィンドウにコピーすることができます。
- 貼り付け (Ctrl+V): アクティブなデザインウィンドウにクリップボードのコンテンツを貼り付けます。
- 削除: デザインから選択されたファイルを削除します。システムファイルからファイルは削除されないことに注意してください。
- 全て展開する: 選択されたファイルボックスのすべてのサブセクションを展開します (インクルード、インポート、再定義、グローバル入力/出力、スキーマ、スタイルシート、ルート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ、スタイルシート、型、定義)。
- 全て折りたたむ: 選択されたファイルボックスのすべての展開されたサブセクションを折りたたみます。
- フィットするサイズ: すべての展開されたコンテンツが可視化されるようにファイルボックスのサイズを調整します。
- 再ロード: 選択されたファイルの表示を更新します。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは「ファイルの再ロード」を読み取ります。
- 再度作成: ゴーストスキーマの名前を持つ、ゴーストスキーマのためにステートメント内で指定されている場所で基本的な XML スキーマを作成します。このオプションはゴーストファイルのためにのみ使用することができます。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは「ファイルの再作成」を読み取ります。
- 同期の選択: デザインウィンドウ内で選択されているファイルがエクスプローラ内で選択されるように、エクスプローラとデザインウィンドウの同期の選択をおこないます。
- 選択: 複数の選択オプションを与えるサブメニューを開きます。



- 挿入: 関連するフォルダーの挿入のための複数のオプションを提供するサブメニューを開きます。(上記の「選択」サブメニュー同様です)。
- 整列: 選択されたファイルの整列のための複数のオプションを与えるサブメニューを開き、グリッドの表示をオンとオフに切り替えます。



- 並べ替え: 名前、または、幅別に昇順または降順に選択されたファイルを並べ替えることのできるサブメニューを開きます。



- 参照ノブの修正 (Ctrl+R): 定義済みの検索ノブ内の異なるロケーションで同一のファイルを検索しようと試みます。このオプションは定義されているIIRステートメントを持つファイルが指定されている場所に存在しない場合のみ使用することができます。
- XMLSpy 内で編集: XMLSpy 内で編集するために選択されたファイルを開きます。このオプションは.mfdファイルに対して使用することができます。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは「XMLSpy 内でファイルを編集する」を読み取ります。
- MapForce 内でファイルを編集: MapForce 内で編集するために選択されたファイルを開きます。このオプションは.mfdファイルのためにのみ使用することができます。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは「MapForce 内でファイルを編集」を読み取ります。
- ターゲット名前空間の編集: 選択されたスキーマのグローバルなセクション内の名前空間の定義に追加の名前空間を追加することができます。SchemaAgentはスキーマボックスのグローバルなセクションを展開し、新規のns要素をターゲット名前空間の定義に入力できる場所に追加します。ターゲット名前空間が既存の場合、編集のために選択されます。

注意点: インラインのスキーマを含むWSDLファイル内で、ターゲット名前空間はインラインのスキーマにも適用されます。WSDLファイル内のターゲット名前空間を編集、または、削除する場合この点を考慮する必要があります。

- **ターゲット名前空間の削除:** ターゲット名前空間を選択されたスキーマから削除します。
- **インラインのスキーマの作成:** 選択されたXSLT またはW SDL ファイルのためにインラインのスキーマを作成します。このオプションはスキーマ、.mfd ファイル、とXML インスタンスのために使用することできません。

セクション内の空白のエリア

展開されているセクションの空白のエリアを右クリックすると、コンテキストメニューは「フィットするサイズ」、「全て展開する」と「全て折りたたむ」コマンドを提供します。W SDL ファイルボックスの定義セクションは、追加で「ターゲット名前空間の編集」と「ターゲット名前空間の削除」コマンドも提供します。これらのコマンドは、コマンドを呼び出す際、カーソルがポイントされている特定のセクションのみ適用されることにご注意してください。

セクション内のアイテム



- **フィットするサイズ:** すべての展開されたアイテムが表示されるようにセクションのサイズを調節します。
- **全ての子の展開:** 選択されたアイテムを使用することのできる子を展開します。
- **全ての子を折りたたむ:** 選択されたアイテムを使用することのできる展開された子折りたたみます。
- **インラインの表示:** XSLT とW SDL ファイルボックス内で、インラインのスキーマを個別のスキーマボックスとして表示します。
- **削除 (Delete):** アイテムと親ファイル間のIIR リレーション（すなわち、アイテムが表示されているファイルボックスにより示されているファイル）を削除します。
- **現在のデザインへ挿入する (Insert):** デザイン内でファイルボックスが既存の場合、現在のデザインにアイテムの対応するファイルボックスを挿入します。このオプションはグレーアウトされています。
- **インスタンスの切り替え:** .mfd ファイルボックス内で、入力と出力XML インスタンス間を切り替えます。このオプションは.mfd ファイルの入力と出力スキーマのために個別で使用することができます。このオプションは.mfd ファイルのためにのみ使用することができます。
- **コンポーネントの原点の表示:** 希望する場合、コンポーネントの原点で、または、デザイン内にそのファイルボックスを挿入する箇所で、ファイルボックスを選択し、展開します。
- **コンポーネントの使用方法の表示:** 希望する場合、コンポーネントが使用される箇所、または、デザイン内にそのファイルボックスを挿入する箇所で、ファイルボックスを選択し、展開します。

ドラッグアンドドロップ

コンテキストメニュー内で使用することのできるオプションに加え、ドラッグアンドドロップを使用してデザインウィンドウ内でファイルを移動、または、他のデザインウィンドウにファイルをコピーします。

デザインウィンドウ内でファイルを移動する方法:

- 必要とするポジションにファイルをドラッグします。

デザインウィンドウ内でファイルをコピーする方法:

- 最初のデザインウィンドウからファイルをドラッグし、必要とするデザインウィンドウにドロップします。ターゲットウィンドウが非表示の場合、デザインウィンドウの下の対応するタブにマウスポインターを移動して、ターゲットウィンドウを有効化しファイルをドロップします。

4.7.5.1 デザイン内でファイルを配置する

SchemaAgent は、デザインウィンドウ内でファイルボックスを自動的に整列する複数のオプションを提供します。これらのオプションをレイアウトメニュー、デザインウィンドウ内で複数のファイルボックスを選択し、右クリック、または、配置ツールバー内で適切なツールバーアイコンをクリックすることにより、選択することができます。

ボックスの端の整列

デザインウィンドウ内で複数のファイルボックスが選択されている場合、メニューオプション [レイアウト | 端へ整列] を選択すると開かれるサブメニューにより与えられる整列のオプション、または、デザインペンを右クリックして、コンテキストメニューから [配置 | 端] を選択します。

	左寄せ(L)	Ctrl+Left
	右寄せ(R)	Ctrl+Right
	上寄せ(T)	Ctrl+Up
	下寄せ(B)	Ctrl+Down
	垂直方向に中央に並べて配置	
	水平方向に中央に並べて配置	

選択されたファイルボックスはフォーカスを持つファイルボックスに対して整列されます。**Ctrl** キーを押して、ファイルボックスをダブルクリックすると、選択内でフォーカスを変更することができます。選択にファイルを追加すると、フォーカスは自動的に新規に追加されたファイルに設定されます。

ファイルボックスの端に揃えて整列する方法:

1. 整列するファイルボックスを選択し、他を揃えるファイルボックスにフォーカスを与えます。
2. メニューコマンド [レイアウト | 端を揃えて整列] を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから [配置 | 端] を選択します。サブメニューが表示されます。
3. どのよう端は揃えて整列するかこのサブメニューから選択します。または、ステップ 2 をスキップして、以下の内の 1 つを行ってください

- **Ctrl+Left** を押す、または、配置ツールバーから [左側に寄せて配置]  ボタンをクリックします。
- **Ctrl+Right** を押す、または、配置ツールバーから [右側に寄せて配置]  ボタンをクリックします。

- **Ctrl+Up** を押す、または、配置ツールバーから[上側に寄せて配置]  ボタンをクリックします。
- **Ctrl+Down** を押す、または、配置ツールバーから[下側に寄せて配置]  ボタンをクリックします。
- [垂直方向に中央に並べて配置]  ボタンを配置ツールバーからクリックします。
- [水平方向に中央に並べて配置]  ボタンを配置ツールバーからクリックします。

デザインレイアウトの変更の方法

SchemaAgent 内で、自動的にデザインウィンドウのレイアウトを変更することができます。この目的のため、2つ以上のファイルボックスが選択されている場合、レイアウト サブメニュー内で2つのオプションを使用することができます。

デザインレイアウトを自動的に変更する方法:

1. デザインウィンドウ内で少なくとも2つのファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション[レイアウト | レイアウト] を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから[配置 | レイアウト]を選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なレイアウトを選択します。または、ステップ2 をスキップして、以下の内の1つを行ってください!

- 有向化の強制下アルゴリズムを使用したレイアウト  ボタンを配置ツールバーからクリックします。
- 階層構造としてのレイアウト  ボタンを配置ツールバーからクリックします。

ファイルボックスを1列に並べる方法

[1列に並べる] サブメニュー内のオプションを使用して、選択されたファイルボックスの上の端を、フォーカスを持つファイルボックスの上の端に揃えることができます(水平方向 が選択されている場合)、または、フォーカスを持つファイルボックスの左側の端に揃えることができます(垂直方向 が選択されている場合)。

ファイルボックスを1列に並べる方法:

1. 整列するファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション[レイアウト | 1列に並べる] を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから[配置 | 1列に並べる]を選択します。サブメニューが表示されます。
3. このサブメニューから選択されたファイルボックスの整列方法を選択します。または、ステップ2 をスキップして、以下の内の1つを行ってください!

- **Alt+Down** を押す、または、配置ツールバーから[垂直方向]  ボタンをクリックします。
- **Alt+Right** を押す、または、配置ツールバーから[水平方向]  ボタンをクリックします。

ファイルボックスの順序の変更

ボックスのスタック内に存在する場合、特定のファイルボックスを最前面、または、最背面に「順序」サブメニュー内の対応するオプションを選択して移動することができます。

ファイルボックスのスタックを最前面、または、最背面に移動する方法:

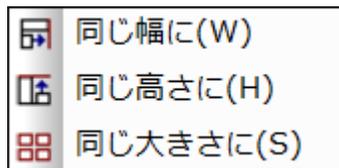
1. スタックの位置を変更するファイルボックスを選択します。

2. メニューオプション[レイアウト | 順序]を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから[配置 | 順序]を選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください！

- [最前面へ移動]  ボタンを配置ツールバーからクリックします。
- [最背面へ移動]  ボタンを配置ツールバーからクリックします。

ファイルボックスのサイズを変更する方法

[サイズ変更] サブメニューでは、デザイン内でファイルボックスの外観を統一する複数のオプションが提供されています。全ての選択されたファイルボックスに適用されるサイズは、フォーカスを持つファイルボックスから取得されます。



注意点: 高さの調節して、フォーカスを持つファイルボックスの高さが揃えるために、ファイルボックス内のエレメントを折りたたむ必要がある場合があります。

ファイルボックスのサイズ変更の方法:

1. サイズを調整するファイルボックスを選択し、他のファイルボックスの焦点を合わせてサイズ調整をするファイルボックスにフォーカスを与えます。
2. メニューオプション[レイアウト | サイズ変更]を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから[配置 | サイズ変更]を選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください！

- 同じ幅にする  ボタンを配置ツールバーからクリックします。
- 同じ高さにする  ボタンを配置ツールバーからクリックします。
- 同じ大きさにする  ボタンを配置ツールバーからクリックします。

ボックスを均等に配置する方法

少なくとも3つのファイルボックスの選択内で均等に配置 サブメニュー内で提供されるオプションを使用してボックス間のスペースが均等になるようにすることができます。

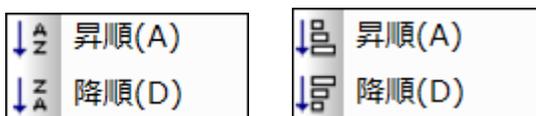
ボックスを均等に配置する方法:

1. 3つまたは以上のファイルボックスをデザイン内で選択します。
2. メニューオプション[レイアウト | 均等]を選択、または右クリックして 端をそろえて整列 | 均等 をコンテキストメニューから選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください！

- **Ctrl+Alt+Down** を押す、または 垂直方向に中央に並べて配列  ボタンを均等ツールバーからクリックします。
- **Ctrl+Alt+Right** を押す、または 水平方向に中央に並べて配列  ボタンを均等ツールバーからクリックします。

4.7.5.2 デザイン内のファイルの並べ替え

[並べ替え] サブメニューにより、ファイルボックスをアルファベット順、または、幅に応じて並べ替えるオプションを使用することができます。



注意点: アルファベット順の並べ替えは、大文字と小文字を別します。

ファイルボックスを名前別に並べ替える方法

1. 並べ替えるファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション [レイアウト | 並べ替える] を選択、または、右クリック、コンテキストメニューから [並べ替え | 名前] を選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。または、ステップ 2 をスキップして、以下の内の 1 つを行ってください！

- [昇順に名前を置き換える]  アイコンを並べ替えツールバーから選択します。
- [降順に名前を置き換える]  アイコンを並べ替えツールバーから選択します。

ファイルボックスを幅別に並べ替える方法:

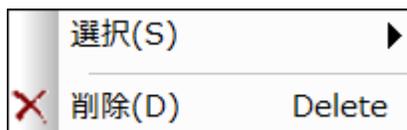
1. 並べ替えるファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション [レイアウト | 並べ替える] を選択、または、右クリック、コンテキストメニューから [並べ替え | 幅] を選択します。サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。または、ステップ 2 をスキップして、以下の内の 1 つを行ってください！

- [昇順に幅を置き換える]  アイコンを並べ替えツールバーから選択します。
- [降順に幅を置き換える]  アイコンを並べ替えツールバーから選択します。

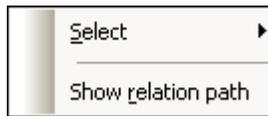
4.7.6 コネクタのオプション

デザインウィンドウ内の接続線を右クリックすると、クリックされたコネクタの方により異なるコンテキストメニューが開かれます:

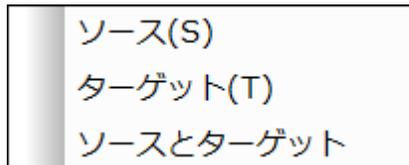
- リレーションを右クリックすると、ソースおよび/またはターゲットファイルを選択、または、リレーションを削除することができるコンテキストメニューが開かれます。



- コンポーネントのリレーションのためにコンテキストメニューを使用すると、ソースおよび/またはターゲットファイルを選択し、リレーション X を表示し、対応する IR リレーションとそれぞれのファイルボックスを選択することができます。



- 両方のルーションの型は同じ[選択] サブメニューを持ちます。



ルーションのためにソースおよびまたはターゲット ファイルボックスを選択する方法:

- コンポーネントルーションのIIR ルーションを右クリックし、次のオプションの1つをコンテキストメニューの[選択]サブメニューから選択します:
 - ソース
 - ターゲット
 - ソース & ターゲット

対応するファイルボックスがデザインウインドウ内で選択されます。

IIR ルーションの削除方法:

1. 以下の内の1つを行ってください!
 - IIR 接続線を右クリックし、コンテキストメニューから[削除]を選択します。
 - IIR 接続線を選択し、[削除] ボタンを押します。
 - IIR 接続線を選択し、標準ツールバー内の[削除]  アイコンをクリックします。

選択されたオブジェクトを本当に削除するのをお問うメッセージボックスが表示されます。
2. 削除を確認するために[はい]をクリックします。

コンポーネントルーションのルーションパスを表示する方法:

- コンポーネントルーションの接続線を右クリックし、コンテキストメニューから[ルーションパスの表示]を選択します。

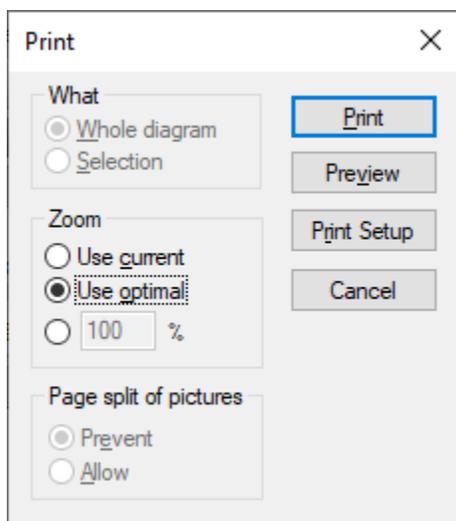
SchemaAgent は、関連したコンポーネントとスキーマ間のルーションの型を表示する接続線間の接続線を選択します。ソースのスキーマボックス、または、ターゲットコンポーネントが折り畳まれていると、ルーションを表示するために必要なレベルまで展開されます。

4.7.7 デザインの印刷

アクティブなデザインウィンドウ内のデザインダイアグラムは、ユーザー環境とSchemaAgentアプリケーションに関するメタ情報を提供するヘッダーとフッターと共に印刷することができます。プリンターに印刷されるページを送信する前にレイアウトをチェックする印刷プレビューを使用することができます。

デザインの印刷方法:

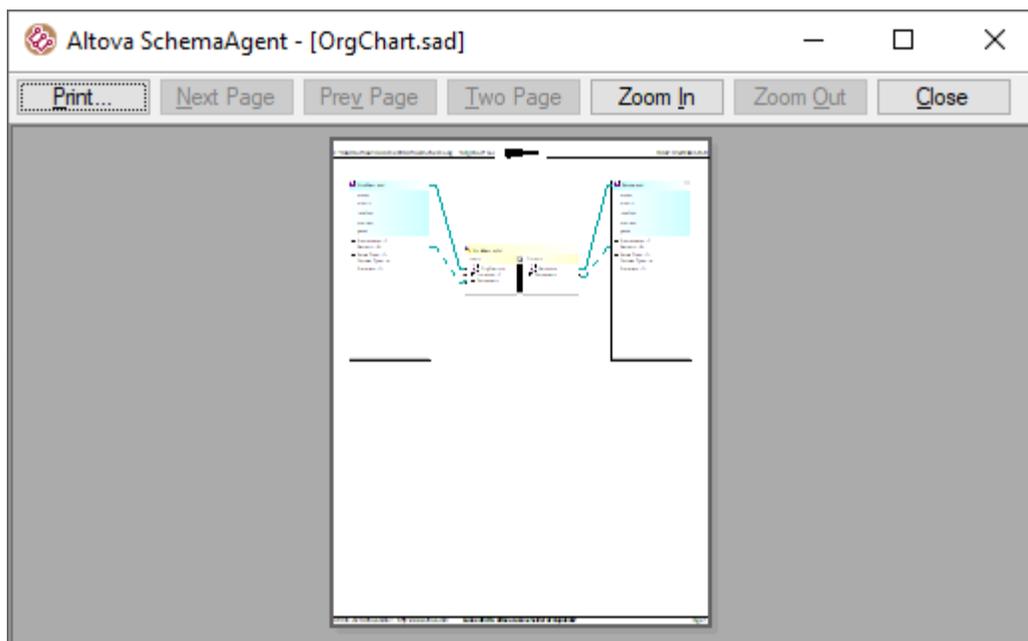
1. 印刷するデザインを選択します。
2. メニューコマンド [ファイル | 印刷...] を選択、または **[Ctrl+P]** を押し、または 標準ツールバー内の [印刷]  ボタンをクリックします。[印刷] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ズーム] グループボックス内で適切なズーム倍率を選択します。[最適化された倍率] オプションによりデザインのページへの印刷を確認することができます。
4. 任意で、[プリンタの設定] ボタンをクリックして、プリンターセットアップを定義します。
5. 任意で、[プレビュー] ボタンを押して、プリンターに送信する前に印刷をプレビューすることができます。
6. [図のページ分解] グループボックス内で、スキーマボックスが改行の際に分割されるかを選択します。
7. [印刷] をクリックします。

印刷前にデザインをプレビューする方法:

1. プレビューするデザインを選択します。
2. メニューオプション [ファイル | 印刷プレビュー] を選択、または [ファイル | 印刷...]、**[Ctrl+P]** を押し、または 標準ツールバー内の [印刷]  アイコンをクリックします。[印刷] ダイアログボックスが表示されます。
3. [印刷] ダイアログボックス内で [プレビュー] をクリックします。



プリンターセットアップの変更方法:

1. メニューオプション [ファイル | プリンタの設定] を選択します。 [プリンタの設定] ダイアログボックスが開かれます。
2. 希望するとお設定を調整し、 [OK] をクリックします。

4.7.8 デザインをイメージとしてエクスポートする

PNG イメージとして保存されている SchemaAgent Client デザインをのイメージとしてエクスポートすることができます。

PNG イメージ ファイルにデザインをエクスポートする方法:

1. イメージファイルとして保存するデザインを選択します。
2. メニューコマンド [ファイル | イメージをエクスポートする] を選択すると、標準の Windows [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
3. イメージを保存するフォルダーを選択します。
4. イメージのためファイル名を入力します。
5. [保存] をクリックします。

4.8 IIR リレーションシップのデザイン

XML スキーマはスキーマをモジュール化する3つの主要なメソッドを提供します: インポート、インクルード、と再定義の3つのメソッドを略して IIR (Include、Import、Redefine) と称します。これらのメソッドのそれぞれに SchemaAgent Client 内で IIR を作成すると SchemaAgent により自動的にチェックされる特定の名前空間の必要条件が存在します。

IIR は以下のように使用されます:

- **インクルード** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを含むために使用されます。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、インクルードは緑色のラインとして表示されます。
- **インポート** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを結合するために使用されます。インポートをしようとして、スキーマロケーションとスキーマのための名前空間を定義します。これにより、ドキュメントインスタンスが両方の名前空間を含むことができるようになります。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、インポートは青色のラインとして表示されます。
- **再定義** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを結合し変更するために使用されます。再定義により、複合型などの外部スキーマ定義と宣言を取り込み、スキーマの表示内で変更することができます。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、再定義は紫色のラインとして表示されます。

SchemaAgent のデザインウィンドウ内で、ドラッグアンドドロップを使用して、IIR スキーマ間のリレーションシップを簡単に作成、または、変更することができます。SchemaAgent 内で始めから新規のスキーマを作成することはできません。しかしながら、エクスプローラーウィンドウ内で新規のファイルを追加しコンテキストメニューを使用して XMLSpy 内のスキーマを編集することができます。

注意点: デザイン内にデザイン内で他のスキーマと既存の IIR リレーションシップを持つスキーマが挿入されるとコネクタが表示されます。

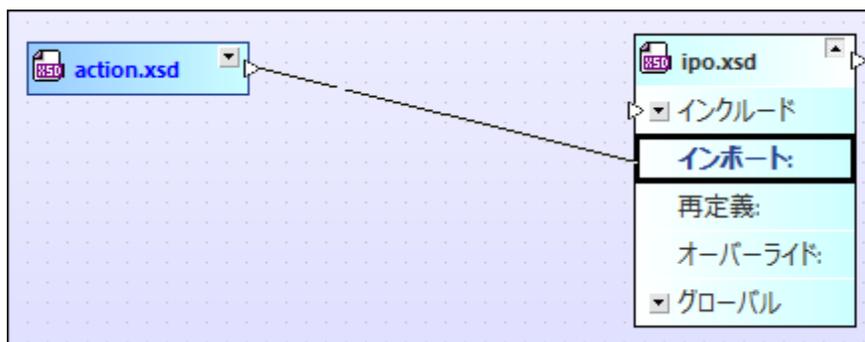
4.8.1 IIR リレーションの作成

デザインウィンドウにスキーマをドラッグすると、参照されるスキーマをドラッグアンドドロップを使用してデザインに追加して、インクルード、インポート、と再定義を作成することができます。この目的のために、各スキーマ、または、.mfd ファイルボックスには、タイトルバーの右側のボーダーにハンドルが存在します。



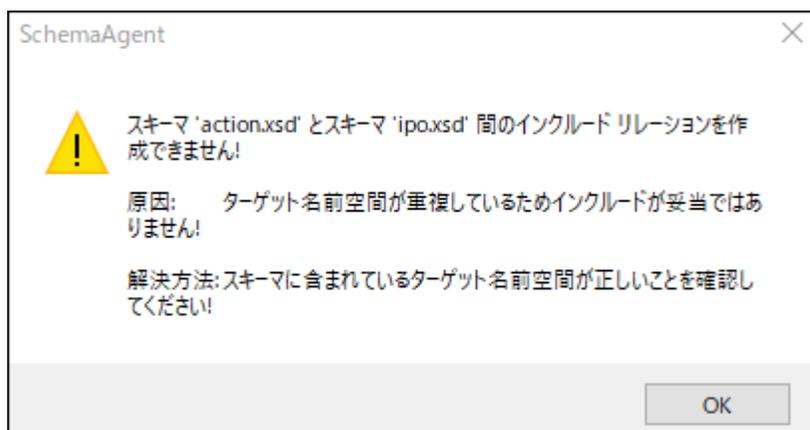
IIR リレーションの作成:

1. スキーマボックスハンドルをクリックして、カーソルを、IIR ステートメントが表示されるスキーマをドラッグすると、IIR リレーションが2つのスキーマ間で作成されます。最小化されると、ターゲットスキーマボックスが展開され、IIR エントリの上にコネクタをドロップできるようにします。
2. 必要とする IIR エントリカーソルをポイントします。
3. 必要とする IIR エントリが赤字で表示され、フレームが表示されると、コネクタをドロップします。IIR コマンドがスキーマに挿入され、IIR エントリの横にドロップダウンメニューが表示されます。



4. オプションでスキーマ間で許可されている追加 IIR リレーションシップを作成します。

コネクタを太字表示されないエントリにドロップする際、選択された IIR リレーションシップが許可されない理由を説明するエラーメッセージが表示されます。



4.8.2 IIR リレーションシップの移動

既存のインクルード、インポート、と再定義を1つのスキーマボックスから他のスキーマボックスにドラッグアンドドロップを使用して移動することができます。新規のスキーマ内のリレーションシップが有効でない場合、この旨を示したポップアップが表示され、リレーションはそのままになります。

既存の IIR リレーションシップを移動する方法:

1. 移動を希望する IIR リレーションの接続線をクリックし、IIR ステートメントが代わりに表示されるスキーマカーソルをドラッグします。最小化されると、ターゲットスキーマボックスが展開され、IIR エントリの上にコネクタをドロップできるようになります。
2. 必要とする IIR エントリカーソルをポイントします。
3. 必要とする IIR エントリが太字で表示され、フレームが表示されると、コネクタをドロップします。IIR コマンドがスキーマに挿入され、IIR エントリの横にドロップダウンシンボルが表示されます。

4.8.3 IIR リレーションの削除

希望しないインクルード、インポート、と再定義をデザインウィンドウから削除することができます。リレーションを削除できない場合、理由と失敗のためのリレーションを提示したメッセージボックスがポップアップされます。

IIR リレーションの削除方法:

1. 以下の内の一つを行ってください!

- IIR 接続線を右クリックし、コンテキストメニューから[削除]を選択します。
- IIR 接続線を選択し、[削除] キーを押します。
- IIR 接続線を選択し、標準ツールバー内の[削除]  ボタンをクリックします。

選択されたオブジェクトを本当に削除するのを問うメッセージボックスが表示されます。

2. 削除を確認するために、[はい]をクリックします。

4.9 メニューレファレンス

4.9.1 ファイルメニュー

ファイルメニューには、多くのWindows ソフトウェア製品に共通のファイルを操作するために関連する全てのコマンドが含まれています。

新規作成

新規作成  (Ctrl+N) コマンドは新規のデザインウィンドウを開きます。

開く...

「開く」  (Ctrl+O) コマンドはWindows [開く] ダイアログボックスをポップアップし、デザインファイル(*.sad)を開きます。[開く] ダイアログボックス内で、1つ以上のファイルを開くことができます。[ファイルの型] コボックスを使用して、ダイアログボックス内で表示するファイルの種類を制限することができます。

閉じる

[閉じる] コマンドはアクティブなウィンドウを閉じます。ファイルが変更されると(タイトルバーのファイル名の後にアスタリスク* が表示され)ファイルを最初に保存するか問われます。

保存

[保存]  (Ctrl+S) コマンドは、アクティブなウィンドウのコンテンツを開かれているファイルに保存します。アクティブなウィンドウに新規のファイルが含まれる場合[名前を付けて保存]ダイアログボックスが自動的に開かれます。

名前を付けて保存...

[名前を付けて保存...] コマンドは、アクティブなファイルとして保存するファイルの名前と場所を入力できる[名前を付けて保存] ダイアログボックスをポップアップします。

イメージエクスポートする...

[イメージエクスポートする...] コマンドは、PNG イメージとしてエクスポートするアクティブなファイルの名前とロケーションを入力するWindows [名前を付けて保存] ダイアログボックスをポップアップします。

印刷

[印刷...]  (Ctrl+P) コマンドはプリンターオプションを選択し、アクティブなファイルを印刷する[印刷] ダイアログボックスを開きます。

印刷プレビュー

[印刷プレビュー] コマンドは印刷ダイアログボックスを開きます。[プレビュー] ボタンをクリックし、現在アクティブなドキュメントの印刷プレビューを表示します。

印刷のセットアップ...

[プリンタの設定] コマンドは、紙の書式、とページの向きなどのプリンタ設定を指定するプリンタ固有の[プリンタの設定] ダイアログボックスを表示します。これらの設定は今後の全ての印刷ジョブに適用されます。

前回使用したファイル

[ファイル] メニューは、前回使用した4つのファイルを最近使用されたファイル順に上から表示しています。これらのファイルを名前をクリックして開くことができます。キーボードを使用してリスト内のファイルを開くには、[ALT+F]を押して、[ファイル] メニューを開き、開くファイルの番号を押します。

終了

SchemaAgent Client を終了するために[終了] コマンドが使用されます。保存されていない変更を含むファイルが開かれている場合、これらの変更を保存するようにプロンプトされます。SchemaAgent Client は前回使用したファイルに関するプログラム設定と情報への変更も保存します。

4.9.2 編集メニュー

[編集] メニューには、デザインウィンドウ内ファイルボックスの編集のためのコマンドが含まれています。

切り取り

[切り取り]  (Shift+Delete) コマンドは、クリップボードに選択されたテキストをコピーし、現在の場所から削除します。

コピー

[コピー]  (Ctrl+C) コマンドはクリップボードに選択されたテキストをコピーします。SchemaAgent Client 内のデータを複製、または、他のアプリケーションにデータを移動する際に使用することができます。

貼り付け

[貼り付け]  (Ctrl+V) コマンドは現在のカーソルの位置にクリップボードのコンテンツを挿入します。

削除

[削除]  コマンドの機能は選択されたファイルの存在する場所とフォーカスにより異なります:

- フォーカスがデザインウィンドウ内の場合、選択されたファイルはデザインから削除されます。
- フォーカスがエクスプローラーウィンドウ内の場合、選択されたファイルはファイルシステムから削除されます。ファイルが実際に削除される前にコマンドを確認する必要があります。

再作成

[再作成] コマンドは、参照内で指定されたロケーションで基本的なスキーマとしてゴーストスキーマの名前を持つ新規のファイルを作成します。エクスプローラーウィンドウ、または、デザインウィンドウ内でゴーストスキーマが選択されている場合のみこのコマンドを使用することができます。

同期の選択肢

[同期の選択]  コマンドはエクスプローラーとアクティブなデザインウィンドウ内の選択されたファイルを同期します。この機能は両方向に使用することができます。すなわち、エクスプローラー内でファイルを選択し、アクティブなデザインウィンドウ内の対応するファイルボックスを選択するためコマンドを使用し、その逆を行うことができます。

注意: [同期の選択] コマンドはアクティブなデザインウィンドウのためのみ使用することができます。現在アクティブではないデザインウィンドウ内に含まれているエクスプローラー内のファイルを選択すると、[同期の選択] コマンドには効果がありません。

選択

[選択] サブメニューには、アクティブなデザインウィンドウ内のスキーマを選択するためのオプションが含まれています。ファイルの選択、直接関連するファイル、間接的に関連するファイル、およびリンクされているファイルも参照してください。

4.9.3 表示メニュー

[表示] メニューには、個別のツールバーとステータスバーの表示と非表示のためのコマンドが含まれています。

ツールバー

[ツールバー] サブメニューによりメニュー内の対応するエントリを有効化、または、無効化し個別のツールバーを表示、または、非表示にすることができます。

ツールバーの表示 をオンとオフに切り替える方法:

1. メニューオプション[表示 | ツールバー]を選択します。
2. 切り替えをオンとオフするツールバーの名前をクリックします。

ステータスバー

[ステータスバー] コマンドはSchemaAgent Client 内のステータスバーの表示をオンとオフに切り替えます。

ステータスバーの表示をオンとオフに切り替える方法

- メニューオプション[表示 | ステータスバー]を選択します。

4.9.4 レイアウトメニュー

[レイアウトメニュー] はデザインの外観を変更するための多種の機能を提供します。

グリッドの表示

[グリッドの表示]  (Alt+G) コマンドを使用して、アクティブなデザインウィンドウのためのグリッドの表示をオフとオンに切り替えることができます。各デザインウィンドウのためにグリッドを表示、または、非表示することができます。

グリッドにあわせる

グリッドが表示されていると[グリッドにあわせる]  コマンドを使用して、スキーマの左上と左端をグリッド上のMFD ファイルボックスにあわせることができます。

ズーム

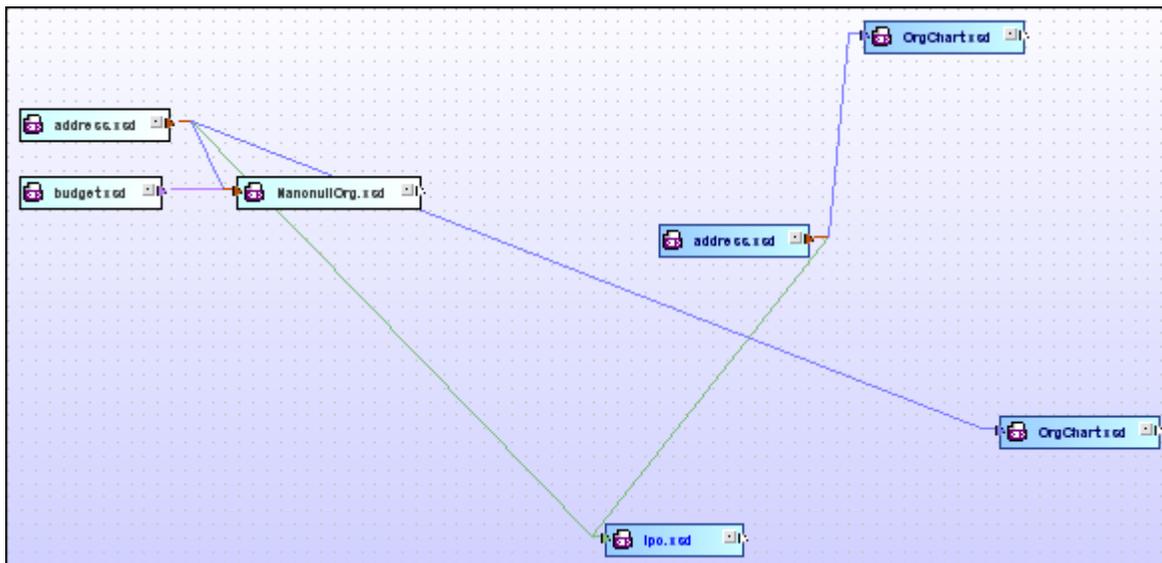
[ズーム] サブメニューは、デザインビューのズームインとアウトのためのコマンド、および、全てのファイルボックス、または、デザインウィンドウ内で表示される選択されたファイルボックスのズームを調整するコマンドを提供します。定義済みの値の一つズームを調整する場合は、メニューの下の選択オプションから一つ選んでください。

ズーム 	ズームを調整、または、特定のズームの倍率にスライダーを使用できる箇所(ズーム) ダイアログボックスを表示します。
画面に合わせる 	スクロールすることなく、アクティブなデザイン内に存在する全てのファイルボックスがデザインウィンドウ内で表示されるようにズーム機能を調整します。
選択対象に合わせる 	スクロールすることなく、デザイン内の選択された全てのファイルボックスがデザインウィンドウ内で表示されるようにズーム機能を調整します。

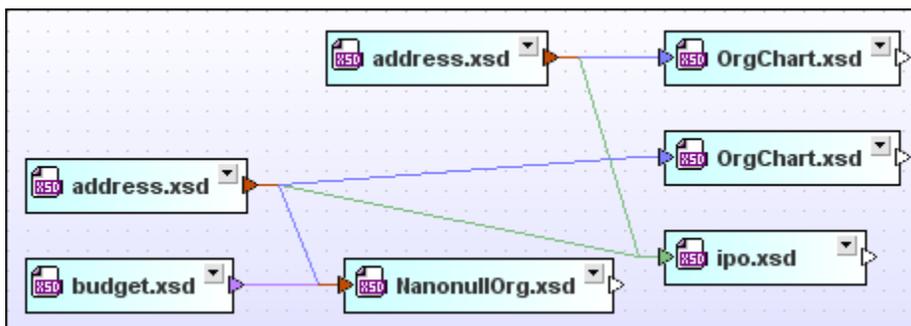
レイアウト

[レイアウト] サブメニューを使用して、デザインウィンドウ内のファイルボックスの自動的なレイアウトを促進するコマンドを提供します。

向きの強制 	向きを強制したアルゴリズムを使用して、デザインウィンドウ内でファイルボックスを自動的にレイアウトします。すべてのファイルボックスを表示するには、[レイアウト 画面にあわせてズーム] コマンドを使用します。
階層構造 	階層型のファイルボックスがレイアウトされます。



向きを強制したレイアウト



階層構造レイアウト

端へ整列

[端を揃えて整列] サブメニューによりデザインウィンドウのグリッド上で選択されたファイルボックスを揃えることができます。揃えるためのファイルを選択するときは、全てのファイルがフォーカスされるファイルボックスに揃えられるため、フォーカスがファイルボックスの右側に存在することを確認してください。

 左寄せ (Ctrl+Left)	選択されたファイルボックスを左端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で左端にそろえられます。
 右寄せ (Ctrl+Right)	選択されたファイルボックスを右端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で右端にそろえられます。
 上寄せ (Ctrl+Up)	選択されたファイルボックスを上端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で上端にそろえられます。

 下寄せ (Ctrl+Down)	選択されたファイルボックスを下端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で下端にそろえられます。
 垂直方向中央に並べて配置	選択されたファイルボックスを垂直方向に中央に揃えます。フォーカスされるファイルボックスの位置で選択されたファイルボックスのは垂直方向に中央に並べられます。
 水平方向中央に並べて配置	選択されたファイルボックスを垂直方向に中央に揃えます。フォーカスされるファイルボックスの位置で選択されたファイルボックスのは水平方向に中央に並べられます。

1列に並べる

[1列に並べる] サブメニューにより、することができます。選択されたファイルボックスを垂直方向、または、水平方向に1列に並べることができます。フォーカスされたアイテムの右側に並べることができます。

 垂直方向 (Alt+Down)	フォーカスを持つファイルボックスの左下に選択されたファイルボックスを垂直方向の行に整理します。
 水平方向 (Alt+Right)	フォーカスを持つファイルボックスの右上に選択されたファイルボックスを水平方向の行に整理します。

順序

[順序] サブメニューを使用して、選択されたファイルボックスをファイルボックスのスタックの最前面に、または、最背面に移動することができます。

 最前面へ移動	ファイルボックスのスタックの上に選択されたファイルボックスを表示します。
 最背面へ移動	ファイルボックスのスタックの下に選択されたファイルボックスを表示します。

サイズの変更

[サイズ変更] サブメニューにて、デザインファイルの視覚的な外観を統一するオプションを使用することができます。フォーカスを設定する際、右側のファイルが選択されていることを確認してください。すべての選択されたファイルは、フォーカスを持つファイルのディメンションを継承します。

 同じ幅に	フォーカスされたファイルボックスの幅を全ての選択されたファイルボックスに適用します。
 同じ高さ	フォーカスされたファイルボックスの高さを全ての選択されたファイルボックスに適用します。
 同じ大きさに	フォーカスされたファイルボックスの幅と高さを全ての選択されたファイルボックスに適用します。

均等

[均等] サブメニューにより、選択された一連のファイルボックスを均等に選択範囲の端にあわせ上下左右にそれぞれ配置することができます。このコマンドを使用して後に垂直方向および水平方向のランスを作成することができます。

 垂直方向 (Ctrl+Alt+Down)	1番上と下のファイルボックス間にあるファイルが均等な距離に配置されるように、選択されたファイルを整理して配置します。
 水平方向 (Ctrl+Alt+Right)	1番右端と左端のファイルボックス間にあるファイルが均等な距離に配置されるように、選択されたファイルを整理して配置します。

並べ替え

[並べ替え] サブメニューによりファイルボックスを名前、または幅により並べ替えることができます。選択されたファイルボックスのポジション(すなわち、上と左の端)は[昇順]、または[降順] コマンドが使用される場合でも変更されません。

 昇順 名前	選択されたファイルボックスは、ファイル名別にAを最初としてアルファベット順に並べ替えられます。
 昇順 幅	選択されたファイルボックスは、最も幅の狭いファイルボックスを上、最も幅の広いファイルボックスを下にして幅別に並べ替えられます。
 降順 名前	選択されたファイルボックスは、ファイル名別にZを最初としてアルファベット順に並べ替えられます。
 降順 幅	選択されたファイルボックスは、最も幅の広いファイルボックスを上、最も幅の狭いファイルボックスを下にして幅別に並べ替えられます。

4.9.5 拡張機能メニュー

[拡張機能] メニュー内でSchemaAgent Server に接続し、検索ノイズを再ロードし、選択された、またはすべてのスキーマボックスのためのゴーストスキーマへの参照ノイズを修正します。

サーバーに接続

[サーバーへの接続]  コマンドはSchemaAgent サーバーに接続することができるSchemaAgent Server ダイアログボックスを開きます。

検索ノイズの再ロード

[検索ノイズの再ロード]  コマンドにより検索ノイズ上のファイル(または検索ノイズ自身が)が変更されるとアプリケーションの視覚的なユーザーインターフェイスをアップデートすることができるようになります。検索ノイズの再ロードを参照してください。

参照ノイズの修正

[参照ノイズの修正]  (Ctrl+R) コマンドは見つからない参照されたファイルのために代替の場所を検索しようと試みます。[拡張機能] メニュー内でこのコマンドを有効化するために警告  アイコンを持つスキーマボックスをデザインウィンドウ、またはエクスプローラー内で選択する必要があります。ゴーストスキーマと正確ではないノイズを参照してください。

全ての参照ノイズを修正

全ての参照ノイズの修正  コマンドは見つけることのできるすべての参照されるファイルのために代替の場所を検索しようと試みます。複数のノイズの修正を参照してください。

4.9.6 ツールメニュー

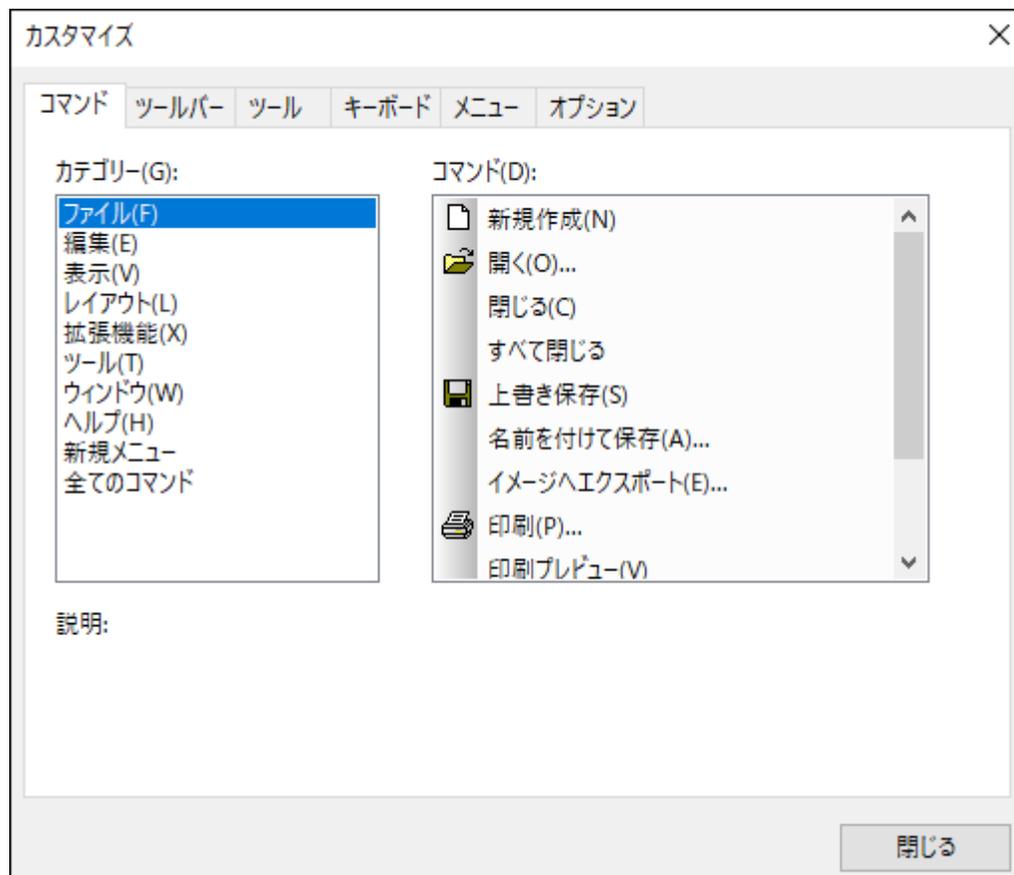
[ツール]メニューにより SchemaAgent Client のバージョンをカスタマイズし、グローバルなプログラム設定を定義することができます。

4.9.6.1 カスタマイズ

[カスタマイズ] コマンドを使用すると SchemaAgent Client を必要に応じてカスタマイズすることができます。

4.9.6.1.1 コマンド

「コマンド」タブを使用して、メニューまたはツールバーをカスタマイズすることができます。



ツールバー、または、メニューコマンドを追加する方法:

1. メニューオプション「ツール| カスタマイズ」を選択します。カスタマイズダイアログボックスが表示されます。
2. カテゴリリストボックス内で、[全てのコマンド] カテゴリを選択します。使用することのできるコマンドは、コマンドリストボックス内に表示されます。

3. [コマンド]リストボックス内のコマンドをクリックして、既存のメニューまたはツールバーにドラッグします。コマンドをドロップ可能な箇所にカーソルをポイントすると、I-ビームが表示されます。
4. コマンドを挿入する箇所でマウスボタンをリリースします。
 - コマンドをドラッグすると、マスの先に小さなアイコンが表示されます。ポインターの下の[x]は現在のカーソルの位置にコマンドをドロップできないことを意味します。
 - (ツールバー、またはメニューでコマンドをドロップできる箇所では、“x”は消えます。
 - ドラッグ中にカーソルをメニューにわざと開かれ、メニュー内にコマンドを挿入することができます。
 - コマンドは、メニュー、またはツールバー内に配置することができます。自身のツールバーが作成できている場合、自身のコマンド/アイコンを使用して作成することができます。

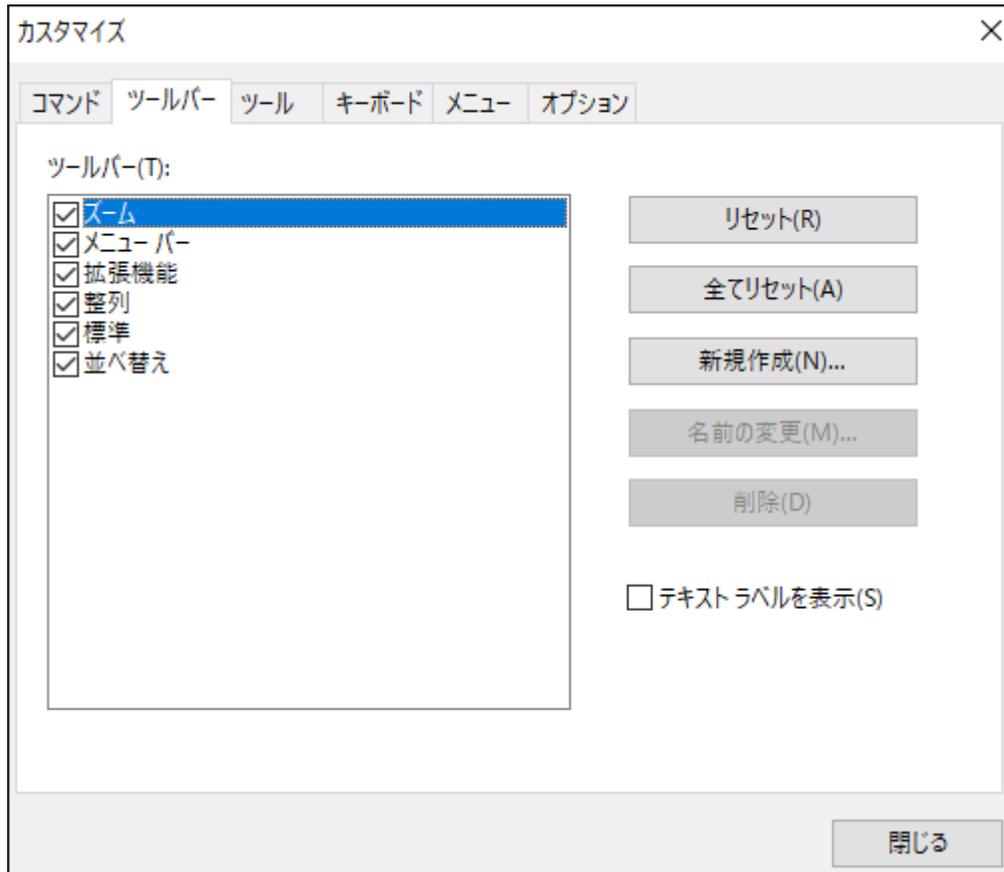
メモ (コンテキストメニューを開くため右クリック)と同じメソッドを使用してコンテキストメニュー(内のコマンドを編集することができます。メニュータブをクリック、コンテキストメニューコンボボックス内で使用することのできる特定のコンテキストメニューを選択します。

4.9.6.1.2 ツールバー

[ツールバー] タブにより、特定のツールバーを有効化、または無効化し、自身の特別なツールバーを作成することができます。

SchemaAgent Client ツールバーには、最も頻繁に使用されるメニューコマンドのためのシンボルが含まれています。取得される各シンボルには、短い説明が表示され、マスのカーソルが直接アイテムとステータスバーにポイントされると、コマンドの更に詳細な記述が表示されます。

標準のポジションからフロート状態のウィンドウとして表示されているツールバーをスクリーン上のロケーションにドラッグすることができます。または、メインウィンドウの左側、または右側の端に固定することができます。



[テキストラベルの表示] オプションを選択してツールバーアイコンの下に説明を表示します。それぞれのツールバーのためこのオプションを選択、またはクリアすることができます。

ツールバーを有効化、または、無効化する方法:

- 特定のツールバーに対応するチェックボックスをクリックまたはクリアします。

新規のツールバーを作成する方法:

1. [新規作成...] ボタンをクリックし、表示されるダイアログボックスに名前を入力します。
2. [カスタマイズ] ダイアログボックスの「コマンド」タブ内のツールバーコマンドをドラッグします。

メニューバーをリセットする方法:

1. メニューバーエントリをクリックします。
2. [リセット] ボタンをクリックし、メニューコマンドを SchemaAgent Client がインストールされた状態にリセットします。

すべてのツールバーとメニューコマンドをリセットする方法:

1. [全てをリセット] ボタンをクリックして、すべてのツールバーコマンドをプログラムがインストールされた状態にリセットします。ツールバーとメニューがリセットすることを通知するダイアログボックスが表示されます。
2. [はい] をクリックして、リセットを確認します。

ツールバー名を変更する方法:

- [名前の変更...] ボタンをクリックして、ツールバーの名前を編集します。

このオプションは、ユーザー定義ツールバーのためのみ使用することができます。

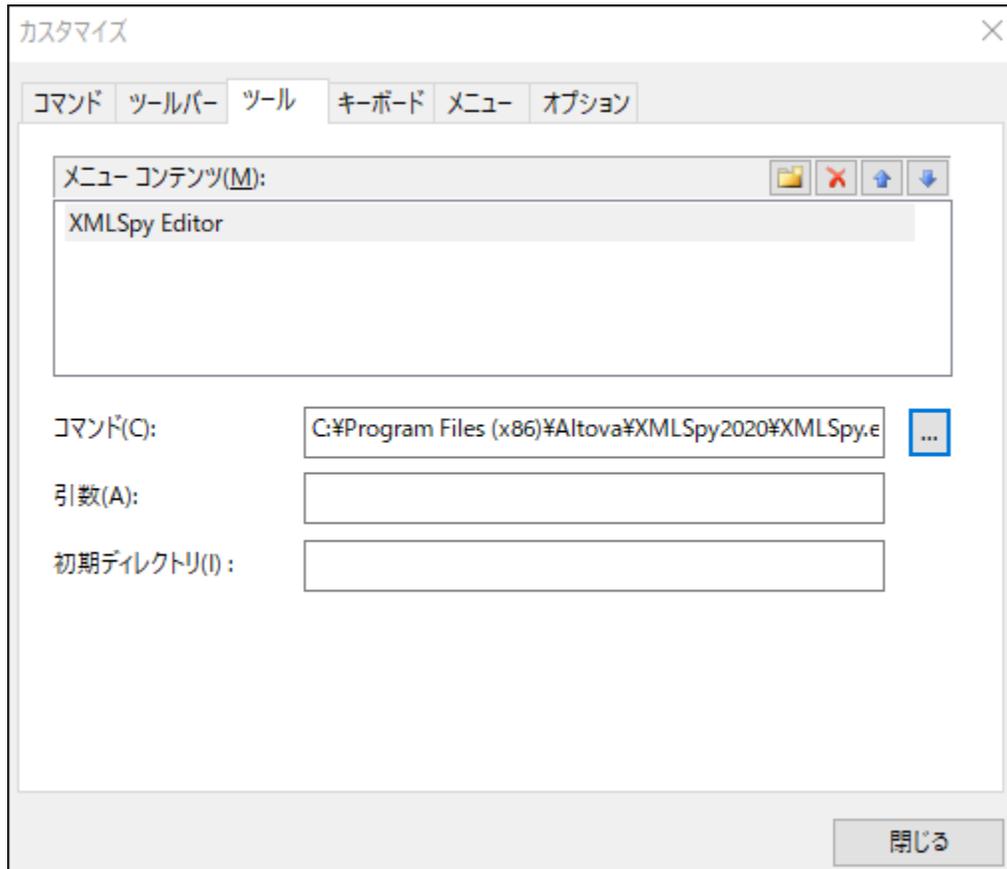
ツールバーを削除する方法:

1. ツールバーリストボックス内で削除するツールバーを選択します。
2. [削除] ボタンをクリックします。メッセージボックスが表示され、ツールバーの削除を確認します。
3. [はい] をクリックして削除を確認します。

このオプションは、ユーザー定義ツールバーのためのみ使用することができます。

4.9.6.1.3 ツール

[ツール] タブを使用して、例えば[ツール] メニューに他のアプリケーションをリンクするなど、パーソナルなメニューアイテムを追加することができます。ユーザー定義エントリは[ツール] メニュー内の標準のメニューアイテムの上に表示されます。



ユーザー定義ツールの追加方法:

1. [新規作成]  アイコンをメニューコンテンツタイトルバー内でクリック、または [挿入] キーを押します。
2. 表示されるテキストフィールド内で、メニューエントリとして表示される文字列をツールメニューに入力します。
3. [コマンド] フィールド内で、アプリケーションの実行可能ファイルパスを入力し、または、参照ボタンを使用してパスを選択します。
4. 適用できる場合、[引数] フィールド内にアプリケーションを開始するために必要な引数を入力します。
5. 適用可能な場合、ツールを初期化する際に現在の(最初の)ディレクトリとして使用されるディレクトリへのパスを入力します。

ユーザー定義ツールのシーケンスを変更する方法:

- エントリを選択し、[アイテムを上へ移動]  と [アイテムを下へ移動]  ボタンを使用して、メニューアイテムを移動します。または、エントリを移動するためにショートカットキー [Alt+Up] と [Alt+Down] を使用することができます。

ユーザー定義メニューアイテムの名前の変更方法:

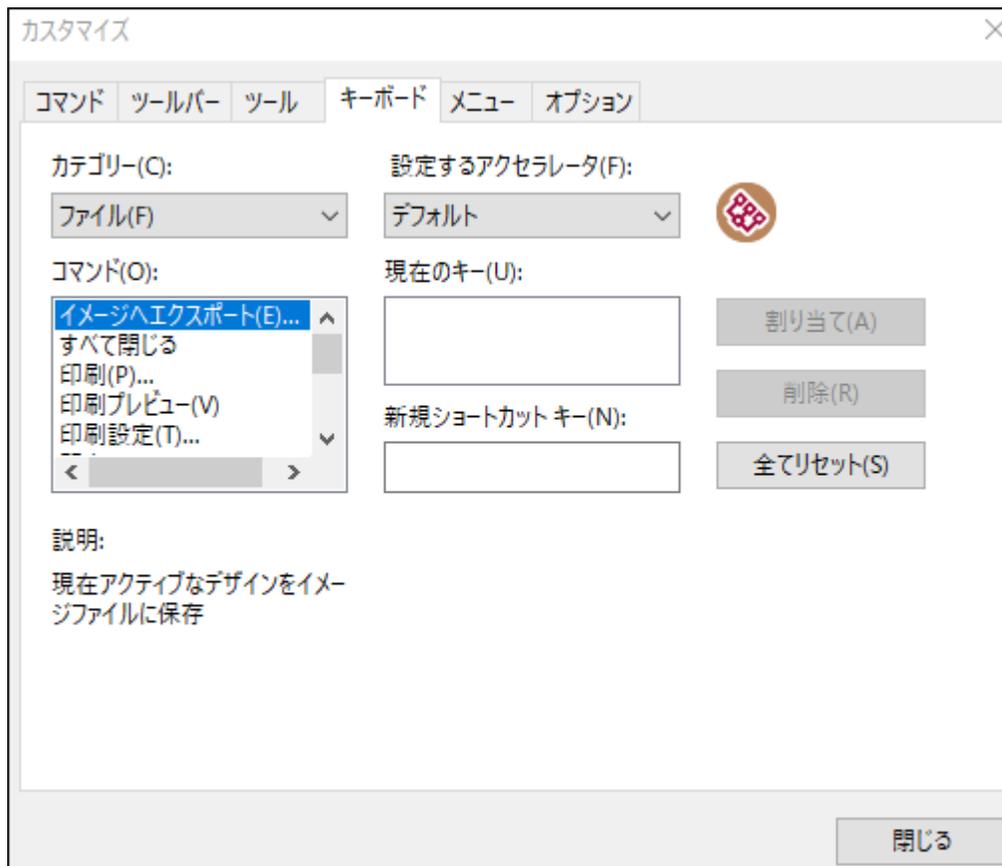
- [メニューコンテンツ] フィールド内のアイテムをダブルクリックし、エントリを編集します。

ユーザー定義ツールの削除方法:

- [ツール] メニューから削除するエントリを選択し、[削除]  アイコンをメニューコンテンツタイトルバー内でクリック、または [削除] キーを押します。

4.9.6.1.4 キーボード

[キーボード] タブにより SchemaAgent Client コマンドのためにキーボード ショートカットを定義(または、変更)することができます。



コマンドに新規のショートカットを割り当てる方法:

1. 全てのコマンド カテゴリをカテゴリドロップダウンリストから選択します。
2. ドロップダウンリストのためにアクセラレーターを設定する で適用できる場合以下の一つを選択します:
 - デフォルト - デザインウィンドウが開かれているかどうかにかかわらずこのオプションによりショートカットを開くまたは閉じることができます。
 - SchemaAgent デザイン - ショートカットはデザインが開かれている場合のみ作動します。
3. コマンド リストボックス内で新しいショートカットを割り当てるコマンドを選択します。

4. 新規のショートカットキーテキストボックスをクリックして、コマンドを有効化するためのショートカットキーを押します。ショートカットは、テキストボックス内に表示されます。ショートカットが前に割り当てられている場合、その関数はテキストボックスの下に表示されません。
5. 割り当て ボタンをクリックしてショートカットを割り当てます。ショートカットが現在のキーリストボックス内に表示されます。(テキストボックスをクリアするには、コントロールキー、**Ctrl**、**Alt** または **Shift** の一つを押します)。

ショートカットを再度割り当てる、または、削除する

1. 現在のキーリストボックス内で削除するショートカットをクリックします。
2. [削除] ボタンをクリックします。
3. [閉じる] ボタンをクリックして確認します。

すべてのショートカットキーをリセットする

1. プログラムがインストールされた時の状態に全てのショートカットキーをリセットするために、「全てをリセット」ボタンをクリックします。ツールバーとメニューがリセットすることを通知するプロンプトが表示されます。
2. 「はい」をクリックして、リセットを確認します。

以下のテーブルは現在割り当てられているキーボードショートカットをキーおよび機能別リストしています。

キー別のホットキー

ショートカット	コマンド名
F1	ヘルプ
削除	削除
Shift+Delete	切り取り
Ctrl+Insert	コピー
Shift+Insert	貼り付け
Ctrl+Down	下寄せ
Alt+Down	垂直方向に1列に並べる
Ctrl+Alt+Down	垂直方向に均等に並べる
Ctrl+Left	左寄せ
Ctrl+Right	右寄せ
Alt+Right	水平方向に1列に並べる
Ctrl+Alt+Right	水平方向に均等に並べる
Ctrl+Up	上寄せ
Ctrl+A	すべて選択
Ctrl+C	コピー

Ctrl+N	新規作成
Ctrl+O	開く
Ctrl+P	印刷
Ctrl+R	参照パスの修正
Ctrl+S	保存
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+X	切り取り
Alt+G	グリッドの表示

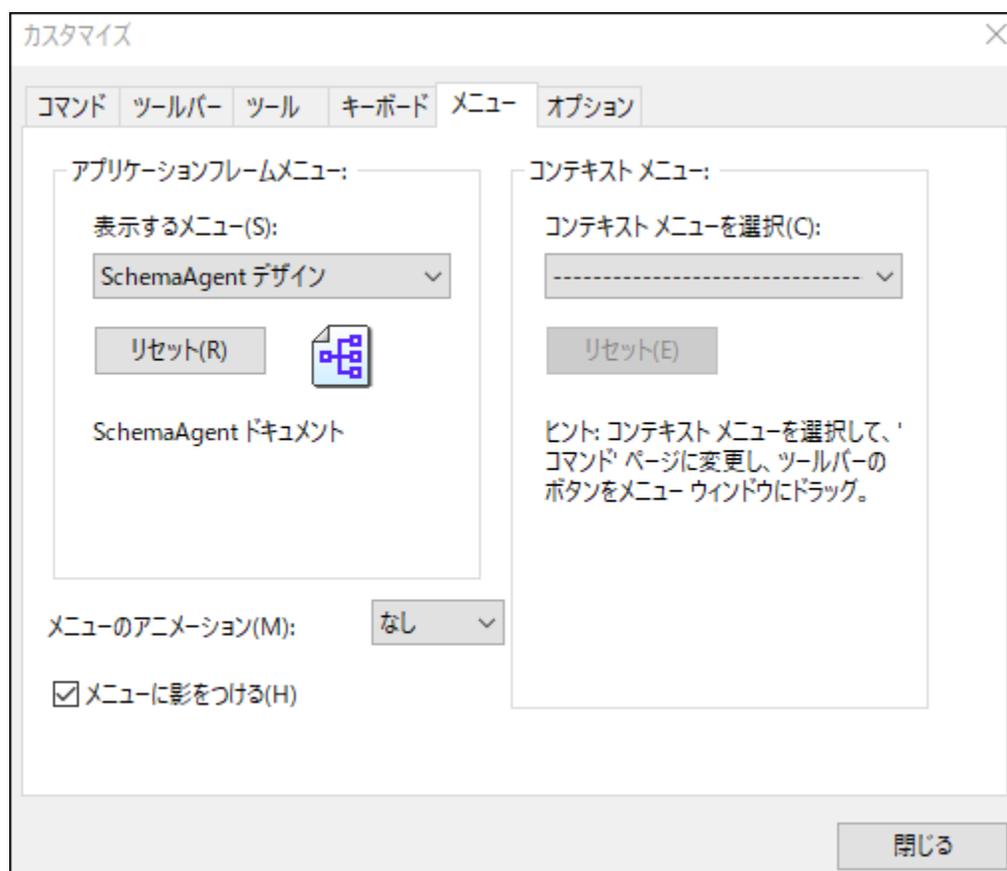
機能別のホットキー

コマンド名	ショートカット	代替ショートカット
下寄せ	Ctrl+Down	
左寄せ	Ctrl+Left	
右寄せ	Ctrl+Right	
上寄せ	Ctrl+Up	
コピー	Ctrl+C	Ctrl+Insert
参照パスの修正	Ctrl+R	
切り取り	Ctrl+X	Shift+Delete
削除	削除	
ヘルプ	F1	
水平方向に1列に並べる	Alt+Right	
垂直方向に1列に並べる	Alt+Down	
新規作成	Ctrl+N	
開く	Ctrl+O	
貼り付け	Ctrl+V	Shift+Insert
印刷	Ctrl+P	
保存	Ctrl+S	
すべて選択	ショートカット	

コマンド名	ショートカット	代替ショートカット
グリッドの表示	Alt+G	
水平方向に均等に並べる	Ctrl+Alt+Right	
垂直方向に均等に並べる	Ctrl+Alt+Down	

4.9.6.1.5 メニュー

[メニュー] タブによりメニューバーとコンテキストメニューによりカスタマイズすることができます。



メニューをカスタム化する方法

[デフォルトメニュー] バーはデザインウィンドウが開かれていない場合に表示されるメニューバーです。[SchemaAgent デザイン] メニューバーは少なくとも1つのデザインウィンドウが開かれていると表示されるメニューバーです。各メニューバーを個別にカスタム化することができ、カスタム化の変更はお互いに影響を与えません。

メニューバーをカスタム化するには「メニューの表示」ドロップダウンリストから選択します。[コマンド] タブをクリックして [コマンド] リストからコマンドをメニューバーまたはメニューにドラッグします。

メニューからコマンドを削除しリセットする方法

メニュー内のメニューまたはコマンドを全て削除するには以下を行います:

1. カスタム化するメニューバーを[メニューの表示] ドロップダウンリストから選択します。
2. カスタム化ダイアログが開かれている状態で (i) アプリケーションのメニューバーから削除するメニュー、または (ii) これらのメニューの一つから削除するコマンドを選択します。
3. Either (i) メニューからメニューバーまたはメニューコマンドからドラッグし (ii) メニューまたはメニューコマンドを右クリックし [削除] を選択します。

[メニューの表示] ドロップダウンリストから選択し [リセット] ボタンをクリックしてメニューを元の状態にリセットすることができます。

アプリケーションのコンテキストメニューをカスタマイズする方法

コンテキストメニューはアプリケーションのインターフェイス内の特定のオブジェクトを右クリックすると表示されるメニューです。これらのコンテキストメニューのそれぞれは以下を行ってカスタマイズすることができます:

1. [コンテキストメニューの選択] ドロップダウンリストからコンテキストメニューを選択します。コンテキストメニューがポップアップされます。
2. [コマンド] タブをクリックします。
3. [コマンド] リストボックスからコマンドをコンテキストメニューにドラッグします。
4. コンテキストメニューからコマンドを削除するため、コンテキストメニュー内でそのコマンドを右クリックして [削除] を選択します。代わりに、コマンドをコンテキストメニューからドラッグします。

[コンテキストメニューの選択] ドロップダウンリスト 内で選択し [リセット] ボタンをクリックしてコンテキストメニューを初期のインストールの状態にします。

メニューとメニューの影

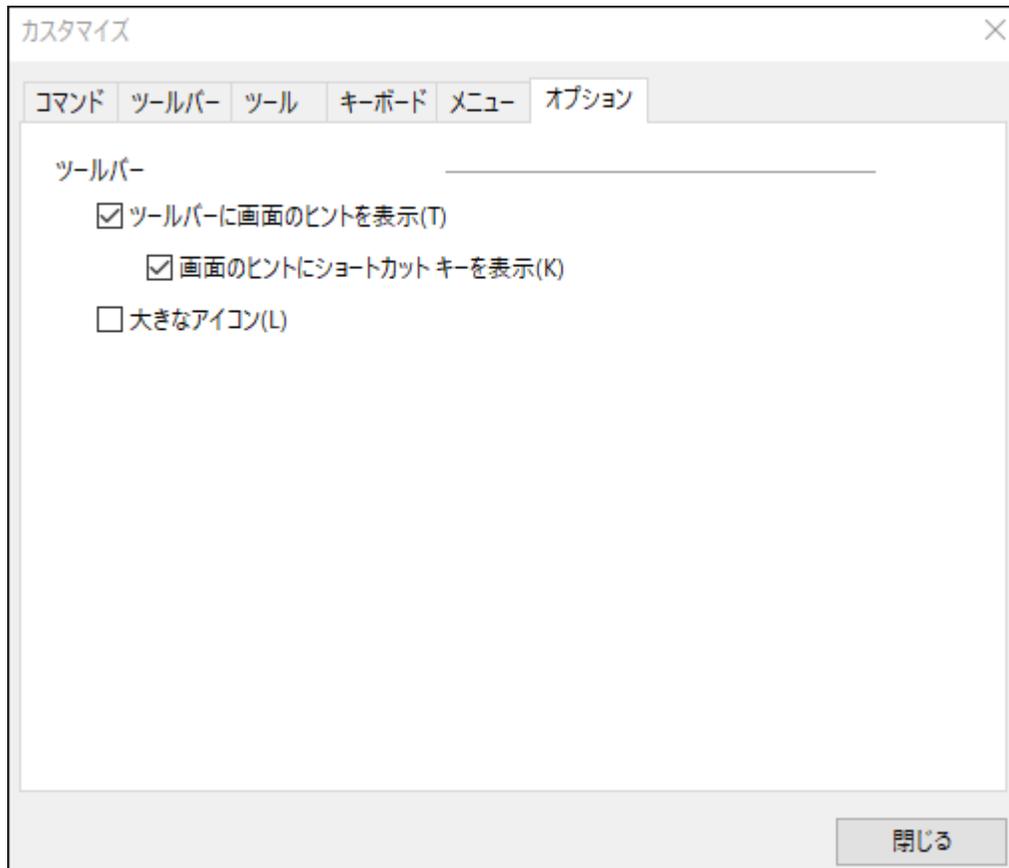
全てのメニューに影を与えるために [メニューの影] チェックボックスを選択します。

アニメーションされるメニューを希望する場合は、複数のメニューから選択することができます。[メニューのアニメーション] ドロップダウンボックスは次のオプションを提供します:

- なし (デフォルト)
- 展開
- スライド
- フェード

4.9.6.1.6 オプション

[オプション] タブにより一般的な環境 設定を設定することができます。



アクティブな場合、[ツールバーに画面のヒントを表示]チェックボックスは、アイコンバー内のアイコンにマウスポインターがポイントされるとヒントを表示します。ヒントには、アイコン機能の短い記述、存在する場合は関連付けられたキーボード ショートカットが表示されます。

[画面のヒントにショートカット キーを表示] チェックボックスにより、ヒント内にショートカットの作成を決定することができます。

アクティブな場合[大きいアイコン] チェックボックスにより、標準サイズのアイコンと大きなサイズのアイコンの間を切り替えることができます。

4.9.6.2 オプション...

[ツール|オプション] コマンドによりグローバルなアプリケーション 設定を定義することができます。これらの設定はタブされたダイアログボックス内で指定され、レジストリ内に保管されます。すべての現在と未来のドキュメント ウィンドウに適用されます。[適用] ボタンにより現在開かれているドキュメント への変更を表示することができます。

4.9.6.2.1 デザイン

デザイン タブにより、デザインウインドウ内でファイルボックスの表示方法をカスタマイズすることができます。

移動 & サイズ調整

リアルタイムのドラッグを有効化 チェックボックスが選択されていると、ファイルボックスのドラッグ中デザインは恒久的に描きなおされます。チェックボックスが選択されていない場合、ファイルボックスがドラッグ中に元の場所とどまり、マウスがリリースされた後このみ新規の位置に移動されます。ドラッグ中に、ファイルボックスの新規の位置が概要に表示されます。

[しきい値 (アイテム)] フィールド内に、ドラッグされる際にコンテンツと共に表示される選択されたファイルボックスの最大値を入力することができます。選択されたファイルボックスの数に制限がある場合、ドラッグ中に概要内で選択されたファイルボックスが表示されます。

グリッド

[グリッドの有効化] チェックボックスは、新規のデザインウインドウのデフォルトの外観を設定します。**[グリッド サイズ]** フィールドを使用して、グリッドの幅を定義します。

メモ 既に開かれているデザインウィンドウの設定はすぐに更新されません。アクティブなデザインウィンドウのためのグリッドを表示する場合は [グリッドの有効化/無効化]  ツールバーボタンをクリック、またはショートカットキー [Alt+G] を使用します。

コンポーネントリレーション

自動的に展開 チェックボックスが有効化されていると、SchemaAgent は、コンポーネントリレーションをクリックするとソースとターゲットコンポーネントの詳細ツリーを自動的に展開します。ソースとターゲットスキーマ内のグローバルなセクションは、コンポーネントのリレーションを確認するために展開される必要があります。

ラインアップと階層型レイアウト

ラインアップと階層型レイアウト グループボックス内で、それぞれ、ファイルボックスを整列、または、階層型タブレイアウトするためのデフォルトの水平方向と垂直方向のスペースを入力することができます。

サイズ

展開されると、デフォルトの展開された高さがファイルボックスの高さです。

デフォルトの挿入アクション

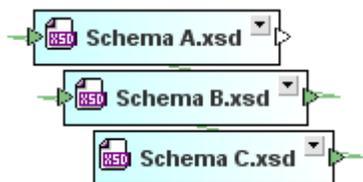
デフォルトの [アクションの挿入] ドロップダウンボックスは、デザインウィンドウドラッグされる際にデザインファイルを挿入するためのデフォルトのアクションを設定します。次のオプションを使用することができます: デフォルト 挿入アクションドロップダウンボックスから現在の選択に加え自動的にデザインに追加される依存するファイルの全てのカテゴリを選択することができます。デフォルトの値は 選択範囲のみです。

自動的なレイアウト

複数のファイル、または、フォルダー全体がデザインウィンドウドラッグされると、次のレイアウトのオプションを使用することができます:

- デフォルトのレイアウト
- 向きを強制したレイアウト
- 階層構造レイアウト

デフォルトのレイアウト オプションは、デザイン内でファイルボックスをアルファベット順に整理します。

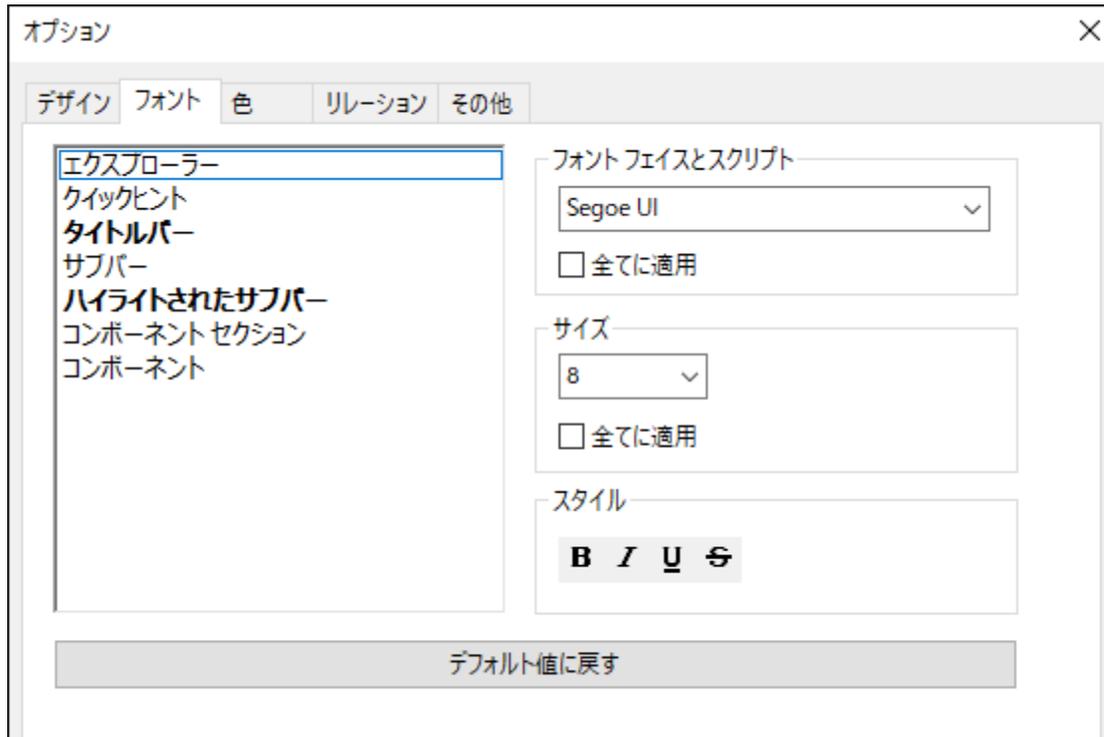


コンポーネントファイルパス

デザイン内のコンポーネントが .sad デザインファイルと相対的なパスと共に保存される場合、相対的なファイルパスの使用... チェックボックスを選択します。

4.9.6.2.2 フォント

フォント タブにより SchemaAgent デザイン内でテキストの概観をカスタマイズすることができます。デフォルトの設定を [デフォルトの値に戻す] ボタンをクリックして元に戻すことができます。



フォントフェイスとスクリプト

デザインビュー内の多種のアイテムの表示のために使用されるフォントフェイスとサイズを選択することができます。同じフォントは印刷にも使用されるため、実際に使用することのできるフォントのみが選択される必要があります。すべてのアイテムのために同じフォントを使用する場合[すべてに適用]チェックボックスをクリックします。

サイズ

必要とされるサイズを選択します。すべてのアイテムのために同じフォントサイズを使用する場合[すべてに適用]チェックボックスをクリックします。

スタイル

スタイルと色はこのグループボックス内のオプションを使用して設定することができます。現在の設定は左側のペイン内のリスト内ですぐに反映されるため、デザインをプレビューすることができます。

4.9.6.2.3 色

[色] タブにより、デザインウインドウ内で使用される色をカスタマイズすることができます。[デフォルトの値に戻す] ボタンをクリックするとデフォルトの設定を復元することができます。



背景色

このグループボックスにより、グラデーション背景とグラデーションの方向のための色を定義することができます。

コネクタの色

接続線の色 グループボックス内の色はファイルボックスの左右の矢印を指しています。空のコネクタと接続の複数の異なる型を組み合わせたコネクタのために異なる色を定義することができます。接続線の色 グループボックス内で接続線の色自身は定義されません。

フォントの色

SchemaAgent Client 内のテキストの異なる型のためにフォントの色を定義することができます。フォント自身とフォントサイズとスタイルはフォント タブ内で定義することができます。

配色

配色 グループボックスは、編集のために次を選択することのできるドロップダウンリストを提供します:

- XML スキーマ
- XML インスタンス
- スタイルシート変換
- Web サービス記述
- MapForce デザイン

個別のグループボックスはタイトルバーのための色を変更できる箇所でファイルボックスの個別のセクションのタイトルであるサブバーのための色が選択されていなく、または、選択済みの場合使用することができます。

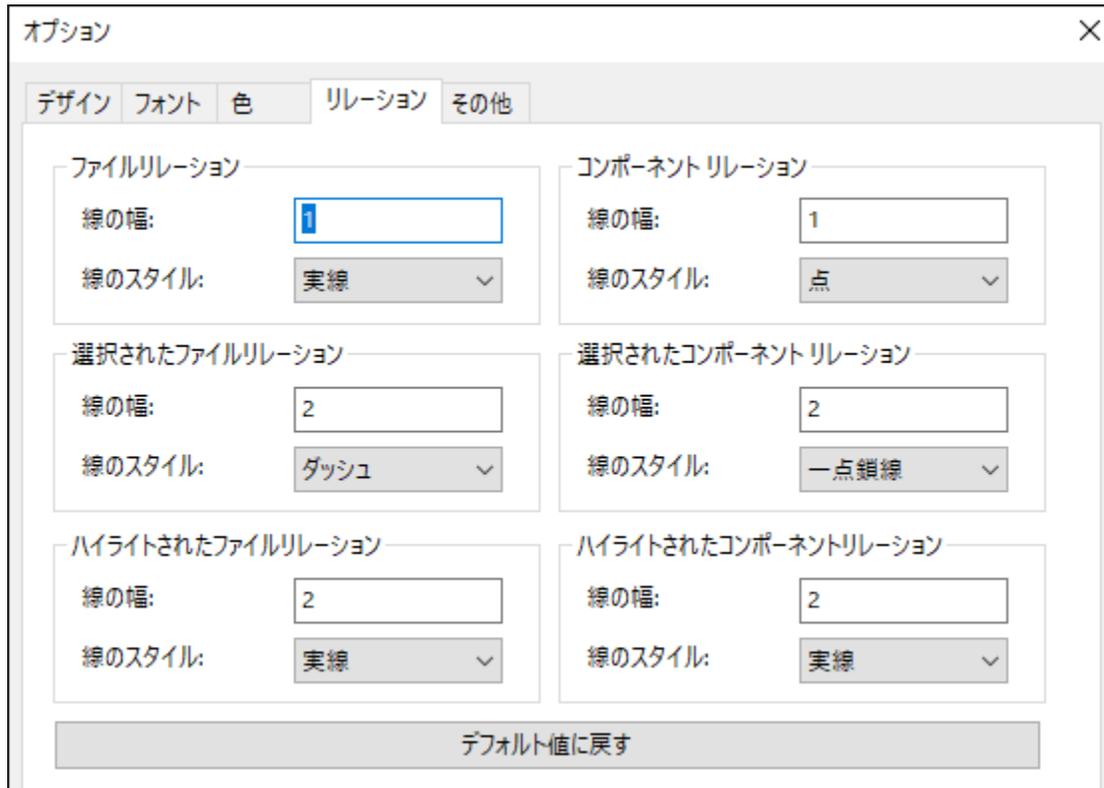
接続の色

接続の色 グループボックスは接続線自身を参照します。配色ドロップダウンリスト内の選択により、異なるオプションを使用することができます:

- XML スキーマ インクルード、インポート、再定義
- XML インスタンス スキーマ、スタイルシート
- スタイルシートの変換 インクルード スタイルシート、スタイルシートのインポート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ
- Web サービス記述 WSDL のインポート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ
- MapForce デザイン スキーマ、インスタンス WSDL

4.9.6.2.4 リレーション

[リレーション] タブにより SchemaAgent デザイン。内のファイルボックス間の接続線の外観をカスタム化することができます。[デフォルトの値に戻す] ボタンをクリックしてデフォルトの設定を復元することができます。



次の状態のファイルとコンポーネントのリレーションのために線の幅と線のスタイルを定義することができます

- 通常の状態
- 選択された状態
- ハイライトされた状態

線の幅に関しては、1 から 10 の間の整数を使用することができます。

4.9.6.2.5 その他

その他タブで起動、シャットダウン、および キャッシュのオプションを定義することができます。



SchemaAgent LocalServer

SchemaAgent LocalServer を Windows 起動フォルダーに追加するためユーザーがログインする際に起動(スタートアップフォルダーに追加)チェックボックスを選択します。この場合、ユーザーが Windows にログインする都度、SchemaAgent LocalServer が開始されます。

最後のクライアントの切断時にシャットダウン チェックボックスを選択すると、SchemaAgent Client から最後のクライアントが切断されると、SchemaAgent LocalServer は自動的にシャットダウンされます。

SchemaAgent のグローバルとコンポーネントのキャッシュ

使用することのできるサーバーのそれぞれのために、データがキャッシュされるか定義することができます。データが SchemaAgent サーバーによりキャッシュされる場合、更に多くのメモリが使用され、通信周波数が低くなります。

4.9.7 ウィンドウメニュー

SchemaAgent Client セッション内で個別のウィンドウを整理するためにウィンドウメニューに Windows アプリケーションに一般的に共通の標準のコマンドが含まれています。

重ねて表示

[重ねて表示]  コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウ(重ねて)整理します。

水平方向に並べて表示

[水平方向に並べて表示]  コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを[水平方向の分割]として整理し、同時に、視覚化します。

垂直方向に並べて表示

[垂直方向に並べて表示]  コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを[垂直方向の分割]として整理し、同時に、視覚化します。

現在開かれているウィンドウのリスト

このリストは現在開かれているすべてのウィンドウを表示し、ウィンドウ間で素早く切り替えることができます。[Ctrl+Tab] または [Ctrl+F6] キーボードショートカットを使用して、開かれているウィンドウを循環することができます。

4.9.8 ヘルプメニュー

▼ 目次

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに目次を表示した、Application の画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。目次のエントリをクリックしてトピックに移動することができます。

▼ インデックス

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインにキーワード インデックスを表示したApplication の画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。インデックスはキーワードをリストし、キーワードをダブルクリックすることでトピックへ移動することができます。キーワードが一つ以上のトピックにリンクされている場合は、トピックのリストが表示されます。

▼ 検索

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに検索ダイアログを表示したApplication の画面上のヘルプマニュアルを開きます。単語を検索するには、入力フィールドに検索対象を入力して、(i) 「Return」を押す、または(ii) 「トピックのリスト」をクリックします。を押します。ヘルプシステムは、ヘルプドキュメント全体で全文検索を行いヒットしたリストを返します。アイテムを表示するたびにアイテムをダブルクリックします。

▼ ソフトウェアのライセンス認証

☐ 説明

Altova 製品ソフトウェアをダウンロードすると、無料評価キーまたはご購入されたライセンスキーを使用して、製品にライセンスを供与、または、ライセンスの認証を行うことができます。

- **無料 評価ライセンス**初めて製品のダウンロードとインストールを行うと、ソフトウェアライセンス認証ダイアログが表示されます。ダイアログでは無料 評価 ライセンスをリクエストすることができます。ユーザーの名前、所属会社名、そして電

子メールアドレスが表示されるダイアログに入力し、リクエストをクリックします。ライセンスファイルが入力された電子メールアドレスに送信されます。この手順は数分を要します。ライセンスファイルを適切な場所に保存します。リクエストをクリックすると、リクエストダイアログの下に入力フィールドが表示されます。このフィールドはライセンスファイルのパスを取ります。ライセンスファイルを参照またはライセンスファイルへのパスを入力し「OK」をクリックします。（「ソフトウェアのライセンス認証ダイアログ」内で「新規のライセンスをアップロードする」をクリックしてライセンスファイルへのパスを入力するダイアログにアクセスすることができます。）ソフトウェアは30日の間アンロックされます。

- 永続的なライセンスキー: ソフトウェアライセンス認証ダイアログには永続的なライセンスキーを購入するためのボタンが含まれています。このボタンをクリックすると、製品の永続的なライセンスキーを購入することのできる Altova オンラインショップに移動することができます。受信する電子メールはライセンスデータを含むライセンスファイルの書式で送信されています。3つの種類の永続的なライセンスが存在します: インストール済み、同時使用ユーザー、名前を持つユーザー。インストール済みのライセンスは単一のコンピュータ上のソフトウェアのロックを解除します。インストール済みのライセンスをN台のコンピュータのために購入するとN台までのコンピュータ上でソフトウェアを使用することができます。同時使用ユーザーライセンスはN人の同時使用ユーザーにN人のユーザーが同時にソフトウェアを使用することを許可します。（10N台のコンピュータにソフトウェアをインストールすることができます。）名前を持つユーザーライセンスは特定のユーザーがN台の異なるコンピュータ上でソフトウェアを使用することを許可します。ソフトウェアのライセンスを認証するときは「新規のライセンスをアップロードする」をクリックして表示されるダイアログ内でライセンスファイルを参照、またはライセンスファイルのパスを入力し「OK」をクリックします。

メモ 複数のユーザーライセンスのために各ユーザーは各自の名前を入力するようプロンプトされます。

ライセンスの電子メールと Altova 製品へのライセンス供与(有効化)の異なる方法

Altova から受信するライセンス電子メールにはライセンスファイルが添付ファイルとして含まれています。ライセンスファイルは .altova_licenses ファイル拡張子を有しています。

Altova 製品のライセンスを認証するには、以下のうち1つ行ってください!

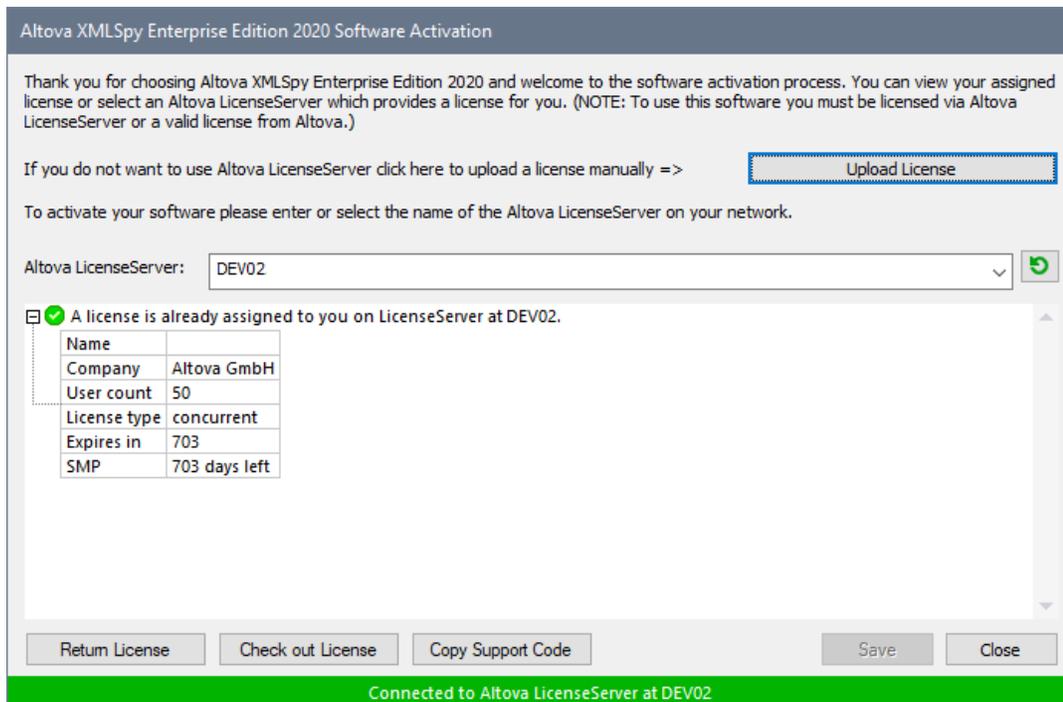
- 適切な場所にライセンスファイル(.altova_licenses)を保存し、ライセンスファイルをダブルクリックし、表示されるダイアログに必要な情報を入力し、「キーの適用」をクリックして完了します。
- ライセンスファイル(.altova_licenses)を適切な場所に保存します。Altova 製品内では、「ヘルプ | ライセンス登録メニューコマンド」を選択し、新規のライセンスをアップロードします。ライセンスファイルへのパスを入力し「OK」をクリックします。
- 適切な場所にライセンスファイル(.altova_licenses)を保存し、Altova LicenseServer のライセンスプールにアップロードします。以下を行うことができます: (i) 製品のソフトウェアライセンス認証ダイアログから Altova 製品からライセンスを取得します。(以下を参照)または(ii) Altova LicenseServer から製品へのライセンスを割り当てます。LicenseServer の使用の詳細に関しては、下記の外リンクを参照してください!

ソフトウェアライセンス認証ダイアログ(下のスクリーンショット)は、「ヘルプ | ソフトウェア アクティベーション」をクリックすることにより常にアクセスすることができます。

以下の方法によりソフトウェアをアクティブ化することができます:

- ソフトウェアライセンス認証ダイアログでライセンスを登録する方法。ダイアログ内で、「新規のライセンスをアップロード」をクリックして、ライセンスファイルを参照し選択します。「OK」をクリックしてライセンスファイルへのパスを確認し、複数のユーザーライセンスの場合は個人の名前です。「保存」をクリックして完了します。
- ネットワーク上の Altova LicenseServer を使用してライセンス供与する方法: ネットワーク上の Altova LicenseServer を使用してライセンスを取得するにはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログの下にある Altova LicenseServer を使用するをクリックします。使用する LicenseServer がインストールされているマシンを選択します。License Servers の自動検知は LAN 上で配信が送信されることを意味します。これらの配信がサブネットに制限されているため License Server は自動検知のためのクライアントマシンと同じサブネット上に存在する必

要があります。自動検知が作動しない場合、サーバーの名前を入力します。Altova LicenseServer はライセンスプール内で Altova 製品のためのライセンスを有している必要があります。LicenseServer プール内に存在する場合、ソフトウェアライセンス認証ダイアログ内に表示されます (Altova XMLSpy 内のダイアログで表示されている例を参照してください)。「保存」をクリックしてライセンスを取得します。



マシン固有のライセンスが LicenseServer からインストールされると、7日間、LicenseServer に戻すことができません。7日過ぎると、「ライセンスを戻す」をクリックしてマシンのライセンスを LicenseServer に戻すことができ、このライセンスは他のクライアントにより LicenseServer から取得することができます。LicenseServer 管理者は、LicenseServer の Web UI を使用して、取得されたライセンスの割り当てを解除することができます。ライセンスの返却は、マシン固有のライセンスのみ適用され、現在使用中のライセンスには適用されません。ご注意ください。

ライセンスのチェックアウト

ライセンスが製品マシン上に保管されるように、ライセンスをライセンスプールから 30 日間チェックアウトすることができます。これにより、オフラインで作業することが可能になります。この機能はとても役に立ちます。Altova LicenseServer にアクセスできない環境 (例えば、旅行中に Altova 製品がインストールされたラップトップコンピューターで作業する場合など) が挙げられます。ライセンスはチェックアウトされますが、LicenseServer は、ライセンスが使用中と表示し、ライセンスは他のマシンで使用することができません。ライセンスはチェックアウトの期間が終了すると自動的にチェックインされた状態に戻ります。または、チェックアウトされたライセンスはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログのボタンを使用して「チェックイン」することができます。

ライセンスをチェックアウトするには以下をおこないます: (i) ソフトウェアのライセンスの認証ダイアログで「ライセンスのチェックアウト」をクリックします (上のスクリーンショット参照)。 (ii) ライセンスのチェックアウトダイアログ内から、チェックアウトの期間を選択し、「チェックアウト」をクリックします。ライセンスがチェックアウトされます。ライセンスのチェックアウト後 2 つの状態が発生します: (i) ソフトウェアのライセンス認証ダイアログは時刻およびチェックアウトの期限を含むチェックアウトに関する情報を表示します。 (ii) ダイアログ内の「ライセンスのチェックアウト」ボタンは「チェックイン」ボタンに変更されます。「チェックイン」ボタンをクリックして、ライセンスをチェックインすることができます。チェックアウト期間の期限が切れると、ライセンスは自動的に「チェックイン」状態に戻されるため、選択したチェックアウトの期間がオフラインで作業する期間をカバーするように確認してください。

メモ ライセンスのチェックアウトを可能にするには、LicenseServer 上でチェックアウト機能が有効化されている必要があります。チェックアウトを試みる際にこの機能が有効化されていない場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、LicenseServer 管理者に連絡してください。

サポートコードのコピー

「サポートコードのコピー」をクリックして、ライセンスの詳細をグループポートにコピーしてください。これはオンラインサポートフォームを使用してサポートをリクエストする際に必要なデータです。

Altova LicenseServer を使用することにより、IT 管理者は、リアルタイムでネットワーク上の全てのライセンスの概要、および、クライアントの割り当てと、クライアントのライセンスの使用状況を確認することができます。LicenseServer を使用する利点は、ですから、多数の Altova ライセンスを管理することのできる管理機能です。Altova LicenseServer は、Altova Web サイトで無料で提供されています。Altova LicenseServer および Altova LicenseServer を使用したライセンスの供与に関する詳細は、Altova LicenseServer ドキュメントを参照してください。

▼ 注文フォーム

☐ 説明

ソフトウェア製品のライセンス許与バージョンを注文する準備が整っている場合、(前のセクション参照) ソフトウェアライセンス認証ダイアログ内の「永久ライセンスの購入」ボタン、または「注文フォーム」コマンドを使用して Altova オンラインショップで移動して注文することができます。

▼ 登録

☐ 説明

Altova 製品登録ページをブラウザのタブに表示します。Altova ソフトウェアを登録することにより、最新の製品の情報が得られます。

▼ 更新のチェック

☐ 説明

Altova サーバに接続して、より新しいバージョンの製品が利用可能かどうかチェック、その結果を表示します。

▼ サポートセンター

☐ 説明

インターネット上にある Altova サポートセンターへのリンクとなっています。サポートセンターには FAQ やディスカッションフォーラムが含まれており、問題の解決方法を探り、Altova の技術サポートスタッフへアクセスすることができます(現在英語のみの提供となります)。

▼ WEB 上の FAQ

☐ 説明

インターネット上にある Altova の FAQ へのリンクとなっています。FAQ データベースは Altova のサポートスタッフにより常時更新されています。

▼ コンポーネントのダウンロード

☐ 説明

インターネット上にある Altova のコンポーネントダウンロードセンターへのリンクとなっています。このリンク先から様々なコンポーネントソフトウェアをダウンロードして、Altova 製品とともに使用することができます。ソフトウェアコンポーネントは XSLT や XSL-FO プロセッサからアプリケーションサービスプラットフォームまで、幅広く提供されています。コンポーネントダウンロードセンターにてご利用いただけるソフトウェアは、通常無料でご利用いただけます。

▼ インターネット上の Application

☐ 説明

インターネット上にある Altova Web サイトへのリンクとなっています。Altova Web サイトでは Application や関連するテクノロジーについて確認することができます。

▼ Application について

☐ 説明

スプラッシュ画面と製品のバージョン番号が表示されます。Application の 64 ビットバージョンを使用している場合、これはアプリケーション名の後のサフィックス(x64) により示されています。32 ビットバージョンにはサフィックスは存在しません。

5 ライセンス情報

このセクションには以下の内容が含まれています:

- ソフトウェアの配布に関する情報
- ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測
- ソフトウェアの使用に関する使用許諾契約書

本製品を使用する前に、上記の情報をよくお読みください。ソフトウェアのインストール時に上記のすべての条件に同意したとみなされ、お客様は上記の条件に拘束されることを同意したとみなされます。

Altova ライセンスの内容を確認するには、Altova Web サイトのAltova 法的な情報のページに移動してください。

5.1 電子的なソフトウェアの配布

この製品は電子的なソフトウェアの配布により利用することが可能で、この配布方法により、以下のユニークなメリットがあります：

- 購入を決定する前に、無料でソフトウェアを試用することができます。(Note: Altova Mobile Together Designer に対してライセンスを無料で割り当てることができます)。
- Once ソフトウェアの購入を決定した際は、Altova Web サイトにて注文を行います。すぐにライセンス登録され、製品の使用を開始することができます。
- オンラインにて注文を行うと、常に最新のソフトウェアをご利用いただけます。
- 製品パッケージには包括的なヘルプシステムが画面上に表示されます。最新バージョンのユーザーマニュアルは <https://www.altova.com/ja/> 上にあり、(i) HTML フォーマットによる閲覧、ならびに(ii) PDF フォーマットのダウンロードと印刷に対応しております。

30日間の評価期間

この製品をダウンロードした後は、最大で30日の間無料で製品の評価を行うことができます。20日間を超えた頃から、製品がライセンス登録されていないことがソフトウェアより表示されます。このメッセージはアプリケーションが起動されるたびに表示され、30日間を超えてプログラムを使用する場合は、キーコードを含むライセンスファイルから提供される製品のライセンスを購入します。ライセンスファイルを製品のソフトウェアアクティベーションダイアログにアップロードして、製品をアンロックします。

<https://shop.altova.com/> でライセンスを購入することができます

組織内でソフトウェアの評価を行う

評価版のソフトウェアを組織内のネットワークにて配布した場合、またはインターネットに接続されていないコンピュータにてソフトウェアを使用する場合、どのような状態でも変更されていないことを条件に、セットアッププログラムでの配布を行うことが可能です。ソフトウェアインストーラーへアクセスした人は、例外なく30日間の評価ライセンスキーコードをリクエストして、試用期間が経過した後は、製品を使い続けるためにライセンスの購入を行う必要があります。

5.2 ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測

Altova のソフトウェアアクティベーションの一部として、ソフトウェアにより内部ネットワークまたはインターネットへの接続を行い、インストール時、登録時、Altova により使用されるライセンスサーバーの更新やライセンスの正当性を検証することで、ソフトウェアの不正な使用を防ぎ、顧客サービスを向上するため、ライセンスに関する情報を送信することもあります。アクティベーションにより、オペレーティングシステムや IP アドレス、日付/時刻、ソフトウェアのバージョン、コンピュータの名前などのライセンスに関する情報が、お使いのコンピュータと Altova ライセンスサーバー間にてやり取りされます。

お使いの Altova 製品にはライセンス計測モジュールが内蔵されており、エンドユーザー使用許諾契約書の意図しない違反を防ぎます。お使いの製品はシングルユーザーまたはマルチユーザーとしてインストールされており、ライセンス計測モジュールにより、ライセンスされている数を超えたユーザーが同時に製品を使用することが無いことが保証されます。

このライセンス計測技術により、ローカルエリア接続 (LAN) において、別々のコンピュータ間で動作しているアプリケーションインスタンス間の通信が行われます。

シングルライセンス

ライセンス計測プロセスの一部としてアプリケーションが起動すると、ソフトウェアにより短いデータグラムがブロードキャストにより送信され、同一のネットワークセグメントにある他のコンピュータにてプログラムが動作してないかのチェックが行われます。応答が無い場合は、アプリケーションの他インスタンスから送信される信号に反応するため、ポートが開かれます。

マルチユーザーライセンス

同一の LAN 内に 2 つ以上のアプリケーションインスタンスが使用された場合、スタートアップ時に、これらインスタンス間において通信が行われます。これらのインスタンス間にてキーコードのやりとりが行われ、購入された数のライセンスを超えてインスタンスが起動しないよう保証することができます。このようなライセンス計測システムは UNIX やデータベース開発ツールにて広く使用されているもので、Altova ユーザーはリーズナブルな価格にて同時使用マルチユーザーライセンスを購入することができます。

弊社はアプリケーションのデザインも行っており、少数の小さなネットワーク ネットを送信することで、ネットワークに対する負荷を最小限に抑えておきます。Altova により使用される 2799 番 TCP/IP ポートは IANA により公式登録されており (詳細は (IANA Web サイト (<http://www.iana.org/>) を参照ください)、弊社のライセンス計測モジュールは既にテストされたものです。

ファイアウォールを使用している場合、2799 番ポートにて Altova 製品が動作しているコンピュータ同士が通信しているのが気づかれるかも知れません。その他の手段によりライセンス使用許諾書の内容が守られることを保証できる限り、組織間の異なるグループにおいてこのようなトラフィックをブロックすることは勿論可能です。

証明書に関するメモ

Altova アプリケーションは HTTPS を介して Altova ライセンスサーバー (link.altova.com) に通信します。この通信のために Altova は登録済みの SSL 証明書を使用します。(例えば、社内 IT 部署または外部エージェントによりこの証明書が置き換えられている場合、使用中の Altova アプリケーションは接続が安全でないことを警告します。Altova アプリケーションを開始するため代替の証明書を使用することができますが、自己責任で行ってください。安全ではない接続の警告メッセージが表示されると、証明書の発行元を確認して (Altova 証明書の代替証明書の使用の継続または停止を決定することができる社内 IT チームと相談してください)。

(例えば、クライアントマシンへまたはクライアントマシンへの通信を監視するため) 自身の証明書の使用が必要な場合 Altova の無料管理ソフトウェアである Altova LicenseServer を使用中のネットワークにインストールすることが奨励されます。このセットアップでは Altova LicenseServer は Altova との通信のために Altova 証明書の使用を許可しつつクライアントマシンが所属機関の証明書の使用を継続することができます。

5.3 エンドユーザー使用許諾契約書

- Altova エンドユーザー使用許諾契約書: <http://www.altova.com/ja/legal/eula>
- Altova プライバシーポリシー: <http://www.altova.com/ja/privacy>

インデックス

C

Customizing,
SchemaAgent Client, 136

G

GUI,
SchemaAgent Client, 65
SchemaAgent Server, 56
エクスプローラー (SchemaAgent Client), 66
ツールバー (SchemaAgent Client), 68
デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
メニューバー (SchemaAgent Client), 68
概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67

I

IIR リレーションシップ,
デザイン, 126
ビュー, 90
移動, 127
更新のビュー (チュートリアル), 46
作成, 126
削除, 128
表示, 90
IIR リレーションシップの作成,
インクルード (チュートリアル), 27
インポート (チュートリアル), 30
チュートリアル, 27
再定義 (チュートリアル), 29

L

LocalServer,
以下に接続, 71

M

MapForce デザイン,
リレーションのビュー, 97
リレーションの表示, 97
入力/出力インスタンスの切り替え, 97
MapForce デザイン ファイル,
再ロード, 114
MapForce デザインファイル,
クイック情報, 104
作成, 72
削除, 75
挿入, 78
編集, 75
名前の変更, 74
Menu,
Help, 154
MFD ファイル,
クイック情報, 104
リレーションのビュー, 97
リレーションの表示, 97
再ロード, 114
作成, 72
削除, 75
挿入, 78
入力/出力インスタンスの切り替え, 97
編集, 75
名前の変更, 74
MFD ファイルボックス,
1列に並べる, 119
グリッド上での整列, 76
サイズの変更, 119
構造の折りたたみ, 83
構造の展開, 83
自動的なサイズ調整, 83
順序の変更, 119
整理, 83
整列, 119
SAD ファイル,
開く, 78

S

SAD ファイル,

- 作成, 78
- 閉じる, 78
- 保存, 78

SchemaAgent,

- SchemaAgent Server, 50
- クライアントドキュメント, 62
- チュートリアル, 21
- はじめに, 7
- 主要な機能, 11

SchemaAgent Client,

- customizing, 136
- GUI, 65
- LocalServer へ接続, 71
- SchemaAgent Server へ接続, 71
- インストール, 63
- インターフェイス, 65
- グラフィカルなユーザーインターフェイス, 65
- サーバーに接続, 70
- ユーザー インターフェイス, 65
- 開始, 64
- 概要, 62

SchemaAgent Server,

- GUI, 56
- インターフェイス, 56
- グラフィカルなユーザーインターフェイス, 56
- シャットダウン, 60
- ユーザー インターフェイス, 56
- 開始, 53
- 概要, 50
- 既存, 54, 60
- 接続, 71
- 非表示, 54
- 表示, 54

W**WDSL ファイル,**

- リレーションのビュー, 96
- リレーションの表示, 96

X**XML インスタンス,**

MFD 内で入力/出カインスタンスの切り替え, 97

- リレーションのビュー, 93
- リレーションの表示, 93

XMLSpy,

- クライアントとして (チュートリアル), 31
- 接続 (チュートリアル), 32

XSLT スタイルシート,

- リレーションのビュー, 94
- リレーションの表示, 94
- 順序の変更, 94

Z**インクルード,**

- XMLSpy のみを使用した型(チュートリアル), 42
- XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 33

インストール,

- SchemaAgent Client, 63
- SchemaAgent Server, 51
- コマンドラインの使用, 51

インターフェイス,

- SchemaAgent Client, 65
- SchemaAgent Server, 56
- エクスプローラー(SchemaAgent Client), 66
- ツールバー (SchemaAgent Client), 68
- デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
- メニューバー (SchemaAgent Client), 68
- 概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67

インポート,

- XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 39

ウィンドウ,

- エクスプローラー, 66
- デザイン, 67
- 概要, 67

エクスプローラーウィンドウ,

- オプション, 72
- コンテキストオプション, 72
- ディレクトリの作成, 72
- フラットタブ, 66
- 階層的なタブ, 66
- 新規ファイルの作成, 72

エクスポート,

- イメージとしてエクスポート, 125

エンドユーザー使用許諾契約書, 159, 162**オプション,**

- カスタマイズ, 146

- オプション,
 - コネクタのための, 122
 - その他, 153
 - デザイン, 147
 - フォント, 148
 - リレーション, 151
 - ログ, 60
 - 色, 149
- カスタマイズ,
 - SchemaAgent Design メニュー, 144
 - オプション, 146
 - キーボード, 141
 - コマンド, 136
 - コンテキストメニュー, 144
 - ショートカット, 141
 - デフォルトメニュー, 144
 - メニュー, 144
 - ルーツ, 139
 - 表示, 137, 146
- キーボード ショートカット,
 - 割り当て, 141
 - 割り当ての解除, 141
 - 全てリセット, 141
- クイック情報,
 - MapForce デザイン ファイルのための, 104
 - MFD ファイルのための, 104
 - コンポーネントリレーションのための, 104
 - スキーマのための, 104
 - ビュー, 104
 - リレーションのための, 104
 - 表示, 104
- グラフィカルなユーザーインターフェイス,
 - SchemaAgent Client, 65
 - SchemaAgent Server, 56
 - エクスプローラー(SchemaAgent Client), 66
 - ツールバー (SchemaAgent Client), 68
 - デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
 - メニューバー (SchemaAgent Client), 68
 - 概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
- グリッド,
 - 非表示, 76
 - 表示, 76
- ゴーストスキーマ,
 - 再作成, 113
 - 定義, 110
- コピー,
 - 選択, 108
- コンテキスト オプション,
 - デザイン ウィンドウ, 114
- コンテキストオプション,
 - エクスプローラー, 72
 - コネクタのための, 122
- コンポーネントのオリジン,
 - ビュー, 97
 - 表示, 97
- コンポーネントの使用法,
 - ビュー, 97
 - 表示, 97
- サーバー,
 - SchemaAgent Server, 71
 - ネットワークサーバー, 71
 - ローカルで作業, 71
 - 以下に接続, 70
- サイズの変更,
 - MFD ファイルボックス, 119
 - スキーマ ボックス, 119
 - ファイル ボックス, 119
- シャットダウン,
 - SchemaAgent Server, 60
- ショートカット,
 - 割り当て, 141
 - 割り当ての解除, 141
 - 全てリセット, 141
- ズーム, 76
- スキーマ, 75
 - クイック情報, 104
 - ゴーストスキーマ, 110
 - リレーションのビュー, 93
 - リレーションの表示, 93
 - 構成 ファイル, 84
 - 再ロード, 114
 - 作成, 72
 - 削除, 75
 - 挿入, 78
 - 表示 (チュートリアル), 27
 - 編集, 75
 - 未知のスキーマ, 75
 - 名前の変更, 74
- スキーマボックス,
 - 1列に並べる, 119
 - グリッド上での整列, 76
 - サイズの変更, 119
 - 構造の折りたたみ, 83
 - 構造の展開, 83
 - 自動的なサイズ調整, 83
 - 順序の変更, 119

- スキーマボックス,
 - 整列, 119
 - 配置, 83
- スタイルシート,
 - リレーションのビュー, 94
 - リレーションの表示, 94
- セットアップ, 22
- セットアップ SchemaAgent Client, 22
- ソフトウェア製品ライセンス, 162
- チュートリアル,
 - IIR リレーションシップの作成, 27
 - MapForce デザインファイルをビューする方法, 48
 - MFD ファイルをビューする方法, 48
 - SchemaAgent Server の開始, 22
 - XMLSpy に接続, 32
 - XMLSpy のみを使用したインクルード型, 42
 - インクルードの作成, 27
 - インクルード型, 33
 - インストール, 21
 - インポートの作成, 30
 - インポート型, 39
 - クライアントとして XMLSpy を使用する, 31
 - サーバーに接続, 22
 - サンプルファイル, 21
 - スキーマの表示, 27
 - セットアップ, 22
 - デザインウィンドウの作成, 27
 - ライセンス, 21
 - 概要, 21
 - 検索パス, 23
 - 検索パスの構成, 23
 - 更新されたリレーションシップのビュー, 46
 - 構成, 21
 - 再定義の作成, 29
 - 再定義型, 35
 - 再定義型の使用, 38
 - 要素をグローバルにする, 32
- ツールバー,
 - SchemaAgent Client, 68
 - アクティブ化, 137
 - カスタマイズ, 137
 - ツールバー, 60
 - リセット, 137
 - 作成, 137
 - 削除, 137
 - 名前の変更, 137
- ディレクトリ,
 - 作成, 72
 - 削除, 75
 - 名前の変更, 74
- デザイン,
 - IIR リレーションシップ, 126
 - イメージとしてデザイン, 125
 - リレーション, 126
 - 印刷, 124
 - 開く, 78
 - 作成, 78
 - 閉じる, 78
 - 保存, 78
- デザイン ウィンドウ,
 - オプション, 114
 - コンテキスト オプション, 114
- デザインウィンドウ, 67
 - MapForce デザイン ファイルの削除, 110
 - MapForce デザイン ファイルの挿入, 78
 - MapForce デザインファイルをビューする方法, 76
 - MFD ファイルの削除, 110
 - MFD ファイルの挿入, 78
 - MFD ファイルボックスのサイズを変更する, 119
 - MFD ファイルボックスの削除, 110
 - MFD ファイルボックスの順序の変更, 119
 - MFD ファイルボックスの整列, 119
 - MFD ファイルボックスを1列に並べる, 119
 - MFD ファイルをビューする方法, 76
 - ズームインとアウト, 76
 - スキーマの削除, 110
 - スキーマの挿入, 78
 - スキーマの表示, 76
 - スキーマボックスのサイズを変更する, 119
 - スキーマボックスの削除, 110
 - スキーマボックスの順序の変更, 119
 - スキーマボックスの配列, 119
 - スキーマボックスを1列に並べる, 119
- ナビゲーション, 83
- ファイルの削除, 110
- ファイルの挿入, 78
- ファイルの表示, 76
- ファイルボックスのサイズを変更する, 119
- ファイルボックスの削除, 110
- ファイルボックスの順序の変更, 119
- ファイルボックスの整理, 83
- ファイルボックスの整列, 119
- ファイルボックスを1列に並べる, 119
- フォルダーコンテンツの挿入, 78
- レイアウト, 119
- 開く (チュートリアル), 27

- デザインウィンドウ, 67
 - 階層的な, 119
 - 強制的な指示, 119
- ドキュメンテーション,
 - 概要, 9
- ナビゲーション,
 - デザインウィンドウ内, 83
- ハイライト,
 - IIR リレーションシップ, 90
 - コンポーネントリレーション, 90
 - リレーション, 90
 - 接続線, 90
- ビュー,
 - IIR リレーションシップ, 90
 - MapForce デザインファイル, 76, 100
 - MapForce デザインファイル(チュートリアル), 48
 - MapForce デザインリレーションシップ, 97
 - MFD ファイル, 76, 100
 - MFD ファイル(チュートリアル), 48
 - MFD ファイルリレーション, 97
 - WSDL リレーション, 96
 - XML インスタンス リレーション, 93
 - XML スキーマリレーションシップ, 93
 - XSLT スタイルシートリレーション, 94
 - クイック情報, 104
 - コンポーネントのオリジン, 97
 - コンポーネントの使用方法, 97
 - スキーマ, 76, 84
 - スキーマリレーション, 93
 - スタイルシートのリレーション, 94
 - デザインファイル(チュートリアル), 48
 - ファイル, 76
 - リレーション, 90
 - リレーションパス, 122
 - 関連したコンポーネント, 97
 - 更新リレーションシップ(チュートリアル), 46
 - 構成 ファイル, 19
- ファイル,
 - 再ロード, 114
 - 作成, 72
 - 削除, 75
 - 整列, 119
 - 名前の変更, 74
- ファイルボックス,
 - グリッド上での整列, 76
 - 配置, 83
 - 幅別に並べ替える, 122
 - 名前別に並べ替える, 122
- ファイル拡張子,
 - 検索パス内での考慮, 17
- フォーカス,
 - 設定, 108
 - 変更, 108
- フォルダー,
 - 作成, 72
 - 削除, 75
 - 名前の変更, 74
- プレビュー,
 - デザイン, 124
- ホットキー,
 - 割り当て, 141
 - 割り当ての解除, 141
 - 全てリセット, 141
- メニュー, 60
 - ウィンドウ, 153
 - ビュー, 60
 - ファイル, 60, 129
 - ヘルプ, 60
 - ルーツ, 136
 - レイアウト, 131
 - 拡張機能, 135
 - 設定, 60
 - 表示, 60, 131
 - 編集, 130
- メニューバー,
 - SchemaAgent Client, 68
- ユーザー インターフェイス,
 - SchemaAgent Client, 65
 - SchemaAgent Server, 56
 - エクスプローラー(SchemaAgent Client), 66
 - ツールバー (SchemaAgent Client), 68
 - デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
 - メニューバー (SchemaAgent Client), 68
 - 概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 67
- ユーザー レファレンス,
 - SchemaAgent Server, 60
- ライセンス, 162
 - 情報, 159
- ライセンス計測,
 - Altova 製品にて, 161
- リセット,
 - キーボードショートカット, 141
 - コンテキストメニュー, 144
 - ショートカット, 141
 - すべてのツールバー, 137
 - ホットキー, 141

- リセット,
 - メニューバー, 144
 - 検索パス, 19
 - 表示, 137
- リレーション,
 - MapForce デザインリレーションシップ, 97
 - MFD ファイルリレーション, 97
 - WSDL ファイル, 96
 - XML インスタンス, 93
 - XML スキーマ, 93
 - XSLT スタイルシート, 94
 - スキーマ, 93
 - スタイルシート, 94
 - デザイン, 126
 - ビュー, 90
 - リンクされている, 82
 - 間接的に参照された, 81
 - 間接的に参照する, 81
 - 直接参照された, 80
 - 直接参照する, 80
 - 表示, 90
- リレーションシップ,
 - インクルード (チュートリアル), 27
 - インポート (チュートリアル), 30
 - 更新のビュー (チュートリアル), 46
 - 再定義 (チュートリアル), 29
 - 作成 (チュートリアル), 27
- リンクされている ファイル, 82
- ルーツ,
 - カスタマイズ, 139
 - シーケンスの変更, 139
 - ユーザー定義の削除, 139
 - ユーザー定義の追加, 139
 - ユーザー定義の名前の変更, 139
- 移動,
 - IIR リレーションシップ, 127
 - リレーション, 127
- 印刷,
 - デザイン, 124
- 開く,
 - SAD ファイル, 78
 - デザイン, 78
 - デザインウィンドウ(チュートリアル), 27
- 開始,
 - SchemaAgent Client, 64
 - SchemaAgent Server, 53
- 概要 ウィンドウ, 67
- 割り当て,
 - キーボードショートカット, 141
 - ショートカット, 141
 - ホットキー, 141
- 割り当ての解除,
 - キーボードショートカット, 141
 - ショートカット, 141
 - ホットキー, 141
- 関連したコンポーネント,
 - ビュー, 97
 - 表示, 97
- 既存,
 - SchemaAgent Server, 54, 60
- 検索パス,
 - チュートリアル, 23
 - リセット, 19
 - 構成, 13
 - 再ロード, 18
 - 追加, 15
 - 編集, 15
- 構成,
 - SchemaAgent Server GUI, 58
 - ファイル拡張子, 17
 - ログ, 60
 - ログオブション, 58
 - 検索パス, 13
- 構成 ファイル,
 - ビュー, 19
 - ロケーション, 19
- 再ロード,
 - MapForce デザイン ファイル, 114
 - MFD ファイル, 114
 - スキーマ, 114
 - ファイル, 114
 - 検索パス, 18
- 再作成,
 - ゴーストスキーマ, 113
- 再定義,
 - XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 35
- 作成,
 - IIR (チュートリアル), 27
 - IIR リレーションシップ, 126
 - MapForce デザインファイル, 72
 - MFD ファイル, 72
 - SAD ファイル, 78
 - インクルード (チュートリアル), 27
 - インポート (チュートリアル), 30
 - スキーマ, 72
 - ディレクトリ, 72

作成,

- デザイン, 78
- ファイル, 72
- フォルダー, 72
- リレーション, 126
- リレーションシップ (チュートリアル), 27
- 再定義 (チュートリアル), 29
- 表示, 137

削除, 110

- IIR リレーション, 122
- IIR リレーションシップ, 128
- MapForce デザインファイル, 75, 110
- MFD ファイル, 75, 110
- MFD ファイルボックス, 110
- コンテキストメニューからのコマンド, 144
- スキーマ, 75, 110
- スキーマ ボックス, 110
- ツールバー, 137
- ディレクトリ, 75
- デザインからの MapForce デザインファイル, 110
- デザインからの MFD ファイル, 110
- デザインからのスキーマ, 110
- デザインからのファイル, 110
- ファイル, 75, 110
- ファイル ボックス, 110
- フォルダー, 75
- メニューからのコマンド, 144
- ユーザー定義ツール, 139
- リレーション, 128
- リレーションシップ, 122
- 接続線, 122

参照されたファイル,

- 間接的, 81

試用期間,

- Altova ソフトウェア製品の試用, 160

修正,

- 参照パス, 111
- 正確ではないパス, 111

順序,

- XSLT に関連した, 94

整理,

- デザイン内のファイルボックス, 83

整列,

- MFD ファイルボックス, 119
- グリッド上のファイルボックス, 76
- スキーマ ボックス, 119
- デザイン内のファイル, 119

正確ではないパス, 110

接続,

- LocalServer へ, 71
- SchemaAgent Server へ, 71
- XMLSpy (チュートリアル), 32
- サーバーに, 70

選択,

- IIR リレーションシップ, 90
- MapForce デザインファイル, 108
- MFD ファイル, 108
- コピー, 108
- コンポーネントリレーション, 90
- スキーマ, 108
- ソース, 122
- ターゲット, 122
- ファイル, 108
- リレーション, 90
- 関連した ファイル, 108
- 接続線, 90
- 貼り付け, 108
- 同期, 108
- 複数のファイル, 108

挿入,

- MapForce デザインファイル, 78
- MFD ファイル, 78
- スキーマ, 78
- ファイル, 78
- フォルダーコンテンツ, 78
- リンクされている ファイル, 79
- 関連した MapForce デザイン ファイル, 79
- 関連した MFD ファイル, 79
- 関連した スキーマ, 79
- 関連した ファイル, 79
- 参照された ファイル, 79
- 直接 参照された ファイル, 79

著作権に関する情報, 159

直接参照されたファイル,

- ディレクトリ, 80
- 間接的, 81
- 参照された ファイル, 80

追加,

- コマンド, 136
- ユーザー定義ツール, 139
- 検索パス, 15

貼り付け,

- 選択, 108

同期の選択, 108

配布,

- Altova ソフトウェア製品, 159

- 配布,
 - Altova ソフトウェア製品の配布, 160
- 非表示,
 - SchemaAgent Server, 54
 - グリッド, 76
- 表示, 90
 - IIR リレーションシップ, 90
 - MapForce デザインファイル, 100
 - MapForce デザインリレーションシップ, 97
 - MFD ファイル, 100
 - MFD ファイルリレーション, 97
 - SchemaAgent Server, 54
 - WSDL リレーション, 96
 - XML インスタンス リレーション, 93
 - XML スキーマリレーションシップ, 93
 - XSLT リレーション, 94
 - クイック情報, 104
 - グリッド, 76
 - コンポーネントのオリジン, 97
 - コンポーネントの使用法, 97
 - スキーマ (チュートリアル), 27
 - スキーマリレーション, 93
 - スタイルシートのリレーション, 94
 - リレーション, 90
 - リレーションパス, 122
 - 関連したコンポーネント, 97
- 評価機関,
 - Altova ソフトウェア製品, 159
- 並べ替える,
 - ファイル ボックス, 122
 - 幅別, 122
 - 名前別, 122
- 閉じる,
 - SAD ファイル, 78
 - コンテキストメニューウィンドウ, 144
 - デザイン, 78
- 変更,
 - MFD ファイルボックスの順序, 119
 - XSLT に関連した順序, 94
 - スキーマボックスの順序, 119
 - ツールバーの名前, 137
 - ファイルボックスの順序, 119
 - フォーカス, 108
 - メニューの表示方法, 144
- 編集,
 - MapForce デザインファイル, 75
 - MFD ファイル, 75
 - スキーマ, 75
 - ファイル, 75
 - 検索パス, 15
- 保存,
 - SAD ファイル, 78
 - デザイン, 78
- 法的な情報, 159
- 未知のスキーマ, 75
- 名前の変更,
 - MapForce デザインファイル, 74
 - MFD ファイル, 74
 - スキーマ, 74
 - ツールバー, 137
 - ディレクトリ, 74
 - ファイル, 74
 - フォルダー, 74
 - ユーザー定義ツール, 139
- 有効化,
 - 表示, 137